西藩野史序

邦內舊藩鎮之古史據以可考證者敢非尠少也況如舊鹿兒島藩以島津家之世系聯綿涉五百歲至其盛時旌旗廣風靡殆伯于西方其史乘亦自可資考證者頗多矣是以鹿兒島縣私立教育會曩計蒐集縣內所存之古史以同志豫約漸次上之于梓先始以西藩野史而今

九州威望

剞劂告其成自今勉焉至達初志歟可謂
益其政教廣且大矣聊以序于卷端爾云

明治二十九年九月一日

從四位勳四等子爵加納久宜

緒言

本邦古來の史乘其の正史たると野史たると戎間ほゞ種類敢て少きにあらざるも史家のうの蘊奥を參照せんとするには其の材料を求むるに汲々たる皆人れ知るところなり然るども社會興廢存亡の恒ならざると天災時變の圖られざるとゐより州郡藏るところの史乘も遂に湮滅に屬して其跡を絶つに至るもの亦敢て少しとせず殊に明治維新各藩鎭版籍奉還せしより以降ハ舊來うの保管に依て僅に部曲乃記事の存するものさへ塵芥と共に放擲せしものもまゝ之きおきにあらざるべし是れ識者の恒に慨嘆措く能はざる所なり然るに舊鹿兒島藩乃

如きは鎌倉時代より以降島津家れ系統聯綿とゝして漸く盛に從てゝ乃旌旗の靡く所獨三州に留らず施て九州の全部に及ぼすをも時にこれ有りきされば舊藩乃史乘に於ても數郡まゝゝ一藩に止らず見るべきも乃素より隘しとせず獨如何せん其の史乘たるゝつきも梓に上りたるもの稀にして爲に有數の謄本たれを歳月の重り行くまに〳〵終には蠹魚の腹中に埋れんとするの恐れまゝこきあきわらず本會は大に之を慨し順次之を印刷に附してその湮滅を防かんとの策を取り特に委員を設くるをとなり我等乏を之に承けしに素より謄本のをにしあれば各家藏する所により其の所說自一ならざるもの

往々これあるを以て更にこれか調査を遂けんとて聊分任せしところもありつきど各自公務わ鞅掌するものゝみなれば急に之を終らんともまゝ期す可らざるにより今は止むを得ず多數中の一部により先つ之を梓に上するをゝはなしぬされど異日本會に於て特わ編輯部を設くるの餘裕あるわ至らば更わ精細の査定を遂けて上梓するところあるや知るべきなり本書の如きは從一位故島津久光公手擇の書わよりしものなれど謄寫または印刷の際わ於て敢て魯魚の誤なきを保すべからす見ん人願くは高見戎報せられんをと戎

明治廿九年九月一日

教育會

古史出版委員

緒言終

公式令
皇祖○皇祖妣○皇考○皇妣○先帝○天子○天皇○皇帝○陛下○至尊○大上天皇○天皇ノ睦○太皇○太后○太皇○太妃○皇太后○皇太妃○皇后○
右十一行平出
平出ハ皇朝ノ御定ナリ
基頭ハ漢土ノ定ナリ
公式令ハ大社○陵號○乘輿○車駕○詔書○勅旨○明詔○聖化○天恩○慈旨○中宮○御
右闕字

西藩野史序

創業固リ難ク守文モ亦易カラス三代ハ措テ論セス秦ヨリ次降漢家四百年最モ長シ猶中葉王氏ガ亂アリテ劉氏殆絶ントス我　朝ノ　皇統ハ是ヲ說カス武家政ヲ執ルニ至テハ足利氏實ニ長シ然トモ歷世軟弱絶サルヿ線ノ如シ我　高祖侯始テ封ヲ三州ニ受シヨリ西藩ニ虎踞シ天下ニ藩屏シ六百年一日ノ如シ綿々繩々誰カ類ヲ爭ハンヤ實ニ怡謀燕翼ノ德繩武憲章ノ功ニアラスヤ流遠シテ源ノ深ヲ知リ末盛ニシテ本ノ固ヲ識ル嗚呼盛哉然トイヘモ國史ハ官ニ秘シテ常ノ士讀ムアタハス所謂創業守文ノ功德邈トシテ世ヲ隔タルカ如シ昭成童ニシテ此ニ

感スルヿアリ謭劣ヲ顧ミス疎庸ヲ辭セス民間行ル、所ノ野史稗說讀ニ從テ蒐輯シ廣訪旁搜シ年ヲ經テ殺青就ル家庭ニ貽シ童蒙ニ授ク敢テ歡美ヲ務メ世ニ表見スルニアラス故ニ人ニ示シ質正ヲ請フニ意ナシ特ニ昭カ子弟ヲシテ歷世ノ功ヲ憶ヒ德ヲ感シ心ニ貫キ骨ニ鏤シ犬馬ノ報忽畧セサラン事ヲ庶幾フノミ寶曆戊辰冬十一月得能通昭題ス

凡例

一全編記スル處詳審ナランヿヲ欲ス故ニ野史稗說覩稅僧徒田夫村老ノ說話ニ至ルマテ歷ク訪ヒ詳ニ聞キ是ヲ故老ノ說ニ校ヘ採摭シテ抄錄ス國史實錄ニ至テハ官庫ノ藏ル所ナレハ其官ニアラサレハ讀ムヿアタハス是ヲ以テ質正ノ功ヲ闕ク固リ淺見薄識ノ爲ル所牽合附會ヲ免レサルモノアラン必シモ信ヲ此書ニ取ルヘカラス

一首卷　清和帝ニ起テ賴朝公ニ終フ姓氏ノ由テ出ル所ヲ知ラシメント欲スルノミ故ニ歷世ヲ概記シ庶流ヲ畧シ務テ約ニ從フ然モ德川足利ノ二氏賴政義仲ノ類世ニ顯然タルハ附錄シテ他ノ庶蘖ニ準セス

一邦君ノ言行政治ノ要樞ニカヽルノ如キハ闕テ記セス其位ニアラスシテ事ヲ窺ヒ間ニ嫌有ハナリ然トイヘモ其嘉言善行世ノ龜鑑トスルニ足ルモノハ棄ルニ忍ヒス論越ノ罪ヲ忘ン分註ニ記シテ傳云トス妄ニ正文ニ載サルハ微意ヲ寓ストナリ

一伊貞昌上疏ノ如キ政治ニ懸ルヿタリトイヘモ偏ク世ノ稱スル處ニシテ名臣ノ忠言見ルニ足所アルヲ以全書ヲ載ス猶類ヲ需テ記セントス欲ス

一封內徇フ所ノ法令見ツヘキ者適予カ家記スル所ノ一二ヲ載ス異日歷ク訪テ悉記セントス

一諏兼利美清相カ　指館ヲ異スル倭歌ノ如キ邦君ノ仁風餘澤ヲ述ルニ足ルモノハ篇中ニ記ス

一俚語數字ヲ綴テ各傳ノ後ニ附述賛ノ類ニ非ストイヘ𪜈聊カ感懷ヲ述フトイフ

一全編繁雜ヲ厭フトイヘ𪜈又遺漏ナカンヿヲ欲ス故ニ正文ニ略シ分註ニ記スル𠃊多シ分註ニ數例アリ前後ニ繫ラザル瑣事ハ正文ニ省テ分註ニ載ス諸說ノ異同アルハ記シテ參考ニ備フ世ニ舊習スル謬說捨難キモノハ正文ニ記シテ分註ニ是ヲ辨ス名門右族ノ顯著ナルハソノ世統畧傳ヲ記ス

一雜史小說及ヒ街談ヲ引用ル必シモ出所ヲ記セス傳曰トス諸說ノ異同ヲ辨シ或ハ愚意ヲ附ルニハ私謂トシ按ニト記シテ舊說ニ混セス

一歷世篇ヲ分ツテ傳ヲ立ツルハ考索ニ便アラントナリ年ヲ編中ニ分ツハ前後ノ誤リナカラシメンカ爲ナリ漫ニ古人記傳編年ニ擬スルニアラス

一年ヲ逐テ事ヲ記スルトイヘ𪜈生誕薨折ノ年月ヲ記スルノ類ハ其傳中ニ記ス故ニ年ヲ以テスレハ在位ノ傳ニ闕タルカ如シ

一定山廟　齡岳廟ノ如キ世ヲ同フシテ位ニアリ兩朝アルカ如シ記事繫ル所ノ大小ニ由テ各傳ニ記ス故ニ年ヲ以考レハ闕失アルカ如シ通讀シテ可ナリ　貫明廟　松齡廟ノ如キハ然ラス　松齡廟伊東氏ヲ木崎原ニ破ルノ類　貫明廟ノ傳ニ記ス是其在位ノ傳ナレハナリ

一封內ノ事ニアラストイヘ𪜈邦君ノ事ニ顯ルハ略記ス濃州關ケ原ノ役ノ類東西鬪戰ヲ略記シテ　松齡廟ノ始末ヲ詳ニス餘ハ此ニ倣フ

一名山勝區神社佛寺其傳ヲ分註ス所謂緣記傳記ニ因テ畧記シ眞假ヲ辨セス異ヲ傳ヘ怪ヲ述ルヲ以テ罪スヘカラス

一城邑鄕村ノ故アルハ是ヲ分註ニ畧記シテ其大概ヲ知ラシム

一忠臣義士孝子節婦德行藝術及ヒ陶冶浮屠ニ至ルマテ世ニ顯著セルハ悉ク記セント欲ス今聞ク所ノ一二ヲ記シ猶他日ノ聞見ヲ待ツ

一宗家及ヒ支族ノ世系是ヲ圖シテ附錄ス繁雜ヲ厭フカ故ニ更ニ家ヲ樹テ連綿今ニ至ルノミヲ記ス其庶流ノ如キハ今寄合並以上ニ列スルヲ載ス

凡例終

西藩野史目次

清和天皇……一頁
貞純親王……仝頁
經基……二頁
滿仲……仝頁
頼信……三頁
頼義……四頁
義家……五頁
爲義……六頁
義朝……八頁
頼朝……九頁
元祖忠久公……一頁
二代忠時公……二頁
三代久經公……三頁
四代忠宗公……三頁
五代貞久公……三頁

六代師久公……五九頁
六代氏久公……六一頁
七代元久公……六七頁
八代久豐公……八一頁
九代忠國公……九七頁
十代立久公……一〇二頁
十一代忠昌公……一〇三頁
十二代忠治公……一一二頁
十三代忠隆公……一一三頁
十四代勝久公……一一五頁
十五代貴久公……一二七頁
十六代義久公……一六七頁
十七代義弘公……一
十八代家久公……六九頁
十九代光久公……一一五頁
二十代綱貴公……一五三頁

廿一代吉貴公……一六七頁
廿二代繼豐公……一九四頁
廿三代宗信公……二一三頁
廿四代重年公……二二六頁

目次終

引用書次

世祿記　倭漢合運
征韓錄　家忠日記
大系圖　三楠實錄
太閤記　聖榮自記
慶長記　本朝通記
奧義抄　百寮訓要
職原抄　庄內軍記
百敗卅　將軍家譜
亂道集　寬永系圖
大名寄　越州系圖
寺院疋　源平系圖
大平記　藤原系圖
名將車　雲上明鑑
編年記　知譜拙記
氏親記　島陰漁唱、

關東太平記
島津家物語
諸家大概記
三國援亂記
德河系圖傳
職原抄支流
木崎原傳記
日隅戰場記
島津家大概記
福昌寺年代記
木崎原合戰記
新撰諸家系圖
大重平六自記
淵邊元貞自記
伊藤玄宅自記

耳露叢　武野燭談　増補關原軍記
年譜傳　豐州系圖　日本王代一覽
九州記　羅山文集　西國太平記
嶋原記　鵜峰文集　薩摩兵乱記
日新記　整宇文集　北條五代記
今在記　南浦文集　伊作由來記
一宮記　斯文源流　神戸氏自記
一遍傳　新後撰集　黑木氏自記
神社考　續千載集　平山氏自記
和名抄　東鑑脫漏　本親盈傳記
延喜式　征韓附錄　關箇原實記
前太平記　保元物語　拾遺和歌集
後太平記　平治物語　本朝武林傳
續太平記　寶暦武鑑　本朝武將傳
朝鮮軍記　武家評林　本朝改元考
關原軍記　見聞筆錄　續武家閑談

御居城記　佐土原記　古今談話集
御戰場記　諸家傳記　武將感狀記
御恩德記　御詠歌集　支流系圖傳
薩陽軍記　琉球傳記　久國翁雜話
琉球軍記　倭爾雅　犬追物御覽記
寛明日記　海陸志　扶桑見聞私記
元寛日記　上使記　倭漢三才圖繪
神社緣記　東鑑　太平記參考
國鑒察記　古老物語　三州神社考
廟堂要覽　狩野系圖　諸家文獻
履祥隨筆　神祇拾遺　職原大全
釋日本記　舊事本記　三代實錄
續日本記　本朝文粹　神代口決
常市私記　日向風土記　姓氏錄
皇帝紀　先代舊事紀　日本紀

引用書次 終

世系

◎清和天皇 嘉祥三年三月廿五日御降誕 元慶四年十二月四日崩御

貞純親王 貞觀十五三廿三誕生 延喜十六五七薨四十四

經基 寛平五六十生又同二二十二生 天德五十一年薨六十九 天德二年六月十五日賜源氏朝臣ノ姓

滿仲 延喜十二四十生長德三八廿七卒八十六

頼光 天暦二生治安元七十九卒七十四

頼親 大和源氏祖 大和守

頼信 安和元十一廿九生永承三四十七卒八十一

頼義 長德元生永保二十一二卒八十八

義家 長暦二八十五生長治二八十八卒六十八

義宗 左兵衛尉早世

義親 對嶋守

義忠 河内守

義國 足利之祖 下野守

爲義

義朝 贈從二位内大臣

- 義平　惡源太
- 朝長　中宮進
- 賴朝公
  - 女子　清水冠者義隆室
  - 忠久公
    - 賴家
    - 貞曉法印
    - 女
    - 實朝
    - 忠時公
      - 忠綱　越前家祖
      - 忠直
      - 女
      - 女
      - 忠繼　山田氏祖
      - 久經公
        - 高久　中治大炊助
        - 女　三浦家林室
        - 忠康　式部少輔
        - 忠佐　左衛門尉
        - 久時　阿蘇谷氏祖
        - 忠經
          - 常陸介
          - 久氏　七郎

- 宗長　左京亮
- 忠繼　三郎兵衛尉
- 忠光　町田氏祖
- 俊忠　伊集院氏祖
- 忠宗公
  - 久長　伊作氏祖
  - 女
  - 貞久公
    - 忠氏　和泉家祖
    - 忠光　佐多氏祖、
    - 時久　新納氏祖
    - 資久　樋山氏祖
    - 資忠　北鄉氏祖
    - 久泰　石坂九郎左工門
    - 女
    - 女　伊作宗久室

- 賴久　川上氏祖
- 宗久
- 師久
- 氏久公
  - 僧守邦
  - 七女　共爲比丘尼
  - 女　伊作勝久室
  - 元久
  - 光久　四郎左工門
  - 氏忠　石坂氏祖
  - 三女
  - 久豐公
    - 女　伊集院賴久室
  - 忠國公
    - 女　伊集院熙久室
    - 女　薩州用久室
    - 女　新納忠續室
    - 友久　相模守
    - 立久公
      - 久逸　伊作氏後嗣
    - 用久　薩州家州
    - 李久　豐州家州
    - 有久　大嶋氏州
    - 豐久　志和知義岡二氏州
    - 僧

- 四女
- 勝久　桂氏祖
- 忠經　迫水氏祖
- 僧守棟　福昌寺九世
- 女　豐州家忠鹿室
- 忠弘　喜入氏祖
- 女　大嶋忠福室
- 女　早世
- 賴久　喜入氏後嗣
- 英功　廣濟寺住待
- 僧宗津　福昌寺十一世
- 忠治公
  - 忠隆
    - 勝久公

- 連久　相摸守一瓢
  - 忠良　相摸守日新實伊作善久子
    - 女　吉利忠將室
    - 女　佐多忠成室
  - 女　肝付河內守兼續室
  - 女　樺山善久室
  - 昔久公
    - 忠將　垂水佐土原侯祖
    - 女　種子嶋左近太夫時堯室更嫁肝付彈正兼盛
    - 尙久　宮城侯祖
    - 女　義久公前夫人
- 義久公
  - 女　薩州義虎室

- 義弘公
  - 歲久　日置侯祖
  - 家久　永吉侯祖
  - 女　豐州朝久室
  - 鶴壽丸　早也
  - 久保
  - 家久公
    - 万千代丸
    - 忠淸　佐志侯祖
    - 女　伊集院忠眞室後嫁下野守久元
    - 兵庫頭
    - 女　夭亡
    - 女　北鄕翁久室
    - 女　彈正久慶室
  - 女　守右衞門尉彰久室
  - 女　家久公夫人

女　種子嶋左近忠時室

光久公

忠朗　加治木侯祖

久直　北郷氏後嗣

女　早世

女　大和守久章室

忠廣　助之丞久前祖

忠尚　町田久幸後嗣

忠紀　又四郎久敏後嗣

重永　右近根占七郎重政養子

久雄　中務太補忠英養子

女　嶋津筑前守久頼室

正勝　藏人鎌田治部政統養子

女　肝付半兵衛兼屋室

女　天亡

女　中務久茂室

綱久公

女　右馬頭久雄室

女　初大膳久豫室更嫁美作久憲

女　兵庫頭久薫室

久定　北郷久直後嗣

忠長　北郷久定後嗣

久峯　又五郎久近養子

久達　佐多久利養子

久侶　又助忠清後嗣

女　左衛門忠與室

正長　出雲鎌田藏人正勝養子

女　入來院隼人重治室

忠智　北郷忠長後嗣

久亮　喜入忠長後嗣

久明　大藏久盛祖

久國　伊集院忠廣養子

忠心　下総常久後嗣

忠朝　伊集院久族養子

貞昭　兵部伊勢貞昌養子

久尚　櫨山久辰養子

女　夭亡

女　入來院石見重頼室

女　夭亡

女　夭亡

女　夭亡

女　圖書久竹室

女　北郷忠昭室

女　伊勢兵部貞顯室

女　圖書久洪室

久當　又六久岑後嗣

女　内記久文室

外記　早世

久記　頼母久馨祖

久祐　桂久常養子

女　織田因幡守信盛夫人

女　桂忠純室

女　曇山淡路阿多内膳忠槃養子

義扶　種子嶋彈正伊時初室

女　頼雄出膳久明室

女　肝付出膳兼柄室

女　種子嶋伊時後室

久重　入來院出馬又兵衛矩重養子

- 綱貴公
  - 女　酒井遠江守忠隆夫人
  - 六七　夭亡
  - 久任　又八郎久熙養子
  - 女　鳥井播广守忠救夫人
- 吉貴公
  - 女　近衛家久卿後籠中
  - 久房　求馬久醇父
  - 女　主水久輔室
  - 女　源次忠伴室
  - 久茂　壹岐久侶養子
  - 女　夭亡
  - 女　北鄉久嘉室
  - 久皎　稅所左門

- 養女　淡路守惟久夫人實圖書久洪女
- 嗣次郎　夭亡
- 忠英　花岡侯祖
- 忠直　玄蕃久憲後嗣
- 女　近衛家久卿前籠中
- 久晃　圖書久洪後嗣
- 女
- 清純　仙十郎稱寢丹波清雄養子
- 女　松平隱岐守定英室後離別
- 久東　將監久當養子
- 鍋保丸　早世
- 女　藤次郎久智室
- 女　町田久儔室
- 女　桂久音室
- 久福　仁十郎嶋津主水久輔養子
- 繼豐公
  - 養女　阿部伊勢守正襲室實鳥居忠救女
  - 女　夭亡
  - 忠五郎　夭亡
  - 貴儔　玄蕃忠直後嗣
  - 女　大學久尙室
  - 女　夭亡
  - 忠紀　越前家後嗣
  - 久亮　圖書久倫養子
  - 女　出雲久定室
  - 貴澄　玄蕃貴儔養子
  - 女　伊勢兵部貞矩室
  - 忠卿　和泉家後嗣
  - 女　早世
  - 忠温　忠卿後嗣

- 宗信公
  - 女　樺山久中室
  - 重年公　初兵庫久李後嗣後繼　宗信公立
    - 肝付主殿兼伯室
  - 女　市太夫久隆室
  - 久峯　李久豪養子
  - 女　松平修理太夫重政夫人
  - 女　早世
  - 定勝　石見入來院主馬養子
- 重豪公
  - 若狭島津氏
  - △忠季
    - 三方兵衛八文字民部太輔惟宗廣言子也
    - 忠經　賤間兵衛次郎

越前島津氏

- 重留家△忠綱
  - 四郎左衛門尉周防守忠久公第二子也
  - 忠行　三郎左衛門尉周防守
    - 行景　左衛門三郎
    - 忠經　五郎
    - 忠幹　左衛門六郎
    - 忠政　左衛門三郎
    - 忠藤　又五郎
    - 忠親　次郎靭負尉
    - 忠兼　五郎三郎三郎左衛門尉周防守
    - 範忠　五郎左工門尉
    - 忠儘　七郎左衛門尉
    - 忠秀　三郎左工門尉周防守

- 忠光
  - 三郎左衛門尉
  - 忠勝
    - 四郎
- 忠持
  - 孫左衛門尉
  - 忠長
    - 左近將監
- 忠紀
  - 壯之助周防
  - 山田氏
- △忠繼
  - 止田民部少輔忠時公長庶子
  - 忠眞
    - 式部少輔大隅守
- 土用熊丸
- 宗久
  - 式部少輔
  - 忠經
    - 加賀守
    - 久興
      - 出羽守
- 忠尙
  - 出羽守
  - 忠廣
    - 加賀守
    - 忠豐
      - 安藝守

- 久親
  - 式部少輔
  - 忠時
    - 出羽守
    - 久武
      - 民部少輔
- 久通
  - 七郎右衛門
  - 久貞
    - 次郎右衛門
- 久陳
  - 七郎右衛門
  - 久福
    - 次郎右衛門
- 久房
  - 九郎右衛門
  - 町田氏　千石馬場
- △忠光（町田五郎太郎　忠時公七男常陸介忠經三男也）
  - 五郎
  - 光俊
    - 五郎
    - 經俊
      - 五郎太郎
- 道俊
  - 五郎
  - 實氏
    - 常陸介
    - 助久
      - 五郎兵衛
      - 清久
        - 五郎

- 忠良　五郎
  - 成久　伊勢守
    - 俊久　若狭守
- 高久　石谷出羽守
  - 頼本　石谷左京亮
    - 梅吉　石谷伊賀守
      - 梅久　石谷長門守
- 忠榮　町田長門守
  - 久徳　兵部左衛門
    - 久倍　出羽守
    - 久政　源左衛門
- 久則　勘解由
  - 忠代　伊賀
    - 久盛　源左衛門
      - 久孝　勘解由
- 久芳　宇右衛門
- 久幸　圖書頭
  - 忠尚　出羽守
    - 忠清　助太郎
    - 久孝　勝兵衛

- 久居　助太夫　伊集院氏
  - 久儔　郷九郎
    - 久張　主計寶嶋津彦太夫久富次男
      - 久東　孝左衛門
- △俊忠　侍從房　忠時公七男　忠經四男也
  - 久兼　號伊集院圖書介
    - 忠親　藏人頭
      - 忠國　長門守
- 久氏　大隅守
  - 頼久　彈正少弼
    - 熙久　大隅守
      - 久泰　兵部少輔
- 久雄　筑前
  - 忠增　兵部少輔
    - 忠能　筑前守
      - 久族　遠江守
- 久立　十右衛門貞家久公子
  - 久弘　刑部
    - 久矩　藏人
      - 久武　十右衛門
- 久源助

伊集院忠國八男　淨光明寺下

- △久俊　號今福黎長門守
  - 久將
    - 久
      - 久

- 久道　下野入道魯笑
  - 久治　下野入道抱節
    - 久元　伴右衛門
      - 久榮

- 久孟　將監
  - 久熙　內記
    - 久　
      - 久鄉　伊膳

伊集院久立二男

- △久照　遠江
  - 久鄉　織部
    - 久達　十藏
      - 久東　織部

- 久　十藏

伊作家

- △久長　號伊作入隅守　久經公第二子
  - 宗久　大隅守
    - 忠親　下野守
      - 久義　大隅守

- 勝久　大隅守
  - 敎久　四郎左衛門
    - 犬安丸
      - 久逸　河內守

- 善久　又四郎
  - 忠良　相摸守

和泉氏

- △忠氏　下野守　第二子　忠宗公
  - 忠直　右衛門兵衛尉
    - 氏儀　能登守
      - 久親　式部太輔

- 直久　又四郎
  - 忠鄉　因幡寶　第七男　吉貴公
    - 忠溫　因幡寶　吉貴公八男

佐多氏　平知覽

- △忠光　號佐多山城守
  - 忠直　左馬介
    - 氏義　豐後守
      - 親久　伯耆守

- 忠遊　豐後守
  - 忠山　下野守
    - 忠和　伯耆守
      - 忠成　又太郎

- 忠將 伯耆守
  - 久政 常陸介
    - 久慶 太郎次郎
      - 忠充 伯耆守
- 忠治 丹波
  - 久孝 又四郎
    - 久利 丹波
      - 久達 備前侯ノ子 光久公
- 久豪 李 久峯 李實 繼豐公ノ子
  - 新納氏 堅馬場
  - 時久 近江守 第四子 忠宗公
    - 實久 越後守
      - 忠臣 近江守
        - 忠治
- 忠績 近江守
  - 忠明 近江守
    - 忠武 近江守
      - 忠勝 近江守
- 忠茂 四郎
  - 武久 近江守
    - 忠眞 四郎
      - 久元 近江守
- 忠影 近江
  - 久辰 四郎左衛門
    - 久珍 市正
      - 久邦 四郎左衛門

- 久侶 四郎
- 修理亮忠治二男 千石馬場
- △是久 駿河守
  - 友義 伊勢守
    - 忠祐 左京亮
      - 祐久 刑部太輔
- 忠元 武藏守
  - 忠堯 刑部太輔
    - 忠光
      - 光清
- 忠秀
  - 忠尊 彌兵衛
    - 忠鎭 外記
      - 久敦 左京
- 久品 內藏
  - 久儀 次郎四郎
- 伊勢守友義二男
- △忠澄 能登守
  - 康久 伊勢
    - 久饒 旅庵
      - 久詮 右衛門佐

- 久丁 又左衛門
  - 久仲 民部
    - 久致 治部
      - 久張 五郎右衛門
- 樺山氏 騎射場
- △資久 號樺山安藝守 忠宗公五男
  - 音久 美濃守
    - 敎宗 安藝守
  - 敎久 美濃守
    - 滿久 兵部太輔
      - 長久 安藝守
        - 廣久 美濃守
- 善 安藝守
  - 忠副 助太郎
    - 忠助 兵部太輔
      - 矩久 兵部太輔
        - 忠征 太郎三郎
- 久高 美濃守
  - 久守 安藝守
    - 久辰 助七郎
- 久尙 又九郎
  - 久廣 諸右衛門
    - 久淸 權左衛門
      - 忠鄕 早馬
- 久賢 主計
  - 久中 左京

- 美濃守久高二男 仝
- △久盈 采女正
  - 忠則 長門守
    - 久行
      - 久道 權九郎
      - 久治 助四郎
- 久 北鄕氏 都城
- △資忠 號北鄕尾張守 忠宗公六男
  - 義久 讃岐守
    - 久秀 藤次郎
- 知久 中務少輔
  - 持久 讃岐守
    - 敏久 讃岐守
      - 數久 尾張守
- 忠相 讃岐守
  - 忠親 尾張守
    - 時久 右衛門
      - 忠虎 讃岐守
- 忠能 讃岐守
  - 翁久
    - 忠亮 出雲
      - 忠直 式部太輔

- 久定 次郎左衛門
  - 忠長 外記
    - 久智 筑後
      - 久竟 筑後
- 久茂 筑後
  - 久般 筑後
    - 久
- 右衛門時久二男 平佐
- △三久 加賀守
  - 久加 佐渡守
    - 久精 作左衛門
      - 忠昭 宗二郎
- 久嘉 作左衛門
  - 久度 宗次郎
    - 久 作左衛門
      - 久 作左衛門
- 久 民部
- 翁久二男
- △久常 又次郎
  - 忠休 七郎左衛門
    - 久 七郎左衛門
      - 久浮 次太夫

- 久儁 七郎左衛門
- 又次郎久常二男
- △久弘 右衛門八
  - 久儁 助太夫
    - 久
- 筑後久竜二男
- △久綿 權八
  - 久富 權五郎
- 川上氏 竪馬場
- △頼久 越前守 貞久公長庶子
  - 親久 越前守
    - 家久 上野介號川上
- 敎久 三郎左衛門尉
- 兼久 上野介
  - 行久 三郎五郎
    - 公久 上野介
      - 朝久

- 安久 三郎五郎
  - 昌久 大和守
    - 久隅 左衛門尉
      - 久通 上野介

- 久眞 上野介
  - 久連 上野介
    - 久尙 上野介
      - 久東 一學

- 久儔 一學

上野介兼久三男 今武ノ橋

△忠塞 左近將監
- 榮久 掃部介
  - 忠克 上野介
    - 久朝 左近將監

- 久辰 左近將監
  - 久國 因播守
    - 久將 將監
      - 久孝 源右衛門

- 久重 式部
  - 久盤 縫殿
    - 久統 勘解由

上野介久尙二男 豎馬塲

到二祐久一
復二碇山氏一

△久明 彌五太夫
- 久編 彌五太夫

總州家

△伊久 上總介
- 守久 師久公長子 幡摩守
  - 久世 上總介
    - 久林 左兵衛尉

碇山氏 今島津ト云千石馬場

△久安 號碇山三郎左衛門尉 師久公二男
- 忠安 號始良二郎兵衛尉

- 光久 三郎左衛門尉
  - 治久 小次郎
    - 祐久 兵部少輔
      - 久廉 左衛門尉

- 久次 又九郎
  - 忠親 小次郎
    - 久近 次郎右衛門
      - 久次 次郎右衛門

- 忠種
  - 久寛 八郎右衛門
    - 久規 次右衛門
      - 久 次右衛門

石坂氏今爲二北郷氏臣一住二庄内一

- △氏忠 石坂氏 號石坂但馬守 貞久公六男
  - 豐忠 但馬守
    - 久秀 但馬守
- 忠秀 左馬介
  - 久清 左馬介
    - 久武 大和守
      - 久明 出羽守
- 久隆 但馬守
  - 忠堯 仁右衛門
    - 久通 吉左衛門
      - 氏苗 與太左衛門
- 氏章 吉左衛門
- △用久 薩州家 四田發馬塲 薩摩守 久豐公二男
  - 國久 薩摩守
    - 成久 薩摩守
- 忠興 三郎太郎
  - 實久 薩摩守
    - 義虎 薩摩守
      - 忠永 後號忠辰又太郎

- 忠隣 三郎二郎歳久發子
- 忠洞 備前
  - 久基 六郎二郎
    - 久道 仲
      - 久智 仲
- 忠榮 越前守
  - 久基 民部少輔
    - 久弘 彌市郎
      - 久矩 民部少輔
- 久近 權太夫
  - 久純 矢拇
    - 久亮 矢拇
- 大野氏 常盤入口スヽケ橋 薩摩守國久二男
- △忠綱 號大野駿河守
  - 忠悟 淡路守
    - 忠元 駿河守
      - 忠宗
- 久行
  - 久明
    - 久矩 七郎太夫
      - 久 七郎太夫
- 久宣 權太夫

吉利氏　千石馬場

薩摩守國久三男

- △秀久　號吉利伊勢守
  - 忠將　治部少輔
    - 久定　右衛門太夫
      - 忠澄

- 忠張　下総
  - 久在　山城守
    - 久良　仲四郎
      - 久名　奎右衛門

- 忠員
- 忠儀　奎之助
  - 久副　奎石衛門
    - 久　奎左衛門

- △季久　豐後守　久豐公三男
  - 忠廉　修理亮
    - 忠朝　豐後守
      - 忠廣　右馬頭

- 忠親
  - 朝久　豐後守
    - 久賀　豐後守
      - 久守　豐前

- 久邦　豐後
  - 久兵　內膳
    - 久智　藤次郎
      - 久起　將監

- 久

豐後守久賀二男　源兵衛ガ洲黑岡氏

- △久元　帶刀
  - 仲休　帶刀
    - 久名　帶刀
      - 久芳　清太夫

大島氏

- △有久　出羽守　久豐公四男
  - 忠福　出羽守
    - 忠明　出羽守

- 明久　次郎四郎
  - 忠泰　號大島出羽守
    - 忠盈　休左衛門
      - 忠知　勘右衛門

- 久成　盛太夫
  - 久珍　久左衛門
    - 久修　次郎太夫
      - 久　十郎太夫

- 久富　盛太夫

志和知氏

- △豐久 伯耆守 久豐公五男
  - 忠堯 源左衛門
    - 忠常 播磨守
  - 忠光 右衛門尉
    - 忠重
      - 忠定 清左衛門
        - 忠洪 吉左衛門
          - 久照 加賀七
- 忠陳 源左衛門
  - 忠副

義岡氏

伯耆守豐久二男

- △忠衡 六郎三郎
  - 忠實 十郎三郎
    - 貴俊 五郎四郎
      - 久延 藏人
- 久達 宮內少輔 相州家
  - 久伴 作助
    - 久守 右京
      - 久中 彈正

- △友久 相摸守 忠國公長康子
  - 運久 相摸守
    - 忠良 相摸守

桂氏

- △勝 遠江守 忠國公三男
  - 忠次 常陸介
    - 忠利 常陸介
- 久利 彌三郎
  - 忠昉 山城
    - 忠詮
      - 忠秀 民部
- 忠能 山城守
  - 忠知
    - 忠康 彌三郎
      - 久澄 太郎兵衛
- 久祐 織部
  - 久音 太七郎
    - 久中 織部
- △忠經 號迫水伊豫守 忠國公四男
  - 忠光 伊豫介
    - 安久 善左衛門

迫水氏 上

- 忠友 伊豫介
  - 久光 伊豫守
    - 久重 左馬介
      - 久治 内記
- 久敦 善左衛門
  - 久雄 喜太夫
    - 久芳 善左衛門

喜入氏

△忠弘 若狹守 忠國公五男
- 頼久 攝津介
  - 忠俊 攝津介
- 李久 攝津介
  - 久道 式部太輔
    - 忠高 美作守
      - 忠長 攝津介
    - 忠政 攝津介
- 久亮 安房
  - 久致 右衛門
    - 久峯 數馬
      - 久甫 主膳
- 久福 主馬

龜山及藤野氏

△忠良 修理太夫 勝久公長男
- 僧 曾於郡念佛寺住持
- 秀久 號藤野林右衛門
  - 久昉 久右衛門
    - 忠持 林右衛門
      - 良賢 休左衛門
- 良富 休右衛門
  - 良 休左衛門
- 忠辰 號龜山又兵衛
  - 久儀 又兵衛
    - 久延 三郎兵衛
      - 久賢 李太夫
- 久滿 李太夫
  - 久 長太夫

垂水侯

△忠將 右馬頭 忠良公二男
- 以久 右馬頭
  - 彰久 右衛門尉
- 信久 相摸守
  - 久敏 美作
    - 忠紀 玄蕃頭
      - 久治 玄蕃

- 忠直　玄蕃
  - 貴儕　備中
    - 貴澄　玄蕃

佐土原侯

- △忠興　右馬頭
  - 久雄　但馬守
    - 久英　飛彈守
      - 惟久　淡路守
- 忠就　但馬守
  - 久柄　淡路守

右馬頭忠興二男

- △久富　主膳
  - 久壽　式部小輔
    - 久武　主税
      - 久睦　主膳

- 久府　山城守
  - 久　新城侯

美作久敏二男

- △忠清　又助
  - 久侶　壹岐
    - 久茂　市太夫
      - 久隆　市太夫

- 久　內藏

宮城侯

- △尙久　左兵衛尉
  - 忠長　圖書頭
    - 久元　下野守
      - 久通　圖書守

- 久胤（後改久竹）　圖書
  - 久洪　圖書
    - 久方　圖書
      - 久倫　圖書
- 久亨　圖書

下野久元二男

- △久茂　中務
  - 久馮　甲斐
    - 久文　內記
      - 久昌　新八
- 久腆　內記
  - 久東　內記

中務久茂二男　高見馬場

△久達　織部
　久致　内藏
　　久命　十太右衛門
　　久

圖書久胤二男　二王堂

△久知　左内
　久郷　主鈴
　　久中　直衛

日置侯

△歳久　左衛門督　貴久公三男
　忠隣　三郎二郎
　　常久

　忠心　三郎右衛門
　忠行　左衛門
　　久健　左衛門
　　久林　左衛門

　久甫　左衛門
　久定　山城

三郎右工門忠心二男　新屋敷宮今赤山二三殿也

△久近　清太夫
　久富　彦太夫
　　久　彦太夫

山岡氏

左右衛門忠竹三男

△久英　号山岡要人爲光久公所養
　久抦　齊宮
　　久澄　齊宮

　久容　權左衛門

永吉侯

△家久　中務太輔
　豊久　中務太輔
　　忠榮　中務太輔
　　久雄　安藝

　久輝　中務
　久貫　中務
　　久喜　外記
　　久抦　主殿

　久芳　又七郎

安藝久雄三男　桝形當今水居住

△久矩　八郎左衛門
　久置　登
　　久亮　登
　　久　權五郎

中務久輝三男

△政一 ― 政
號小林中太兵衛　中太兵衛

佐志侯

△忠清 ― 久四郎 ― 久近 ― 久峯
義弘之三男　又五郎　又六

― 久當 ― 久東 ― 久幸 ― 久金
將監　權七　小平太　左中

加治木侯

△忠朗 ― 久薫 ― 久季
兵庫　家久公二男　兵庫　兵庫

― 久門 ― 久方
兵庫　兵庫

兵庫久李二男

△久龜 ― 久主
助左衛門　右衛門

― 久宇
右衛門

兵庫久季三男

△久貞
號林橋左膳

下荒田八幡宮脇

△忠廣 ― 忠守 ― 忠伴
市正家久公三男　大學　源次

― 久白 ― 久馮 ― 久前
助之丞　市左衛門　助之丞

大學忠守二男

△久兵 ― 久田 ― 久奉
號鄕原轉　金太夫　清次郎

上ノッン

△久明 ― 久純 ― 久丘 ― 久通
大藏光久公十男　大藏　大藏

― 久迫
大藏

大藏久明二男

△久忠 ― 久
號三崎文太夫
省塲ノ坂

△久記 ― 久通 ― 久馨
賴母 光久公十二男 賴母
岩崎

△久房 ― 久醇 ― 久
求馬 光久公七男 求馬
花岡侯

△久僖 ― 久尙 ― 久敦
周防 大學 播磨
綱貴公二男

大藏久明二男

△久逊 ― 久
號三崎文太夫
省塲ノ坂

△久記 ― 久通 ― 久馨
賴母　光久公十二男　賴母
岩崎

△久房 ― 久醇
求馬　光久公七男　求馬
花岡侯

△久儔 ― 久尙 ― 久敦
周防　播磨
綱貴公二男　大學

西藩野史卷之一

○清和天皇

清和帝（人王五十六世）諱ハ惟仁（文德帝人王五十五世）ノ第四皇子ニシテ母ハ明子（染殿后ト稱ス攝政太政大臣從一位藤原良房女ナリ）嘉祥三年庚午六月朔日（或云三月二日癸卯）降誕十二月立テ皇太子トス

天安二年戊寅

○八月二十七日文德帝崩ス此日禪ヲ受ケ十一月七日（クラヒ）祚ニ即ク年纔ニ九歲本朝幼帝ヲ立ル外戚藤原良房コト此ニ始マル

按ニ良房其先大職宮鎌足天智帝ニ仕テ藤原氏ヲ賜フ鎌足不比等ヲ生ム右大臣ニ任ス不比等房前ヲ生ム房前眞楯ヲ生ム眞楯內麻呂ヲ生ム內麻呂冬嗣ヲ生ム良房ハ冬嗣ノ子ナリ五世相繼テ太政大臣ニ任ス

詔ヲ奉（ウケ）テ政ヲ聽ス

按ニ推古帝ヨリ先推古帝「女帝人王三十四世敏達帝立テ后トス崇峻帝崩ノ位ニ即ク」廐戶皇子「或上宮八耳聖德ト稱ス用明帝ノ子ナリ」推古帝廿八年薨ス壽四十九」ヲ立テ太子トシ以攝政トス是帝堯舜ヲ試ルニ比ス是ヲ試ノ一端ト云フ

按ニ良房ノ如キハ廢帝ヲ成王ヲ助ルニ比スコレヨリ後本朝幼帝或ハ女帝ヲ立レ時ハ必攝政アリ帝ノ位ニ及ヒ攝政ヲ辭シ關白ニ任ス攝政ハ萬機ヲ聞テ直ニ行ヒ關白ハ天子ニ告テ後ニ行フ

四月十五日帝天性仁厚諫ヲ群臣ニ求メ貧窮ヲ恤ミ位階ヲ孝子節婦ニ賜フ十八年ニシテ十一月廿九日（是ヲ陽成帝ト稱ス）位ヲ太子貞明ニ讓ル元慶三年五月八日（年三十）落飾ス明年十二月四日崩ス壽三十一粟田山（愛宕山ノ西）ニ葬ル遺骨ヲ水尾山ニ藏ム故ニ水尾帝ト號ス廟ヲ水尾社ト号ス

○貞純親王（尊卑分脈ニ延喜十六年薨六十四ト記ニ依テ諸書是ニ從フ但其說ノ如クバ親王仁壽三年ニ生ル父天皇四歲ノ時也誤ナリ論ヲ待タス小笠原系圖ニ貞觀十六年三月廿三日一條桃園ニ誕生ト云ハ十五年ニ改ムベシ）

清和帝第六ノ子母ハ神祇伯棟貞女（或云贈太政大臣正二位藤原長良女ナリ高子ト稱ス二條后コレナリ）貞觀十六年甲午三月生四品中務卿（或云兵部卿）兼テ上總常陸ノ大守ニ任ス一條大宮桃園ニ居ス故ニ桃園親王ト稱ス

延喜十六年五月七日薨ス年ヲ享ル一四十三

自正四位下叙正四位上

滿仲

滿成 多田出羽介

○經基

貞純親王第一ノ子ナリ母ハ贈太政大臣藤原經繼女（或云右大臣能有女）寛平五年癸丑六月十日西八條宮ニ生ル第六皇子ノ子タルニヨツテコレヲ世ニ六孫王ト稱ス十三ニシテ元服ス（或云延喜二年正月十一日）武術ニ長ス（或云外祖能有弓馬ニ練達ス故ニ其傳ヲ得タリ）左衛門權ノ佐式部丞左馬頭下野介上總介內藏頭太宰太貳（按ニ太宰府ハ人王三十四世推古帝筑前國三笠郡ニ府ヲ立テ外國ノ藩屏トス府ノ長官ヲ太宰ノ帥ト云親王コレニ任ス權ノ帥ハ大納言中納言ノ兼任タリ或ハ大臣卿有ツテ左遷スルノキ是ニ任ス大貳ハ帥ノ次官ナリト云）鎮守府將軍（按ニ奥州ハ大國ナリ國守政治及ハサルコトアリ故ニ人王四十五世聖武帝天平元年九月鎮守府ヲ立テ大野ノ東人ヲ將軍ニ任ス東人多賀城ヲ築ク後ニ石碑ヲ立ツ銘ニ云多賀城去京一千五百里去蝦夷國界一百廿里去常陸國界四百十二里去下野國界二百七十四里去靺鞨國界三千里此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守府將軍從四位上勳四等大野朝臣東人ノ所營也天平寶字六年歲次壬寅參議東海東山節度使從四位上仁部少輔兼按察使鎮守府將軍藤原惠美朝臣朝獲修造也天平寶字六年十二月一日是ヲ蠻石碑ト云賴朝廻歌ニ云陸奥ノイハテシノフノエン知ラヌ戀ヲシテヨ蠻ノ石碑）武藏守前信濃美濃但馬伊豫ノ大守ニ歷任シ正四位上（或云正四位下）ニ叙ス天慶朱雀院二年始テ源姓ヲ給フ（或云延喜七年十月五日源姓及ヒ白旄ヲ賜フ一說天德二年六月十五日トス先是弘仁五年五月八日嵯峨帝ノ子信初テ源姓ヲ賜フコレヲ嵯峨源氏ト云又敦美親王「宇多帝ノ子」ノ子雅信亦源姓ヲ賜フコレヲ宇多源氏ト云經基一流ノ源氏ヲ清和源氏トーフ）天慶四年六月伊豫丞藤原純友叛ス經基勅ヲ奉シテコレヲ誅ス天德二年十一月二十四日薨ス享年六十六洛陽萬祥山（異本本光山）大通寺遍照心院（初貞純親王及ヒ經基亭宅地也今寺領二百八十石）ニ祀テ六宮權現ト号ス（元慶二年將軍綱吉公再興ス）

○滿仲

經基第一ノ子ナリ母ハ武藏守橘繁古（或ハ繁有ニツクル）（橘氏其先諸兄葛城王ト稱ス和銅元年御宴ニ侍ス帝橘ヲ賜テ曰橘ハ柚雪ヲ凌テ凋マス珠玉ト光ヲ爭ヒ金銀ニ交テ美ナリ以汝カ姓トセヨ子孫繁茂ス）女延喜十二年壬申七月九日或ハ四月十日生ル延長三年正月二十三日元服シテ春宮亮兵庫允左馬允兵部少輔武藏上總常陸介攝津越前伊豫美濃武藏下野陸奥等ノ大守ニ歷任シ兼テ鎮守府將軍ニ任シ正四位下（或云正四位上）ニ叙シ昇殿ヲユルサル（按ニ武人五位六位ニ叙シテ未殿ニ昇ルヲエス是地下ト云昇殿ヲ免サルルヲ以テ榮トス）天慶年中父ニ從テ純友ヲウチシバ〳〵大功ヲタツ後ニ攝州多田郡ニ居ス故ニ世ニ多田滿仲ト稱ス貞元二年八月十五日（一說長元二年八月十五日トスルハ非ナリ滿仲卒シテ三十二年ノ後ナリ）薩髮シテ新發意滿慶ト稱ス長德三年丁酉八月二十七日薨ス年ヲ享ルヿ八十六（或云勅シテ從三位ヲ贈ラル滿仲甲冑騎馬ノ像アリ文明四年八月十七日後土御門帝勅使菅原在數ヲツカワシテ從二位ヲ贈ラル元祿中將軍綱吉公再興ス）滿仲田院千石寺（寺領五百石）ト號シ廟ヲ立テ祭ル滿仲ノ次弟治部少輔滿政ト稱ス子孫アリ足助小川ヲ以テ氏トス季弟下野守滿映ト稱ス子孫アリ諏訪芦田等ヲ以テ氏トス

○賴信

滿仲第三ノ子ナリ（或云第三ハ俗源珍第四賴信）母ハ大納言元方女（一說平惟時女）安和元年八月日生ル源四郎ト稱ス皇后宮ノ亮左馬權ノ頭左衛門尉治部少輔上總介左兵衛少尉冷泉院判官代河內陸奥伊豫ノ太守ニ歷任シ兼テ鎮守府將軍ニ任シ從四位上ニ叙ス長元年中平忠常（千葉上總介ト稱ス桓武帝ノ皇子葛原親王其子高見王其子高望從五位下上總介ニ任ス始テ平姓ヲ賜フ其第三子ヲ良兼ト稱ス上總介鎮守府將軍ニ任ス其子公雅從四位下武藏守ニ任ス其子平太夫致賴其子左衛門尉致經其子太郎致房鎮守府將軍ニ任ス忠常ハ致房ノ弟ナリ）反ス賴信勅ヲ奉シ是レヲ征ス首ヲ斬テ獻ス永承三年九月一日（或云正月一日）薨ス享年（一說七十四）八十一廟ヲ河內國花林寺（或ハ通法寺中比廢壞ノ唯草庵アリ元祿中將軍綱吉公再興ス）ニ建ツ謚シテ蓮心ト号フ

滿仲ノ五男 天延二年生ル 永承三年卒ス七十五

賴義 小名丸 千壽 井上肥後守

賴清 河內守

賴信 河內守

賴平 武藏守

賴節 左衛門尉 大和守

孝光 滿仲ノ五男 天延二年生ル 永承三年卒ス七十五

賴光 攝津守

賴親 大和守

源賢 阿闍梨 童名美丈丸

- 頼末（乙葉掃部介三郎）
- 頼任（河内冠者常盛五郎）
- 義政（国井祖）

- 頼信（河内守）
- 頼義（伊豫守）
- 義家（陸奥守）

頼信兄頼光ハ満仲ノ長子也母ハ近江守源俊ガ女也天歴八年七月二十四日生ル事テ正四位上或ハ正四位下ニ叙シ兵部丞左馬權頭摂津肥前美濃陸奥太守兼テ鎮守府將軍ニ任ス丹州ノ賊ヲ討シ武名高シ治安元年七月二十四日薨ス享年六十八年五世ノ孫頼政（參河守祖綱孫兵庫頭仲綱子ナリ）三位ニ叙ス射ト和歌ヲヨクスルヲ以テ世ニ鳴ル仁平三年近衛帝（人王七十六世）邪祟疾ヲ得タリ怪鳥アリ毎夜來テ屋上ニ鳴ク頼政勅ヲ奉シ是ヲ射ル帝ノ病即チ愈ユ治承中（四年）頼政内大臣平宗盛（平相國清盛第三男也）ト間アリ高倉皇子（以仁ト稱ス後白河帝ノ次子天資聰明詩歌ヲヨクス帝ニ愛セラル藤母建春門院ノ讒ニ遭フテ高倉ニ蟄ス故ニ高倉宮ト云ヲ勸メ諸源氏ニ命ノ平氏ヲ討タンヿヲ謀ル發覺ノ平氏宮ヲ襲フ頼政皇子ヲ奉ノ江州ニ奔ル平氏追テ宇治川ニ至テ戰フ皇子ノ軍利アラス伊豆守仲綱（頼政長子）死ス皇子亦矢ニ當テ薨ス頼政平等院（宇治ニ在リ後冷泉帝永承六年立ツ）ニ入テ自殺ス（治承四年五月二十六日）仲綱子アリ右衛門尉有綱ト稱ス判官源義經ノ女ヲ娶ル義經頼朝ト間有ヒ頼朝ノ爲ニ大和國ニ誅セラル於是頼光ノ嫡流絶ユ庶孽（シロガツ）今本邦ニ蔓延シ土岐淺野溝梶馬場小國多田飯田福島山縣櫻場田尻深栖落合能勢等ヲ以テ氏トス

○頼義

頼信ノ長子母ハ修理命婦（或云左京太夫敦忠女）長和四年十一月一日河内國古市郡壺井村ニ生ル（長保五年四月九日）千壽丸ト稱ス事ヘテ民部少輔（或云兵庫允）左馬助左衛門尉小一條院判官代相摸陸奥出羽伊豫等ノ大守兼テ鎮守府將軍ニ任シ正四位下（或正六位上或從四位下）ニ叙ス後冷泉帝（人王七十世）ノ朝安部ノ頼時貞任（陸奥話記云安東太郎頼時自安部將軍ト稱ス奥羽二州ヲ押領ス嫡子貞任二男安東太郎貞宗三男厨川次郎貞任四男鳥海彌三郎宗任ナリ頼時戰死シテ貞宗降ル）等奥州ニ反ス頼義勅ヲ奉シテ

- 義綱（加茂次郎美濃守）
- 義光（新羅三郎刑部丞入道）
- 快譽（伊與阿闍梨）
- 女（海道小太郎成衡妻）
- 親清（三島四郎）

- 義家
  - 義宗（早世）
  - 義親（對馬守）
  - 義忠（左馬介河内判官）
  - 義邦（式部太夫下野ノ別業ニ住德川新田足）

コレヲ討ス九年ニシテ貞任ヲ誅シ宗任（貞任ノ弟）ヲ虜ニス承暦三年七月五日（或云永保二年十一月十三日）薨ス享年六十五（或云八十八歳）廟ヲ河内國花林寺ニ立ツ信海ト謚ス

○義家

頼義長子母ハ上野介平直方女長久元年六月十五日生ル（河内國古市郡壺井村ニ生ルトイフ）不動丸ト稱ス岩清水八幡神社（按ニ岩清水ハ山城國久世郡ニ在リ應神天皇玉依姫神功皇后ヲ祭ル社領七千四十石清和帝ノ朝大安寺僧行教奏ノ際前ノ國宇佐宮ヲコヽニ祭ル宇佐宮ハ宇佐郡ニ在リ應神天皇比賣神神功皇后ヲ祭ル）ニ元服ス之ヲ以テ八幡太郎ト稱ス兵部少輔左馬權頭左近將監左衛門尉伊豫出羽陸奥ノ太守ニ歷任シ正四位下叙シ兼テ鎮守府將軍ニ任ス大江ノ政房ニ從テ兵書ヲ學ブ其奥旨ヲ得タリ故ニ後ノ兵ヲ學フモノ義家ヲ以テ宗トス又射ヲヨクス嘗力大ニ人ニ過キタリ堀河帝（嘉保二年）病ス義家當直シ弓ヲ取リ弦ヲナラスヿ三度大ニ呼テ曰ク源義家上ヲ護スト帝ノ病癒タルヲ以テ名聲彌高シ寛治五年中勅ヲ奉シ清原武衡等出羽國ニ叛スルノ片討伐ノ國中治平ニ屬ス長治二年八月十八日（或云嘉承元年七月四日）薨ス享年六十六（或曰六十八）廟ヲ花林寺ニ立ツ義家ノ季弟（次弟ヲ加茂二郎義綱トシ）云從四位兵衛尉ニ叙任ス新羅三郎義光ト稱ス從四位下常陸介ニ叙任ス子孫アリ逸見武田小笠原佐竹平賀等ヲ以テ氏トス

義家數子アリ長ヲ義宗ト稱ス左兵衛尉兵庫允ニ任ス早ク卒ス次ヲ義親トイフ從五位上（或云從五位下）對馬ノ守ニ任ス謀叛ト云ニ罪セラレテ出雲國ニ配セラル嘉承二年平正盛勅ヲ奉シ義親ヲ誅ス（傳ニ云義親ノ子ヲ對馬太郎義信ト稱ス子アリ僧トナル延慶上人ト稱ス或云フ義信ノ子ヲ義實ト稱ス左馬頭ニ任ス）三ヲ義忠ト稱ス從五位下河内

利ノ祖六條判官

- 爲義　陸奥四郎
  - 實ハ義親ノ子義家ノ子トス
- 義經　武蔵守入道
- 義隆　毛利陸奥六郎

義家　陸奥守

- 義親　駒馬守
  - 爲義　陸奥四郎
    - 義忠　河内守　四男
      - 爲義　六條判官　實ハ義親男

守ニ叙任ス早ク卒ス（或云天仁二年七月七日被誅三十九歳）四ヲ義國ト稱ス（母ハ中宮ノ亮有綱ノ女ナリ）從五位上下野守ニ叙任ス足利太郎太夫基綱（國下野人）カ女ヲ娶リ足利（國下野）ニ居ス足利ヲ以テ氏トス式部少輔ト稱ス二子アリ長ヲ治部少輔義康ト稱ス七世尊氏ニ至リ征夷大將軍ニ任シ天下ヲ統御スルコト十三世義昭ニ至テ織田信長ノ爲メニ滅サル義國ノ次子ヲ新田大炊助義重ト稱ス七世ニシテ藤貞ニイタリ後醍醐帝ニ仕フ相摸守北條高時ヲ滅シ播磨上野ニ封セラレ左近衛中將ニ任ス足利尊氏ト間アリ尊氏叛スルニ及テ是ト戰テ利アラス越前國ニ戰死ス（歴應元年閏七月二日）義重ノ次子ヲ德川四郎義季ト稱ス十六世家康公ニ至テ撥亂反正天下ヲシテ征夷大將軍ニ任ス

○爲義

義家第五ノ子ナリ（或云爲義ハ義親ノ長子ナリ義親配セラレテ後大父義家長子トス）陸奥四郎ト稱ス左兵衛尉左衛門尉檢非違使ニ任シ從四位下ニ叙ス世人六條判官ト稱ス初鳥羽帝（七十四世）位ヲ太子（諱ハ顯仁鳥羽帝第一ノ皇子母ハ藤原璋子待賢門院ト号ス五歳ニシテ即位ナリヒト）在位十ニ讓ル号ス（崇德院ト繼母美福門院（得子ト稱ス贈左大臣長實女）我生ム所ノ體仁親王ヲ立ンヿヲ欲シ崇德帝ヲ上皇（卯島羽帝）ニ譲ス上皇コレヲ納テ祚ヲ親王ニ讓ラシム於是親王立ツコレヲ近衛院（コンエノイン鳥羽帝第八ノ皇子）ト号ス崇德帝ヲ新院ト稱ス十四年ニシテ近衛帝崩ス（壽十七）美福門院子ナシ新院以爲我子重仁祚ニ即クヘシト門院又上皇ニ譲シテ曰近衛ノ崩スルハ新院ノ呪詛スルニ因テナリ上皇怒ル重仁ヲ立スシテ上皇ノ季子雅仁親王（マサヒト新院同母ノ弟）ヲ立ツ是ヲ後白河帝（鳥羽帝第八ノ子）ト稱ス新院大

義朝左馬介以下畧ス

ニ恚ム保元元年上皇崩ス新院兵ヲ起シテ後白河帝ト祚ヲ爭フ爲義ノ長子義朝ハ帝ニ召レテ將タリ七月十一日新院ノ軍利アラス知足院ニ遁ル官軍追テ新院及ヒ重仁ヲ虜ニシテ讃岐國ニ遷ス（九年新院讃岐國ニ崩ス壽四十六阿野郡白峯ニ葬ル祭テ白峯明神トス）爲義東州ニ奔ラント欲ス江州三井寺（大津ニアリ長等山園城寺ト云天台宗今寺領四千八百石始天智帝志賀寺ヲコヽニ移シ彌勒佛ヲ安ス夢ニ因テ田ニ還ス天武帝ノ代大友與多麿姦ノ創建ス寺内岩井アリ天智天武持統三帝降誕ノ水汲テ產湯トス故ニ三井寺ト云フ）ニ至ヲ病大ニ發シ竊ニ歸テ黑谷ニ至リ薙髮納衣シテ義朝ニ縛ス（或云爲義江州ニ至テ三河三郎親季カ家ニ匿ル朝廷尋求ルヿ急ナリ東州ニ遯ントス行路官軍ニ塞レクルヲ聞テヒソカニ還テ義朝ニ縛ス）義朝狀ヲ告テ父ノ免ヲ請フ帝可カス再三ニシテ帝怒ル他人ニ命シテ誅セントス義朝止ムコトヲエス鎌田次郎正家（後ニ兵衛ニ任ス政清ト稱ス）ヲシテ死ヲ爲義ニス、メシム於是七條朱雀ノ第ニ自刄ス（七月十九日）享年六十三義朝ト謚ス

爲義ノ次子ヲ帶刀先生義賢ト稱ス久壽二年八月惡源太義平ノ爲ニ武州ニ於テ死ス其子義仲信州木曾ニ長ス治承中高倉皇子ノ令旨ヲ奉シ兵ヲ起メ平氏ヲ討ス諸平逆戰テ利アラス帝ヲ（安德帝也）奉シ西州ニ奔ル義仲京師ニ入ル後白河上皇義仲ヲメ左馬頭兼越後守（或云伊勢守）ニ任シ從五位下ニ叙シ又轉シ從四位下伊豫守ニ任シ朝日將軍ト號ス於是賴朝軍ヲ發メ之ヲ擊ツ義仲利アラス江州粟津ニ於テ矢ニ中テ死ス（時永三年正月廿日）享年三十一後其黨ヲ祚テ義仲大明神ト號ス今猶存ス（粟津森ニ墓アリ法号德音院義山宜公大居士トアリ後世厳ナルベシ）義仲子アリ志水冠者義隆ト稱ス先是質トシテ鎌倉ニ在リ頼朝女ヲ妻ス義仲誅セラルヽニ及テ義隆遁レテ武州ニ走ル頼朝之ヲ追テ入間川ニ殺ス（元暦元年四月二十六日也按ニ義隆墓相州鎌倉堅船村粟船山常樂寺ノ坤ノ方田ノ中ニアリ延寶中田ノ主山上ニ移ス）爲義第八子ヲ鎮西八郎

為義
- 左馬頭解官後
- 義朝 贈從二位右大臣
- 義平 惡源太
- 朝長 中宮太夫

為朝ト稱ス長七尺餘膂力絶倫射ナヨクス性頗强暴ナリ為義之ヲ怒テ西州ニ追フ為朝年譏ニ十三始豐後國ニ居ス黨ヲ聚メ群ナナシ二十餘戰メ數十城ヲ降シ地ヲ略シテ九州ヲ絢フ（傳云為朝薩摩國阿多ノ郷主阿多平四郎忠景カ女ヲ娶ル數子ヲ生ム次子ヲ為重ト稱ス薩州吉田郷主執印行賢カ讓リヲ得テ吉田ニ主タリ後ニ外孫息長ノ清道ニ讓リ與フ之ヨリ息長氏世々吉田ニ主トシ吉田ヲ以テ氏トス今我國ノ吉田氏ハ清道カ裔也）於是九國靡然トメ為朝ニ從フ帝為義ニ命メ為朝ヲ召シム為朝郡ニ歸リ五年ニメ保元ノ亂アリ父ニ從テ新院ニ屬ス戰敗ル丶ニ及テ虜ニ就ク帝其臂力ヲ愛シ死ヲ免メ伊豆大島ニ流ス為朝流ニ順テ琉球國ニ至リ浦添按司カ女ヲ娶リテ男ヲ生ム尊敦ト稱ス（傳云啓敦琉球國ニ長シ勇武ヲ以テ名アリ乱ヲシヅメ國ヲ定ム國人立テ王トス「亦ハ家久公寛永十四年分註ニ出ツ」）為朝大島ニ歸ル强暴猶止マス邊民苦メラレテ官税ヲ京師ニ輸サス豆州刺史狩野介茂光以聞ス茂光ニ勅シテコレヲ擊シム茂光艤纜ヲ艤シ大島ニ至ル為朝矢ヲ放テ其船ヲ覆シ茂光カ軍許多ヲ殺シ宅ニ還テ自殺ス年三十三（嘉應二年四月）島人社ヲ建テ祭ル為朝社ト號ス今猶存ス

○義朝

為義ノ長子ナリ下野守左馬頭播磨守ニ任シ從四位下ニ叙ス（或云東海道十五州ノ管領タリ）保元ノ亂後白河帝ノ勅ヲ奉シ上皇ノ軍ヲ破テ功アリ平治元年京師ニ乱アリ初悪右衛門督信頼（伊豫三位藤原中忠ノ子）帝院ニ寵セラル中納言ニ任ス又大臣大將タランヿヲ請フ帝可カントス少納言入道信西諫テコレヲ止ムユエニ信頼信西ヲウラミ殺サンヿヲ謀ル信西安藝守清盛（後太政大臣ニ任シ除髮シテ入道淨海ト稱ス女ハ高倉帝ノ皇后トナル安德帝ノ外戚トメ暴威益振フ後和元年閏二月四日薨ス壽六十四歳墓播州兵庫ノ南ニアリ弘安九年鎌倉四勝圓寺貞時立ツ）ニ善シ信頼清盛ヲ畏ル是ヲ以テ果

- 頼朝 右大將征夷大將軍
- 義門 宮内丞早世
- 希義 福田冠者（コレ）
- 範頼 蒲冠者
- 全成 惡師童名今若
- 義圓 童名乙若
- 義經 九郎判官伊豫守後解官
- 進 甲斐名勝老名内巨ノ麻郡之宮原ト云村ニ鎌田有ト云地名土ト人相傳左馬介義朝ノ家臣鎌田次郎正清カ住シ

サス義朝清盛ニ會フ於是信頼義朝ニ謀リ幷テ清盛信西ヲ殺サントス清盛適紀州熊野山（按ニ熊野權現諸説一ナラス本宮新宮那智コレヲ三所トニ詣ルニ及ンテ信頼義朝兵ヲ起ス先ツ上皇（後白河）云各天神七代地神五代ヲ祭ル故ニ日本第一宮ト号ス）ヲ省中ニ移シ二人コレニ據テ號令ス遂ニ信西ヲ殺シ又清盛ヲ討セントス清盛都ニ還ル密ニ籌策ヲ運シ夜閤ニ乘シ帝ヲシテ己カ邸ニ納奉ル上皇又遁レテ仁和寺（洛陽大内山ニアリ光孝帝仁和四年立多帝釋門ニ入室ヲ寺中ニ立テ居ス朱雀帝又釋門ニ入テ寺中ニ室ヲクルユエニ當寺ヲ御室ト云御門跡ノ号モ亦コヽニ始マル）ニ入ル義朝信頼夜明テ後覺ル即兵ヲ率シ清盛カ邸（八條大宮西三町ニアリ）ヲ攻ム清盛迎ヘ戰テコレヲ破ル信頼虜レテ誅セラル義朝東州ニ走ル濃州青墓ニ至テ議シテ曰己ハ尾州ニ長子惡源太義平ハ飛州ニ次子中宮太夫進朝長ハ信州ニ至テ兵ヲ起シ再ヒ清盛ヲ攻ムベシスデニシテ義平去ル朝長京師ヲ遁ルヽノ日傷ヲ得タリ起キサランヿヲ憂フ義朝自ラコレヲ殺シ（按ニ濃州赤坂垂井ノ間醫村朝長ノ墓アリ）尾州ニ至ル臣鎌田正清カ妻ノ父長田庄司忠宗カ家ニ屬ス忠宗コレヲ待スルヿ甚タ厚シ時ニ清盛義朝ノ首ヲシテ重賞ニ購ル忠宗忽心ヲ變シ力士ヲ浴室ニ伏セ欺テ義朝ヲ浴室之中ニ殺シ（平治二年正月三日）幷テ正清ヲ殺ス義朝年三十八後ニ勅シテ正二位内大臣ヲ贈ル義平飛彈國ニ至リヒソカニ兵ヲ會ム郡縣屬スルモノ多シ師ヲ率ヒテ京師ニ入ラントスルニ及テ義朝ノ變ヲ聞キ烏合ノ衆悉ク解散ス義平微服シテ京ニ入リ清盛ヲ刺シヿヲ謀ル清盛コレヲ覺ル兵三百ヲシテ圍攻ム義平力戰シテ數人ヲ斬殺シ圍ヲ潰シテ石山ニ走ル清盛カ兵追至リテ收擒ヘコレヲ京師ニ誅ス年十九

○頼朝

○義朝ノ第三子長ハ悪源太義平次中宮太夫進朝長共ニ平治乱ニ死ス前ニ出母ハ尾州熱田愛智郡ニ在リ祭ル所草薙劍嘗テ日本武尊是ヲ祭テ神トス更ニ日本武尊天照太神薬遠雄尊宮簀媛建稲種命ヲ合祭テ熱田明神ト云會社領七百十七石大宮寺散位藤原季範女ナリ久安三年丁卯四月八日生ル保元三年二月三日皇后宮權少進ニ任ス年十三明年平治元年正月右近將監ニ任ス十二月十四日右兵衛佐ニ任ス

○平治ノ乱義朝東州ニ走ルノ日頼朝是ニ從フ年幾ニ十三困勞シテ馬上ニ睡ル遂ニ父ニ後ル江州森山ニ至テ群盗ニ遭フ刀ヲ拔テ二人ヲ斬殺ス餘盗逃亡ス野州河原森山武佐ノ間ニ在ニ至テ鎌田正清カ尋子來ルニ逢フ漸ニシテ義朝ニ及フ義朝平氏不破ノ關美濃國ヲ守ルヿヲ聞キ小野宿江州高宮鳥居本ノ間ニ在リヨリ陸路ヲ經テ濃州小關ニイタル白雪地ヲ埋テ馬蹄易カラス衆甲冑ヲ解テ徒歩ス頼朝復後ル獨行シテ淺井北郡ニ至ル老嫗アリ見テ哀憐シ己カ家ニ匿ス老翁アリ共ニ意愛ス正月永曆元年ニ至テ雪消ヘ氷解テ頼朝出テ關ケ原ニ至ル平氏ノ臣彌平兵衛宗清ガ京師ニ朝スルニ遭フ身ヲ藪林ニ匿ス宗清衆ヲ發シテ圍ミトラフ京ニ至テ清盛ニ聞ス清盛宗清ニ命メ搜ラシム頼朝姿容温雅才器秀達頗ル愛シツヘシ宗清憫然トメ之ヲ憐ム竊ニ教諭メ曰公戮ニ就ンヿ日ナケン清盛ノ後母池ノ禪尼ニ頼テ免ヲ請ハヽ若クハ免ルヿヲ得ン頼朝是ニ從フ禪尼見テ以爲先キニ亡スル我子家盛ニ似タリ泣テ荷盛ニ請フ可カズ禪尼悲ミ告テ止マス清盛止ム事ヲ得スシテ伊豆國ニ流ス年三月廿日配所「蛭ケ小島三島ノ南二里ニアリ」ニ到ル年十四於是北條四郎時政時政其先祖桓武帝四世ノ孫上總介高望ニ出ル高望寛平元年五月初テ平姓ヲ賜フ高望ノ孫貞盛鎮守府將軍ニ任ス二子アリ長ヲ維衡ト稱ス是卽清盛六世ノ祖ナリ次ヲ肥前守維將ト稱ス八世ニシテ時政ニイタル朝爽ノ尼トナリ二位ニ叙ス簾ヲ垂テ政ヲ聞ク世ニ所謂尼將軍コレナリ通ス時政知テコレヲ妻セ大ニ親昵ス

○初高雄山按ニ高雄山神護寺山城國ニアリ稱德帝御宇和氣清麿建立桓武帝片弘法大師ニ賜フ後ニ大ニ衰廢ス文覺觀進シテ中興ス僧文覺罪ヲ得テ豆州ニ竄ス傳云文覺天性强悍上皇ノ宮ニ入テ事ヲ奏ス覺頼朝ヲ相シテ云公天下戎馬ノ權ヲ執ノ相アリ頼朝喜フコレヨリ日々ニ相シタシム覺又頼朝兵ヲ起シ平氏ヲ討セントヿヲスヽム頼朝疑テ決セス覺天靈蓋ヲ出シ說テ云是公カ先考ノ髑髏ナリ平治ノ乱後棄テ獄邊ニ在リ予獄吏ニ乞テコレヲ得タリ毎ニ頸ニカケ其冥福ヲ祈ルヿ廿年公何ソ我ヲ疑フヤ頼朝心漸ク解ク覺又說テ曰去年重盛清盛ノ長子内大臣ニ任ス賢材ヲ以テ稱セラル治承三年八月朔日薨ス年四十三薨シテ清盛益暴惡ヲ恣ニス至尊ヲ犯シ下民ヲ流毒ス時失フヘカラス頼朝公コレヲシラサルニアラス我既ニ左遷ノ身タリ大事ヲ舉ルニ勝サランヿヲ恐ル覺云我上皇後白河帝ニ告テ院宣ヲ得テ公ニ與ヘン公コレヲ以テ天下ニ令セハ誰カ敢テ從ハザラン頼朝笑曰足下モ亦轉徙ノ徒ナンゾ院宣ヲ得ルヿアラン覺奮然トシテ豆州ヲ出テヒソカニ京師ニ至リ上皇ノ幸臣藤原光能ニ因テコレヲ請フ上皇素ヨリ平民ヲ惡ム潛ニ院宣ヲ頼朝ニ賜テ平氏ヲ討セシム覺還テ頼朝ニ示ス頼朝大ニ喜ヒ北條時政佐々木秀義源三ト号スニ謀リ兵ヲ起ス或云頼朝ノ叔父八條院藏人行家高倉宮令旨ヲ齎ラシ來テ平氏ヲ討セシム

治承三年

○秋八月十七日山木判官兼隆平氏ノ族ヲ襲テコレヲ殺ス遂ニ三百餘兵ヲ卒シテ相州石橋山ニ軍ス八月二十日大庭景親相州ノ人澁谷重親相州ノ人俣野景久長尾爲宗熊谷直實トモニ武州人等三千餘兵ヲ卒シ谿ヲ間テ陳ス伊藤祐親等ニ與ス三浦義明相州三浦ノ人其子義澄義連及ヒ和田義盛等ヲ遣ハシテ頼朝ヲ援

ツ丸子川駿州ニ至テ火ヲ放ツ景親火ヲ視テ以爲三浦氏頼政ヲ援フト於是議シテ云日既ニ暮ルトイヘ尼進テ戰ハン明日ニ至ラハ三浦氏我後ヘヲ擊ン衆コレニ同シ皷譟シテスヽム頼朝迎ヘ戰テ利アラス衆潰乱ル時ニ風雨忽チ到テ源軍離散シ其所ヲ相シラス頼朝土肥重平相州ノ人等數人ト後ノ峯ニ遁レ臥木ノ中ニ匿ル景親追薄テ峰ニ登ル景親カ從弟梶原景時頼朝ノ在所ヲ知ルトモコレヲ殺サンヿヲ欲セス景親ヲ曳テ他ノ峰ニ昇ル頼朝出テ時政等ニ會ス箭ヲ求テ箱根ニ至リ土肥眞名鶴ケ崎ヨリ房州ニ航ス義澄義盛等兵ヲ卒シテ會ス於是上總下總二州ヲ略ス千葉介常胤下總ノ人來謁ス頼朝衆ヲ卒シテ武州ニ至ル上總介廣常上總ノ人二萬餘兵ヲ領シテ來リ加ハハル畠山重忠モ亦降ル頼朝威漸ク東州ニ振フ清盛聞テ大ニ驚キ惟盛重盛ノ子忠度清盛ノ弟知教清盛第六ノ男等ヲシテ七萬餘兵ニ將トシ頼朝ヲ討セシム三將駿州富士川ニ軍ス頼朝ヽンテ川ヲ隔テ陣ス甲信二州ノ源氏來テ頼朝ニ屬ス聲言シテ二十餘萬トス平軍恐テ未發ス頼朝武田信義ヲシテヒソカニ夜ニ乘シ川ヲ渡リ間道ヲ經テ敵ノ後ニ出テ富士沿ニ宿ル水鳥ヲ射サシム群鳥驚キ飛フ其音山河ニ震フ平軍驚愕シテ以爲源軍我後ヲ襲フナリト甲兵棄テ走リ終ニ京師ニ歸ル頼朝コレヲ追ントス義澄等諫テ曰佐竹秀義佐竹別當ト号ス常陸介從五位下ニ叙ス按ニ佐竹氏其先新羅三郎義光ニ出ツ義光ノ長子刑部太郎義業常陸國佐竹郷ニ居ス因テ氏トス相摸國守從五位下ニ叙スソノ子下野守昌義其子常陸介忠義其子太郎隆義其子秀義ナリ後頼朝ニ降ル秀義十七世ノ孫右京太夫義宣上杉景勝ニ党シテ家康公ニ叛ス景勝降ルニ及ンテ義宣モ降ル於是常州ヲ轉シテ出羽國秋田二十万五千石ニ封セラル義宣八世ノ孫今ノ次郎義敦是ナリ常州ニ在テ未屬セスコレヲ後ニシテ京師ニ至ルハ危シ於是安田義定ヲシテ遠州ヲ守リ武田信義ニ駿州ヲ保タシメ軍ヲ

黄瀬川駿河國沼津驛ノ東ニアリニ班ス

○初頼朝ノ季弟牛若平治亂議ニ二歳母常盤ト共ニ擒ル清盛母ヲ悅ンテ妾トスコヱニ牛若稱ス免カレテ鞍馬寺松尾山鞍馬寺王城ノ北三里ニアリニ登リ東光坊長ス按ニ後ニ常盤寵衰フ清盛以テ一條大蔵卿長成ニ嫁セシム牛若年十六元服シテ九郎義經ト稱シ賈人吉次ト共ニ奥州ニ至リ國司秀衡ニ寓ス秀衡カ祖清衡義家東征武衡等ヲ征スノ日夜從テ功アリ義家功ヲ賞シ告テ奥州ノ國司トス相續テ秀衡ニ至ルユヘニ秀衡義經ヲ欵待シテ誠敬ヲ盡ス七年ニシテ義經頼朝ノ興ルヲ聞テ馳セ黄瀬川ニ至リ頼朝ニ謁ス頼朝大ニ喜ヒ用ヒテ大將トス

○冬十一月土肥實平和田義盛ヲ遣シテ佐竹秀義ヲ擊ツ秀義利アラズシテ逃亡ス於是東州靡然トシテ頼朝ニ屬ス十二月頼朝移テ相州鎌倉ニ居ス是ヨリ後將軍九世執權北條氏九世正慶二年ニ至リ百三十五年鎌倉ヲ居處トス

壽永二年

○秋七月木曾義仲兵ヲ卒シテ京師ニ入ル平氏帝安德帝ヲ奉シテ西州ニ走ル義仲京ニ入リ功ニ誇リ上皇ヲ蔑如シ百官ヲ輕侮ス於是頼朝二弟範頼蒲冠者ト稱ス頼朝ノ弟後從五位下參河守ニ任ス建久四年流言ノ故ヲ以テ頼朝ニ惡マル豆州ニ流サル又從テ殺サル義經ヲ將トシ六萬兵ヲ發シ義仲ヲ討ス義仲宇治山州江州勢多ニ逆戰フ利アラス遁レテ粟津江州ニ至ル矢ニ中テ卒ス元暦元年正月範頼義經洛ニ入リ秋毫モ犯サス都下大ニ喜フ時平氏帝ヲ奉シテ攝州一ノ谷矢田部郡ニ屬ス濱須磨村ノ西ニ在リニ屯ス範頼義經ヽンテ是ヲウツ平氏敗レテ讃岐國

屋島山田郡ニ屋ス島ノ形屋ニ似タルヲ以テ名ツクト云フ ニ遁ル同年二月

文治元年

○範頼豐後國ニ至テ九州ヲ略ス正月義經屋島ヲ襲フ平氏復破ヲ長州ニ走ル義經コレヲ追フ平氏九州ニ遁ントス範頼豐後ニ在テコレヲ塞ク平氏進退ニ窮テ赤間ケ關檀ノ浦ニ漂フ義經ス、ミ戰フ平軍大ニ破ル於是二位尼清盛ノ妻帝ヲ抱テ海ニ沒ス知盛中納言清盛第四ノ子稱ス清盛第四ノ弟經盛教盛中將重盛第二ノ子資盛帝ノ母后清盛ノ女及ヒ宗盛内大臣清盛第三ノ子清宗侍從宗盛ノ子忠時平大納言源軍之レヲ辟ニス頼朝兵ヲ起シテ僅ニ二年平氏惡ノ滅ス六月宗盛清宗於江州篠原誅セラル時忠能登國ニ流サル上皇コレヲ賞シ頼朝ヲ從二位ニ叙ス四月廿日又六十餘州ノ總追補使タラシム壽永二年後鳥羽帝祚ニ即クトイヘ𪜈年未幼也故ニ上皇政ヲ聽ク

建久元年

○冬十一月朝頼京師ニ至テ初テ帝ヲ拜ス大納言右近衛大將ニ兼任ス去年正二位ニ叙ス三年七月征夷大將軍ニ任ス五十世桓武帝坂上田村丸ヲ征夷大將軍ニ任ス是按ニ人王十二世景行帝日本武尊ヲ征夷將軍ニ任スルノ官ナリ少子ニ任スルヿナシ頼朝ニ至テ始テ不易ノ將軍ニ任ス征夷將軍大將軍ノ權與ナリ共ニ朝敵起テ任スル正治元年己未正月十三薨ス壽五十三後ニ鎌倉ニ祭テ白旗大明神頼家創造ト号ス

頼朝ノ次子頼家ト稱ス小字禹寄母ハ遠江守北條時政女頼朝薨ノ後薙髮ス二位ノ尼ト云嘉祿元年七月壽十一日卒ス年六十九鎌倉壽福寺神主ヲ祭ル

永元年八月十二日生ル立テ世子タリ頼朝薨スルニ及ンテ位ヲ襲テ天下ヲ御ス先是建久八年十二月從五位下右近衛少將九年正五位下正治元年正月廿日左近衛中將ニ任ス同月廿六日前將軍ノ遺跡ヲツキ家人即從ヲノ諸國守護ヲ奉行セシムベキノ勅命ヲ奉ス二年正月從四位上十月從三位左衛門尉建仁二年七月征夷大將軍ニ任ス在位五年ニシテ病ス建仁三年起キザルヿヲ慮ル是ヲ以テ天下ヲ二分シ關西三十八州ヲ弟實朝

頼朝第四子母ハ頼家ニ同シ建久三年八月九日生ル千萬ト稱ス ニ關東二十八州ヲ長子一幡母ハ比企能員ノ女若狹局ト名ツク頼家ノ妻トナリ一幡ヲ生ム ニ讓ラントス判官比企能員諫テ曰叔姪分チ封スルハ亂ノ端ナリ且北條カ威權スデニ天下ヲ傾ク君一旦不諱アラハ彼レ實朝ヲ扶テ權ヲ專ニセン是一幡君ノ利スル所ニアラスシカシ速ニ實朝ヲ殺シ北條氏ヲ謀ンニハ頼家諾ス頼家ノ母問シテコレヲ聞キ父時政ニ告ク時政大ニ驚キ群臣ト議シ佛事ニ託シテ能員ヲ召フ能員覺ラズシテ至ル時政壯士ニ命シテ是ヲ刺殺ス其後走テ一幡ノ宮ニ入テコレニ據ル時政徒ヲ發シテカコム能員カ徒事ノナラサルヲ見テ火ヲ宮ニ放テ一幡ヲ害シ悉ク自殺ス二日九月於是時政頼家ヲ廢シ豆州修善寺ニ置ク頼家薙髮ス明年元久元年七月時政是ヲ殺ス年二十三長ハ一幡次ハ千壽三ハ公曉後ニ見タリ四ハ女子竹御所ト稱ス後ニ將軍頼經ノ夫人タリ三十二歳ニシテ卒ス實朝ヲ立テ帝王御門院ニ以聞ス帝勅シテ征夷大將軍トス實朝從五位下右近衛中將建永元年二月從四位上二年十二月從四位下三年四月從三位建暦元年正月正三位二年十二月從二位建保元年二月正二位四年六月權中納言七月左近衛中將ヲ兼ヌ六年正月權大納言三月左近衛大將ヲ兼ヌ十月内大臣ニ任ス建保六年十二月二十七日鶴ケ岡八幡神社上下宮アリ上宮三坐歴仁帝神功皇后妃大神ヲ祭ル下宮四坐仁德帝及ヒ帝ノ三女弟ヲ祭ル頼ニ若宮大權現トアリ源頼義奥州ヲ征スルヿ康平六年八月石清水八幡ヲ鎌倉由比郷ニ祭ル永保元年二月頼家修復ス ニ詣テ拜賀ノ禮ヲ行フ先是頼家ノ子僧ト爲テ公曉ト稱ス鶴ケ岡ノ別當職タリ以爲實朝ハ父ノ讐ナリウツテ讐ヲ報ヒ且代テ將軍ニ任セント實朝ノカヘルニ及ンテコレヲ刺殺ス實朝年二十八北條義時時政長子長尾定景新六ト稱スンノ先平高望ノ三男上總介貞盛四世左衛門尉致經三男村岡五郎忠通「平忠常弟奥州ニ居ス」ノ三男鎌倉權頭景成四世鎌倉太郎景忠次男長尾次郎景弘ノ次男ナリ定景六世ノ孫景虎後上杉彈正大弼輝虎入道謙信ト号ス越後國ヲ領ス兵武ヲ以テ名アリ上野佐渡越中加賀能

登ヲ定ムソノ子景勝中納言ニ任ス秀吉公ニ仕ヘ奥州會津百三十万石ニ封セラル後家康公ニ叛ノ國除セラレ更ニ羽州米澤三十万石ニ封セラル三世攝津守綱勝ニ至テ故アリテ十五万石ヲ取ラル綱勝六世上杉大炊頭重定コレナリ

ニ命シ公曉ヲ殺ス年十九寶朝嗣ナシ義時　帝順德院ニ以聞シ左大臣藤原道家ノ季子賴經ヲ請ヒ賴家ノ女ヲ妻セ大將軍トス於是賴朝ノ昆裔存スル所ハ獨リ忠久公ノミ傳云大友左近將監能直モ亦賴朝ノ孽子ナリ大友能成ニ嫁ハル賴朝ニ仕ヘテ豐後國ニ封セラル二十世左兵衛督義統豐臣秀吉朝鮮國ヲウツノ日勇ナキニ坐セラレテ國除セラル大友氏傳「貞久公」ニ出ツ

西藩野史卷之一　終

西藩野史卷之二

○忠久公 在位四十二年

父ハ源氏賴朝 長子ナリ賴朝年三十三ニシテ公ヲ生ス 母ハ比企氏判官能員カ妹也丹後局ト稱ス 一說長承三生廿五入宮 爲采女「二條帝保元三」永萬元二條帝仁安元配成長卅三順德帝建保三八月十九日八十二歲ニシテ卒ス 崩局卅二六條帝治承三年巳亥十二月晦日御誕生のよし 越後島津家系にみゆ

○公攝州住吉ニ生ル初賴朝伊豆國ニ在ルノ日北條四郎時政カ女政子ヲ娶ル又丹後局ヲ悅フ孕ムアリ政子是ヲ妬ム局其害ヲ恐レ從者數人ト謀ニ豆州ニ遁レ攝州住吉ニ至ル日既ニ暮タリ宿ヲ求ム邑人曰羈旅ノ人留ムルハ邑ノ大禁ナリ於是住吉明神 住吉郡ニ在リ祭神四座底筒男中筒男表筒男神功皇后ナリ按ニ神代卷伊弉諾尊往至二日向小戸橘之檍原一而祓除焉沈二潮於海底一因以テ生神号底筒男命又浮潮於潮上同生神曰表筒男命是卽住吉大神矣攝社四十四社今社領二千百十六石 ニ至ル忽チ產セントス社傍西北ノ隅石アリ是ニ踞シテ兒ヲ生ム 日月ヲ詳ニセス或云十二月廿九日 是卽チ 忠久公ナリ 時ニ雨頻ニ降テ東西ヲ辨セス適マ狐火前後ヲ照シ其便ヲ得タリ住吉神ノ攝社稻荷神アリ衆以爲神狐火ヲシテ此兒ヲ護スルナリト於是稻荷ヲ以テ氏ノ神トス 傳云稻荷神能ク狐ヲ役仕ス故ニ云爾此故ヲ以テ 忠久公封ニ就テ稻荷神ヲ島津ノ庄島戶邑「部城郡元村也」ニ祭ル命嬉殿ト稱ス今猶存ス後ニ山州紀伊郡三栖ノ神社ヲ薩州鹿府ニ勸請シ稻荷大明神トス倉稻魂神瓊々杵尊伊弉冊尊三神ヲ合セ祭ル故ニ稻荷神ヲ以テ島津氏ノ鎭護ノ神トシ雨ヲ以テ瑞トス後住吉ノ神官等コノ石ヲ島津誕生石ト号シ墻垣ヲ以テコレヲカコミ祭祀ス產婦ノ石ニ祈テ難產ノ憂ヲ免ル於是遠近ノ婦人詣テ祈ルモノ多シト云夜既ニ明テ關白近衞基通公近衞氏發弘公傳ニ在リ住吉神ニ詣ル兒ノ鳴ソヲ異ミ人ヲシテコレヲ問ハシム局告ルニ實ヲ以テス公コレヲ憐ミ兒ヲ收テ歸ル以テ賴朝ニ聞カス賴朝人ヲツカハシ兒ヲ三郎ト名ツク近衞氏ニ在ル

「數年局ヒツカニ東州ニ遷リ八文字民部太輔惟宗廣言ニ嫁ス傳云廣言カ妻ハ島山庄司重忠ノ妹也早ク卒ス故ニ局ヲ以テ繼室トス局又一男ヲ生ム三方兵衛忠季ト稱ス忠久公若狭國ヲ讓リ且ツ島津氏ヲ冒サシムユエニ若狭島津トモ云フ故ニ三郎モ亦母ニ從テ廣言カ家ニ長ス因循テ惟宗姓ヲ冒ス傳ニ曰フ後ニ廣言日州庄内ニ居ス又土佐國ニ移居ス子孫アリ後還テ薩州ニ移ル局モ亦薩州ニ來リ卒ノル男ヲ生ム政家ト稱市來ヲ以氏トス市來氏眞久公ノ傳ニ出ツ○又云忠久公琉ヲ出東州ニ之ノ日近衛基通公忠久公若ル處ノ直衣菊閉ヲ解キ留テ紀念トス後ニ政子忠久公廣言カ家ニ在ルヲ聞キ見ンヲ欲ス公衆諸侯ノ見ト營中ニイタル政子侍臣ニ問フ侍曰菊閉ナキノ直衣ヲ着ルノ兒コレナリ後ニ忠久公奥州ヲウツノ日賴朝公菊閉ヲ加ントス島山重忠諫テ云近衛公コレヲ解ク公ハ春日明神ノ胄裔ナリ實ニ明神ノ解クカ如シ加フベカラス於是止

文治元年乙巳　治承五年七月十四日改テ養和元年トス二年四月廿七日改テ寿永元年トス三年四月十六日改テ元暦元年トス二年八月十四日改テ文治元年トス

○夏六月十五日伊勢國波出御厨地頭職須可御庄地頭忠久公七歳賴朝公卅九歳丹後局五十二歳

山重忠加冠ス已ガ名字ヲ授ヲ忠久ト稱ス此日左兵衛尉ニ任ス賴朝鳩作短刀ヲ賜テコレヲ賀ス今猶存ス且伊勢國波出御厨須可御庄地頭ニ任ス又重忠カ女（第六ノ女也母ハ本田二郎親恒女）ノ神主淨光明寺ニ立ツ聞ヲ失スユエニ享保十二年寺僧宗翁道号シテ眞樣院殿元光明一房ト云ヲシテ公ノ夫人タラシム

○秋八月十七日以進宗忠久爲島津御庄下司職賴朝忠久公ヲ島津御庄下司職ニ任ス傳云薩摩大隅日向ヲ島津御庄ト云○按ニ三州ハ往昔一國ニシテ日向國也是ヲ日向ト号スル「日本紀云孫行天皇「十二世」子七年春三月幸二子湯縣一遊二舟裝小野一時二東ニ望ミ謂ニ左右一曰出國也直ニ向レ於二日出一方一故ニ号二其國一曰二日向一也又按二神書一久々天津彦彦火瓊々杵ノ尊崩「地神三代」因テ葬二筑紫日向可愛之山陵一ト云ハ薩州水引郷八幡新田宮コレナリ元明帝和銅六年日向國ヲ割テ大隅國トス又分テ薩摩國トス○私謂三州ヲ以テ島津庄ト云「正史據ル處誣マカラス田中國明曰文治二年四月三日賴朝公御敬書島津庄ノ文書ニ片紙ヲ付テ云薩摩大隅日向ノ總名ナリトアリ片紙ノ字體料紙マテモ御敬書ノ字体料紙ト同コレヲ以テ我國傳記ノ據トス賴朝公島津ヲ以忠久公ノ氏トシ三州ニ封スルカ故ニ初テ島津ヲ以三州ノ名トスル乎

聖榮自記曰信濃ニハ忠久三男大炊高久住國ス

二年丙午

○春正月五日忠久公信濃國塩田ノ庄地頭職ニ正月八日又大隅日向薩摩三州ノ地頭職ニ任ス續テ三州ノ守護職ニ任スコレヨリ子々孫々相續テ無窮ニ傳フ私云封ヲウクル日月詳ニセスト雖モ封内牛尿氏ニ傳ル書及ヒ東鑑ヲ以テ考ルニ今年二月ナルベシ其書云下ニ島津御庄ニ可レ令下早停ニ止ミ旁濫行一從ニ地頭惟宗忠久下知一安ニ堵庄民一致中御年貢已下之沙汰上事　右諸國諸民地頭成敗之條者鎌倉進止也仍テ件ノ輩先日以ニ彼忠久一令ニ補任ニ畢而今殿下依下令ニ相替給上無ニ領家之定一至ニ于忠久地頭職者全ク不レ可レ有ニ相違一　筵令ニ安堵一土民無ニ懈怠一可レ令レ致ニ御年貢之沙汰一也兼又爲ニ武士井國人等一恣致ニ自山之濫行一或打ニ妨御年貢物一或背ニ忠久之下知一毎事令ニ對捍一之由有ニ其聞一所行之冒最以テ不當也自今以後停ニ止彼等之濫行一令レ安ニ堵住人一不レ可ニ違背一ニ忠久之沙汰一之狀如レ件以下ス文治二年四月三日賴朝花押書ノ發端ニアリ此書牛尿氏ニ藏ムル「數百年後ニ邦君ノ文庫ニ納ム按ニ東鑑三月一日諸國被補惣追補使非地頭云々忠久公ノ補任此時ナルベシ○或說云三州ハ鎌倉ヲ去ル「數百里殊ニ西國ハ平氏ノ故國ナルカ故ニ賴朝公我子ヲ封シテ其亂ニ備フ於是賴朝忠久公ニ命シ島津ヲ以テ氏トシ傳云三州ハ島ト津ト多シ故賴朝公毎ニ忠久公ヲ以テ島津殿ト稱ス十文字ヲ以帷幕ノ紋トシ傳云賴朝二ツ引ヲ紋トスユエニコレヲ縱横ニ三十字トシテ紋トス○或云賴朝公恭儉ヲ征スルノ日食ニ就クトキ箸ヲ取テ十字ノ形トシコレヲ紋トセシム又云旗ノ紋ハ地ヲ白クシ十字ヲ墨書シ幕ハ地ハ掛塵色ニシテ十字ヲ白書ス

大刀　劍工ノ名ヲ詳ニセス賴朝公常ニ帶ス小十文字ノ太刀傳云光世作源氏重代膝丸コレナリ○又云多田滿仲ノ作筑前國三笠郡土山ノ邑劍工アリ自言フ異國ヨリ來ルト滿仲命ノ二劍ヲ作ラシム工八幡ニ祈テ造ル長二尺七寸弾人ノ首ヲ斬ルニ一ハ鬚ヲ加ヘテ斬レユエニ鬚切ト名ヅク一ハ膝ヲ加ヘテ切ル故ニ膝丸ト名ック其子賴光ニ當テ渡邊ノ綱鬚切ヲ以テ鬼形ノ妖ヲ斬テ鬼丸ト改ム賴光膝丸ヲ以テ土蜘蛛ヲ斬テ蜘蛛斬ト改ム二劍ヲ次子山羽守賴基ニ與フ賴義貞任ヲ伐ノ日勅シテ頭義ニ與ヘシム然ノ義家義忠爲義ニ傳フ時ニ二劍聲アリ鬼切ヲ獅師ノ子蜘蛛切ヲ吼丸ト改ム熊野別當教眞ハ爲義ノ甥ナリユエニ爲義吼丸ヲ與フ教眞是ヲ熊野權現ニ献ス爲義又幡州ノ工ニ命シ似セ作テ小烏ト号ス背テ獅師ノ子ト并立ツ獅師ノ子倒レ小烏ヲ切ル仍テ友切ト改ム二劍ヲ義朝ニ與フ義朝夢ニ由テ友切ヲ膝丸ト改メ賴朝ニ傳フ小烏ハ義朝死後平家ニ傳フ教眞カ子增僧吼丸ヲ取テ義經ニ與フ薄綠ト改ム賴朝ト善ラサルニ及ンテ箱根權現ニ献シテ賴朝ノ怒ノ解センヲ祈ル後ニ箱根別當曾我時宗ニ與ヘテ祐經ヲウタシム時宗捕レテ賴朝ニ歸スヌ膝丸ト改ム太平記ヲ按ニ二劍賴朝ヨリ傳ヘテ新田義貞ニ至タリ義貞死後足利高經取テ尊

白尾國桂ノ薩藩名勝考ニ出テ水郡ヲ山門院トイヘリ今江内村ニ木丹城アリ吾太祖公薩隅日ノ守護職ヲ賜ヒシ時居城セシヒト傳フ今ハ舊跡ヲ氏ニ獻スト云愚謂滕丸ステニ忠久公ニ賜ヒ今ニ存スルトハ所謂尊氏ニ傳フルモノハ鋸切ト小烏ナルベシ

八幡大菩薩ノ旗（傳文覺八幡大菩薩ト號ス）八景ノ釜（銀ヲ以テ作ル八景ノ圖ヲ鑄ル）

五指量愛染明王（傳云弘法大師嵯峨帝ノ勅ヲ奉ノ谷渡リノ藤樹ヲ以テ一刀三拜ノツクルユエニ谷渡愛染明王ト云又五指量ト云ハ頭ヨリ蓮臺ニ至テ五指ヲ以テ量ルカユエナリ頼朝公ツテニ之ヲ信ス後ニ忠久公不等王院ヲ立テ本尊トス今猶存ス）

等コレナリ（共ニ今ヤ薩府城中護摩所ニ祭ル）

○秋八月二日始テ封ニ就テ薩摩國山門院ニ入ル木牟禮城（出水郷）ニ居ス（按ニ聖榮記建久四年八月二日忠久公鎌倉ヲ出京師ニ入ル後後白河法皇見テ以爲先ニ薩スル高倉宮ニ似タリト以テカク憐ム留テ京師ニアラシメンヿヲ欲ス近衛基通公及ヒ群公卿忠久公ヲ悦テ其西州ニ至ルヿヲ欲セリ故ニ京ニ留ルヿ數年建久七年六月朔日京ヲ出テ八月廿三日山門院ニ入ル○按寺院ヒ初ハコノ城ニ在居ナシ賜フ其墟ハ今高サ二丈餘ニ平地ナシテソノ四方泥沼ニテ東西ニ城ヲ築テ清水ニ居ス一寺ヲ野田ニ立ツ感應寺コレナリ○傳云薩州ハ王城ヲ去ルヿ遠シコエニ頼朝公歴學士ヲ屬ス故ニ世々國中ニ歴士在テ國歴ヲ用ウ　本朝歴士在テ行フヿ京師東都伊勢及ヒ我國ノミト云○按ニ酒匂氏記其先門ノ跡アリ　又本田親恒ヲシテ地圖刑部丞朝景忠久公ニ從ヒ國ニ入ル頼朝公纔ヲ忠久公ニ賜ヒ朝景ニ告テ曰ク是我吉例ノ纔也今ヤ忠久幼稚ナリ汝カ家ニ萩メ成長ノ後コレヲ授ケヨ於是酒匂氏ニ傳フ後以爲卿侮ルベカラス尊テ天ノ纔ト稱シ天吉大權現菩薩ト号シ頼朝ノ盤ト又忠久公ヲ一之宮大明神ト号シ府下中村邑ニ井セ祭ル）

後ニ日州堀内ニ移居ス（都城南郷ニ國ス按ニ都城南郷北郷中郷在リ安永川東ヲ北郷トシ南郷梅北ヲ南郷トシ上長飯下長飯鬱巢寺桂本前後久永丸田部安久ヲ中郷ト云〻傳云自是後本牟禮ハ忠時公久經公忠宗公貞久公ニ至テナヲ居ス）

五年己酉

○頼朝奥州ノ國守泰衡ヲ討ス先是伊豫守源義經（頼朝公ノ季弟）罪ヲ頼朝ニ得タリ（傳云義經不家ヲ討シ屢々奇功ヲ立ツ遂ニ矜テ士ヲ侮ル恨ルモノ多シ嘗テ平氏ヲ讃州ニ討ツ梶原景時船ニ逆櫓ヲ設ケ進退ニ備ントス義經コレヲ罵辱ム景時恐慎ノ遂ニ頼朝ニ讒ス）逃亡シテ陸奥守秀衡ニ寓ス去年秀衡卒シテ其子泰衡封ヲ襲ク頼朝ニ奏シテ義經ヲウタンヿヲ乞於是泰衡ニ勅シテウタシム頼朝

亦使ヲ遣ハシテ泰衡ニ令ス四月泰衡義經ヲ攻撃ツ義經妻子ヲ殺シ自殺ス（年三十一）頼朝泰衡カ久シク義經ヲ庇スルヿヲ惡ミ兵ヲ起シ罪ヲ問フ軍ヲ分ツヿ三ツ一ハ千葉介常胤八田右衛門尉知家ヲ將トシ常陸下總ノ軍ヲ屬シ東海道ヨリ奥州ニ至ル一ハ比企能員ヲ將トシ上野ノ軍ヲ屬シ北陸道ヨリ入ル一ハ頼朝自將軍ヲ督シ東山道ヨリ向フ畠山重忠先鋒タリ重忠將ヲ請フ於是忠久公ヲ以テ先鋒ノ將トシ（按ニ東鑑重忠先鋒タルヿヲ記スト雖モ忠久公ノ將タルヿヲ記セサル乎順ニ公年纔ニ十一人其重忠カ衆ヲ統ルヿヲ見テ公ヲ記セサル乎）頼朝書ヲ重忠ニ賜テ獲稱ス獲中ニアカウ所三郎チヤウヤウニセンコヒタルモノ電忠ヲメコレニ輔佐セシム（傳云八月十五日諸軍神社佛閣ニ狼藉ス重忠カ軍ノミ号令嚴正ニシテ犯乱ノ行ナシ存ノ寶也今ヲ世々ニ傳ヘ授ケテ世々ニ譽ノ小字忠久公ノ諱ハ其君上上ノ邦ヲ賞ス）

ノツイフクシタルナリノ文アリコレ民部丞平盛時奉書ナリトイヘ共公ノ親書ナリユヘニ傳ヘテ國家第一ノ珍トス整宇林先生「春齊メ子從五位下大學頭ニ任ス」其書ニ跋ス奉古雅ニシテナルト云フ

○八月西木戸太郎國衡（泰衡庶兄）阿津賀志山（奥州ニ逆ヘ戰フ利アラス）

○九月頼朝ス〻シテ平泉（泰衡コレニ居ル）ヲ攻撃ツ泰衡狼狽シテ厨河ニ走ル其臣河田次郎泰衡ヲ弑シテ頼朝ニ降ル（浩衡初テ奥州ニ牧タリシヨリ基衡秀衡泰衡相繼テ四世九十余年ニシテ亡フ）頼朝將士ノ功ヲ論シテ賞ヲ賜フ忠久公ヲシテ若狭國守護職ヲ兼シム忠久公異父弟三方兵衛忠秀ヲ以テ守護代トス（按ニ聖榮記ニ忠久公此時三州ノ守護ニ任ストスルハ非ナリ○傳云自是忠季ヲ以テ若狭島津ト稱スル東鑑ニ若狭兵衛尉忠季ト稱スルコレナリ其子賤間兵衛次郎忠經ト稱ス後島羽帝ニ仕テ西面士タリ承久乱官軍ニ屬シ宇知川ニ戰死ス後子孫ヲ見ルヿナシ寛永中島津久通東武ニ在テ若州ノ有士ニ會シ忠季ノ後ヲ問フ有司版テ國中ニ求ム三方郡伊崎村ノ農民九左衛門五世ノ祖ヲ島津八郎左衛門ト稱ス世々島津ヲ以テ氏トス子孫ニ至テ氏ヲ三方及井崎ト改ム是忠季ノ支流餘裔ナラン乎）

後鳥羽帝（文法三年九月九日爲島津御領押使）

一說

按ニ此時頼朝作テ親書ヲ賜ヒシニ曰我子三郎ヲ助ケ功名サセ○按ニ三郎ハ忠久公ノ字也其君上ノ譽ノ寶也今ニ世々ニ傳ヘ授ケテ獲稱ス獲中ニアカウ所三郎チヤウヤウニセンコヒタルモノ是ニ後ニ子孫ニ序ヲ稱シ國史官裏田中國明「五右衛門」ト解ス）

一卷ニ年ノ作ル成ル

建久八年十二月三日以忠久爲大隅薩摩兩國御家人奉行人御年十九歲公五十歲賴朝公十四丹後局六

建仁三年癸戌文治六年四月十一日改テ建久元年トス十年四月二十一日改テ建仁元年トス正治元年トス三年二月十三日改テ

○秋九月二日比企判官能員將軍頼家ト議シテ實朝及北條氏ヲ亡サントス發覺シテ能員誅セラレ頼家モ亦廢セラル事ハ前ニ見ヘタリ此時忠久公國ニ在リ其事ヲシラストイヘ𪜈能員カ女弟ノ子タルヲ以テ坐セラレテ國除セラル九月四日幾ナラスシテ有司議シテ曰罪ナキヲ罰スルハ亂ノ端ナリ於是赦シテ封ヲ復ス同月十日ナリ○傳云此時實朝忠久公ヲ鎌倉ニ召ス比企氏カ亂ヲ聞テ坐ノ及ンヲ恐ル故ニ願書ヲ作テ隅州清水台明寺ニ納テ云召ニ應シカマクラニ至リ無事ニシテ歸ユヘハ三間四面ノ堂ヲ作テ是ヲ報セン其書今猶存ス台明寺初天台宗ノ要帶ナリ立久公ノ此眞言宗トナル寺傳ニ云天智帝ノ勅願寺ナリ古昔筍竹貢御ノ地ナリ綸旨等許多敵ム一說建久八十二月三日爲大隅薩摩西國御家人奉行人

建保元年癸酉建仁四年二月二十日改テ元久元年トス三年四月廿七日改テ建永元年トス二年十二月二十五日改テ承元々年トス五年三月九日改テ建暦元年トス三年十二月廿六日改テ建保元年トス

○春二月二日武藏守北條泰時義時ノ子賢材アリ將軍ニ告テ云人惟賢ニ則ル、庶ハ善日〳〵ニス、ム文武材藝ノ人ヲ以テ常ニ君ノ左右ニ候シ和漢古今ノ嘉言善行ヲ言シムベシ實朝コレヲ納ル於是十八人ヲエラヒ分テ三トシ代テツヽニ近侍シ務述〳〵邪ヲ閉チ補益スルヿアラシム忠久公選擧第一ニアリ當時以テ榮トス按ニ東鑑云建暦三年二月二日昵近祇候人ノ中撰ニ藝能之輩ニ被ニ諸番一各當番日者不去御學問所令ニ參候一面々隨時ノ御要又和漢古事可レ語ニ申之一由云々武州被レ奉ニ行之一

○夏五月左衛門尉和田義盛叛ス先是義盛上総國守護タランヿヲ將軍實朝ニ乞フ許サス義盛恚ム時ニ泉小次郎親平ノ人頼家ノ子千壽ヲ立テ將軍トシ北條氏ヲ亡サンヿヲ謀ル義盛カ志ヲ得サルヲ聞キ人ヲシテ義直義盛第四子義重同第五子胤長義盛ニ說シム三士諾ス發覺シテ其黨拘繫セラル義直等モ其中ニ在リ義盛欺訴ス於是義直義重免ヲ得タリ明日義盛一族九十餘人ト共ニ營ニ至テ胤長カ赦ヲ乞フ將軍可カス縛テ奥州ニ流ス義盛益恚ム胤長カ宅ハ營ノ東隣ニ在リ義盛又之ヲ乞フ將軍可ク北條義時是ヲ止ム更ラ義時ニ給フ義盛怨憤ニ堪ス兵ヲ起ス將軍使ヲツカハシテ故ヲ問フ義盛曰ク既ニ三世歷仕シテ厚恩ニ浴ス豈ニ叛ヲ謀ンヤ義時不義行アツテ吾儕ヲ侮ル故ニ子弟等是ヲ問ハントス臣是ヲ制スレ𪜈アタハス止ムヿヲ得スシテコレニ從フノミ義時驚テ營中ニ入ル士太夫悉ク營中ヲ保ツ義盛軍ヲ分テ營ヲ襲フ五月二日朝比奈三郎義秀義盛第三ノ子勇力絶倫門ヲ破テ營中ニ入リ火ヲ放ヲ勢ニ乘シテ力戰ス殺傷甚多シ將軍難ヲ法華堂ニ避ク義盛カ軍益奮ヒ戰フ波多野朝定彌二郎ト稱ス千葉介常胤難ヲ聞キ兵ヲ卒シ來テ義盛ガ後ヲ襲フ義盛カ軍大ニ潰ユ義盛乱軍ノ中ニ死シ其子義直義重義信秀盛悉ク戰死ス義秀ハ房州ニ走テ其後ヲシラス或云高麗國ニ往ク義盛カ軍死スルモノ二百三十餘人營中死スルモノ亦數百人ニ至ル忠久公功アリ實朝コレヲ賞シ甲斐國波加利新庄ヲ賜フ五月七日掃部助忠直忠久公第三ノ子按ニ忠直建長中鎌倉ニアツテ將軍宗尊親王ニ事フ十二世ノ孫ヲ宮里久光ト稱ス其後傳記ニ不見ヲシテ爰ニ居ラシム一說五月七日以和田合戰之功賜甲列波加利新庄

六年戊寅

○忠久公考顯朝公妣丹後ノ廟ヲ薩摩國家院厚地邑日置郡郡山鄕ニ立ツ号シテ花尾大權現トイフ厚地邑ヲ祭田トス井上氏カ記云山上素ヨリ一社アリ熊野權現ト号ス山上山下通ノ花尾權現ト云又一寺ヲ傍ニ立テ花尾山平等王院ト号シ別當

寺トス僧永金ヲシテ爰ニ居ラシム後ニ永金卒ノ又アハヤ祭ル

承久年己卯建保七年四月十二日改テ承久元年トス

○秋七月北條義時藤原頼經關白道家四男ヲ京師ニ迎ヘテ立ツ忠久公コレニ從フ後軍十六騎將ノ第一タリ頼經年譜ニ二歳殺時其母二位尼ト共ニ政ヲ專ニス

三年辛巳

○夏四月上皇諱ハ尊成後鳥羽帝北條氏ヲ討センヿヲ謀ル初上皇紀州熊野ニ幸ス路ニシテ仁科盛遠信州ノ士ガ兒年十五ヲ見テ悅ブ召テ侍童トス盛遠又召サレテ奉仕ス義時怒テ曰盛遠鎌倉ノ命ヲ待スシテ恣ニ院宣ニ隨フ是鎌倉ヲ蔑如スルナリ遂ニ其采地ヲ奪フ上皇義時ニ詔シテ是ヲ返シ與ヘシム義時聽カス上皇怒ル又上皇愛妓アリ龜菊ト稱ス攝州長江倉橋ノ二庄ヲ給フ庄ノ宰龜菊ヲ侮ル龜菊怒テ上皇ニ訴フ上皇義時ニ命シテ宰ヲ代シム義時辭シテ曰夫諸國ノ主宰ハ前將頼朝ノ定ムル所ナリ罪ナクンハ私ニ代カタシユヘニ院宣ニ從フヿアタハス上皇益々怒リ終ニ兵ヲ揚テ義時ヲ討ントス於是義時兵十九万ヲ起シ弟相摸守時房及長子武藏守泰時ヲ將トシ三軍ニ分テ東海道時房泰時將タリ從軍十万東山道武田信光小笠原長清小山朝長結城朝光將タリ從軍五萬北陸道義時次男朝時結城朝廣佐々木實信將タリ從軍四万ヲ經テ地ヲ略シ營ニ薄ル上皇兵ヲ發シテ宇治山州勢多州江ニ戰フ忠久公忠時公及ヒ若狹兵衛忠季泰時ニ屬シ河ヲ渡リ敵ヲ討テ功アリ上皇ノ軍利アラス帝及諸王比叡山一乘止觀院延暦寺ト号ス近江國ニアリ延暦七年桓武帝ノ勅願ニ由ヲ最澄草創今寺領五千石ニ遁ル東軍追ヒ至テ捕ヘ上皇ヲ隱岐國ニ帝諱守成上皇第三ノ子九條廢帝ト号ス

順德帝ト謚スヲ佐渡國ニ土御門帝上皇長子ヲ土佐國ニ皇子雅成六條宮ト稱ス上皇第三ノ子ヲ但馬國ニ賴仁冷泉宮ト稱ス上皇第四ノ子ヲ備前國ニ移ス義時後堀河帝八十五世諱ハ茂仁上皇ノ兄守定親王ノ子ナリヲ立ツ傳云小川太郎季能承久乱字治川ニ功アリ薩州甑島ヲ賜フソノ子小太郎來テ島ニ居ス世々相傳テ天正年中ニ至リ小川越前守ト稱スユヘアツテ甑島ヲ收ラレ更ニ五百石ヲ賜フ

○五月信濃國大田庄ヲ忠久公ニ加賜フ公爰ニ移ルノ志アツテ果タサス

○六月近衛基通公忠久ヲ以契子トス於是惟宗姓ヲ改テ藤原姓ヲ冒ス一說ニ忠久公始テ封ニ就ノ日京師ヲ過テ藤姓ヲ免サルト云自是世々藤原ヲ以テ姓トス寛永八年光久公元服ノ日源姓ニ改ム此時侍從ニ任スル口宣ニ源光久トアリ此ユヘニ支族寛永八年ヨリサキニ分レタルハ藤原姓ヲ冒シ後ニ分レタルハ源姓ヲ冒ス越前島津氏ノ支族ニ至テハ惟宗姓ヲ冒ス

又桐牡丹ノ紋近衛氏衣冠ノ紋免サル十文字ト幷用ス

○秋七月十二日越前國守護職ニ任ス次子周防守忠綱守護代トシテ爰ニ居スコレヲ越前島津ト稱ス越前島津氏職牒公ノ傳ニアリ

○忠久公左衛門尉太夫判官豐後守ニ歷任シ從五位下ニ叙ス封ヲウクルヿ薩摩大隅日向越前若狹ノ五州及ヒ勢甲信ノ三州ノ内ヲ領ス

○本田氏名字不詳酒匂氏名字不詳長澤左衛門姓名不詳ヲ以テ國老トス

嘉祿三年承久四年丁亥四月十三日改テ貞應元年トス三年十一月廿日改テ元仁元年トス二年四月二十日改テ嘉祿元年トス

○六月十八日辰刻相州鎌倉ニ薨ス平素脚氣之疾ヲ患ヒ亦痢ヲ病テ薨ス鎌倉ニ葬ル墓アリ年ヲ享ルヿ四十九得佛道阿彌陀佛ト謚ス墓ヲ薩州感應寺野田ニ廟ヲ本立寺五道院清水山ト云始寺号ナシ光久公論語君子務本々立而道生ノ字ヲ取リ本立寺ト号セシムニ神主ヲ淨光明寺ニ松

山無量壽院淨光明寺文治年中創建開山宣阿說誠和尚ト云時衆宗タリト雖モ一遍上人ニ先ツ九十年ナリ立テ祭ル按ニ忠久公ヲ郡山鄉東俣村ニ祭リ一之宮大明神ト号ス井上氏記ニ云忠久公銅坐年記不詳

謹按ニ　太祖矣寛洪ノ德豪邁ノ資惟德惟行フ西海ニ表トシ法ヲ百世ニ立治体ヲ審ニシテ德ヲ三州ニ布ク國ヲ建テ六百年夏后ノ四百歲ニ過ク統ヲ垂テ二十餘世豈周家三十余君ヲ期センヤ苗裔斯ニ玆々トシヲ餘烈今ニ汎々タリ洋々乎トシテ忘ルヽヿアタハス嗚呼盛ナルカナ

越後國島津氏系圖左之通

頼朝

島津左兵衛尉

忠久　左衛門尉太夫判官豐後守從五位下治承三十二晦生　母丹後局所生惟定廣言女嘉祿三六十八年四十九

初忠義

忠時　三郎兵衛尉建仁二生　母能員ノ五女文永九卒ス

◎忠時公

忠久公ノ長子母ハ畠山庄司重忠ノ女建仁二年壬戌生ル初三郎兵衛忠義ト稱ス左兵衛尉左衛門尉修理亮大隅守ニ歷任ス承久三年辛巳ノ乱前ニ出ツ北條泰時ニ屬ス鎌倉ヲ發シ五月二十二日山州宇治川ニ戰フ官軍川ニ臨ミ陣ヲツラ子繩ヲ水底ニ張テワタルヿヲ得サラシム忠時公二十勇壯絶倫駿馬ニ鞭ウッテ川ヲ渡ル刀ヲ拔テ繩ヲキリ岸登テ敵ヲ破ル終ニ四人ヲ斬ル三人ヲ虜ニス按ニ此片忠時公ノ帶スル太刀ヲ綱切ト名フク今猶存ンス東軍勝ニ乘シ京師ニ入リ上皇ヲ隱岐國ニ遷ス忠時公車駕ヲ護シテ隱州ニ至ヲ歸ル秋八月功ヲ賞セラレテ越前國生部庄久安保重富ノ地頭職ニ任ス按ニ忠久公今年七月越前國守護ニ任ス其中ニノ三庄ヲ忠時公ニ賜フ乎

承久四年壬午四月十二日元ヲ貞治ト改ム

○二月六日頼經公犬追物ヲ南庭ニ見ル駿河前司義村撿見タリ忠時公申次嗛次ヒ云タリ按ニ犬追物撿見通達スル人是ニ任ス最重職タリトイフ嗛次ハ其故實ニ

貞應二年

○六月六日近江國興國寺庄地頭職ニ任ス同年十月十三日北條義時才能ノ士ヲ撰ンテ常ニ頼經公ノ左右ニアラシムコレヲ近習番トイフ忠時公其中ニアリ

嘉祿三年

○封ヲ襲ヲ左衛門尉藤原重頼姓不詳刑部左衛門尉ヲ守護代トス善心姓字不詳ヲ惣地頭代トス

久經（初久時）
嘉祿元生
弘安七卒
伊達念姓女

仁治三年
○二月廿二日越前國生部ヲ轉シ和泉國和泉郷地頭職ニ任ス
寛元四年
○秋七月故征夷大將軍頼經職ヲ辭シテ洛ニ歸ル忠時公コレニ從ヒ京ニ至テ歸ル
寶治元年
○十二月十六日將軍頼嗣（頼經ノ子）諸侯二十二人ヲシテ代ル〳〵京師ニ在テ省中ニ宿直セシム三ケ月ヲ以ヲ期トス忠時公モ其撰ニアタル
二年
○十月左衛門尉忠綱（忠時公ノ弟越前島津氏ノ祖）高麗山柄ヲ將軍ニ獻ス（東鑑云島津豐後左衛門尉忠綱以高麗山々柄獻將軍家其色白而如雪其聲不相似吾國烏帽府賞翫只此事ナリ）
建長二年
○春三月開院ノ内裏ヲ造ル北條氏以下天下ノ諸侯太夫コレニ與ル忠時公北ノ弘御庄ヲ擘ル（東鑑北弘御所（島津豐後前司跡同西ノ屋周防前司入道跡樋二ヶ所若狭兵衛入道跡云々）
四年
○春三月故將軍頼嗣（將軍頼經ノ子）鎌倉ヲ辭シテ洛ニ歸ル四月三日夫人世子モ亦尋テ歸ル忠時公及ヒ三郎左衛門尉忠久（忠久公三男）是ニ從フ時ニ久經公（此時修理亮久時ト稱ス）路次奉行十四人ノ内ニ在リ

文久九年壬申
○夏四月十日薨ス享年七十一道佛仁阿彌陀佛ト謚ス墓ヲ感應寺ニ廟ヲ本立寺ニ神主ヲ淨光明寺ニ立ツ
謹按ニ　忠時公位ヲ嗣テ靜深克ク前烈ヲ紹キ小大德ニ懷キ武ヲ偃セ文ヲ修ムスデニ治テ且ツ安ク政簡ニ刑措ノ風アリ

○久經公

忠時公ノ次子長ハ式部少輔忠儀ト稱ス側室ノ子ナルカ故ニ家督タラス忠時公薩州牛屎院「大江山野羽月」谷山ノ内山田上別府ヲ賜ヒ山田ニ居スユヘニ山田ヲ以テ氏トス將軍ニ仕ヘ勳功ノ賞トシテ越中國フスマヘノ庄ヲ賜フ十二世ノ孫次郎左衛門久武命ヲ奉シ志布志ニ在テ藩鎮タリ子孫相傳テ爰ニ居ス同祖シテ志布志郷士トナル十五世七郎右衛門久陳ト稱ス吉貴公ノ時召テ府下ノ士トス十七世ノ孫山田七郎左衛門是ナリ支族繁茂ス　母ハ伊達判官入道念姓妹卒保年中道隆ノ得度院殿忍西生一房ト云神主ヲ淨光明寺ニ祭ル　嘉祿元年乙酉生ル修理亮下野守久時ト稱ス後ニ久經ト改ム

正嘉元年丁巳

○冬十二月撰ハレテ結番ニ任ス五郎左衛門忠景周防守忠綱ノ第三子文才アリ和歌ヲ善ス　亦是ニ任ス東鑑云結番事興櫃要之輩以仙洞之儀被摸東鑑云於御所中被定畢費番其内於壯士歌道蹴鞠管絃右筆郢曲以下堪一藝之輩於時依可有御要結番定

正元二年庚申正嘉三年三月廿一日改テ正元元年トス

○春正月廿日又撰バレテ殿中畫番ニ任ス忠景モ同列タリ

文永九年壬申

○夏四月封ヲ襲テ立ツ

建治元年乙亥文永十二年四月廿五日改テ建治元年トス

先レ是元ノ忽必烈元ノ世祖是也中國ニ入テ宗ヲ亡シ文應元年外國ヲ征シ連年兵ヲ用ユ大將軍惟泰親王宗尊親王ノ子母ハ太政大臣藤原兼經女文永元年鎌倉ニ生ル征夷大將軍從二位中納言ニ任シ右近衛大將ヲ兼ヌ初藤原頼經實朝ニ繼テ鎌倉將軍タリ寛元四年職ヲ辞シ京ニ歸ル子細闕立ツ八年ニシテ京ニ歸ル北條時頼後嵯峨帝第一子宗尊親王ヲ迎ヘ立ツ十五ニシテ辞シ帰ル於是惟康親王ヲ立ツ　西州ノ牧白ニ命シ筑前國箱崎津ヲ守ラシム故ニ久經公軍ヲ領シコレヲ保ツ

弘安四年辛巳建治四年二月廿九日改テ弘安元年トス

○夏五月元ノ阿剌罕范文虎及ヒ忻都洪茶丘兵二十四万ヲ率シ西州ニ寇ス阿剌罕路ニシテ病テ死ス元主世宗左丞相阿塔海ヲ以テ是ニ代フ范文虎其至ルヲ待ス船ヲ發シ平壺島肥前國平戸乎ニ至ル山竜山未考ニ移ル久經公西州ノ諸侯ト共ニ迎ヘ戰フ暴風頻ニ起テ元ノ船ヲ覆ス元將三人遁レ去ル按ニ通鑑日擊日本兵十余万死于海島還者僅三人　元軍島ニ在テ粮ヲ絶ツ本朝ノ軍進擊テ盡殺シ三万余人ヲ虜ニス悉ク斬ル或云千間莫甫吳方五三人ヲ放シ帰テ狀ヲツケシム將軍又宇都宮貞綱ヲ中國ノ軍ニ將トシテ西州ニ至ラシム備後國ニ至テ元軍ノ敗ヲ聞ク然共軍ヲ班サス西州ニ至テ復ヒ寇スルニ備フ元主詔シテ艨艟五百餘ヲ造ル又入寇セントヲ謀ル群臣諫レドモ聽カス吏郡尚書劉宣上書シテ極諫ス於是止ム

酒匂兵衛入道稱阿沙彌淨念姓不詳左衛門太夫定重姓不詳僧唯道ヲ國老トス五郎兵衛尉經親姓不詳沙彌淨念ヲ守護代トス

七年甲申

○夏閏四月二十一日久經公箱崎營中ニ薨ス享年六十道忍義阿彌陀佛ト謚ス墓廟神主前ニ同シ公平素義ヲ嗜ム法制ヲ立テ後昆ニ傳フテ曰子ヲ立ルニ嫡長ヲ以テスルハ人倫ノ常ナリトイヘドモ不義ノ

人ニ至テハコレニ授クルニ國家ヲ以テスベカラス（傳云公筥崎ニ在リ阿蘇谷大炊介久時「久經公五弟」ナルモノ多シ市來太郎政家コレヲ惡ミテ曰彼レ大守ノ弟タルヲ以テ驕ル吾輩ヲ見ルヿ家人ノ如ス忠久公ハ吾先祖八文字廣言カ子ナリ吾レト久時ト何ノ高下カアラン久時怨篤テ曰汝ハ雅宗氏カ後我先忠久公ヲ以テ汝カ祖ノ出所トスルヤ妄ナルヿ甚シ二人爭テ止ス終ニ將軍ニ聞ス於是二氏ノ系譜ヲ出サシム忠久公ハ頼朝公ノ子ニノスデニ近衛氏契子タリ廣言カ子ニ非ルヿ明ケシ政家妄言ニ決ス久經公筥崎ニ在テコレヲ聞テ嘆曰ク久時禮ナキニ起ル即國ニ帰リ久時カ守護代ヲ免シ又筥崎ニ到ル○久時ハ忠時公第六子ナリ讓ヲ得テ伊賀國長田郷ヲ領ス子孫アリ薩州羽月ニ居ス阿蘇谷六左衛門ト稱ス○史記晋世家云太子奉家祀社稷之粢盛以朝夕覗君膳者也故曰冢子君行則守從々曰撫軍守ヲ監國）

謹按ニ　久經公克嗣キ克守ル道大ニシテ德宏也後昆ニ敎ルニ義方ヲ以テシ忠貞ヲ方寸ノ内ニ守リ夷賊ヲ万萬里ノ外ニ屏ク賢ヲ親ミ姦ヲ遠サケ信ニ賞シ必ス罰スコレヲ成康ニ比ス誰カ得テ間然センヤ

全伏敵編ニ云弘安七年閏四月鳴津忠宗父久經ノ職ヲ襲キ箱崎戍兵ヲ領ス

●忠宗公

久經公ノ長子母ハ相馬小次郎左衛門尉胤綱女享保中追謚シテ淨温院殿妙智神一房トス神主ヲ淨光明寺ニ立ツ　建長三年辛亥生ル

弘安元年戊寅

○久經公ニ從テ箱崎津ヲ鎮ス久經公薨シテ猶爰ニ在ルヿ數年ナリ（傳云此時國中ニ事アリ其事ヲ詳ニセス錄倉執權令ノ曰有オノ人チノ文書ヲ齎ラシメ京師文註所ニ出ノ決ヲ執ルベシ忠宗公其人ヲ撰ンテ山田孫五郎撰ニアタル孫五郎啓曰事決セスンハ生ヲ保テ國ニ帰ラシ山田氏三世ノ書ヲ齎テ京ニ到リ事ヲ決シテ帰ル京師四條神ヲ圍テ帰リ小社ヲ薩州伊作ノ惣八幡神ノ社傍ニ遷テ祭ルアカシ王神コレナリ）

嘉元元年癸卯弘安十一年四月廿八日改テ正應元年トス六年四月二十日改テ永仁元年トス七年四月十六日改テ乾元元年トス二年八月五日改テ嘉元々年トス

○後宇多上皇九十世　大納言藤原爲世ニ勅シ時ノ倭歌ヲ撰ハシム先是大同中橘諸兄平城帝ノ十五世勅ヲ奉シ倭歌四千三百十五首ヲ撰シ萬葉和歌集ト号シ延喜中五年紀友則紀貫之壬生忠峰大内河内躬恒醍醐帝六十ノ詔ヲ奉シ千五百首ヲ撰シ古今首ト号シ一代ノ盛事トスコレヨリ世々時ノ歌士ニ詔シテ和歌ヲ撰スルヿ大凡恒例タリ（天暦五年能宣順元輔時文望城村上帝ノ勅ヲ奉シ千二百二十首撰ス後撰集ト号ス永觀中花山帝祝千三百五十一首ヲ撰ス拾遺集ト号ス應德中通俊白河帝ノ命ヲ奉シ千二百十八首ヲ撰ス後拾遺集ト号ス天治帝後紹崇德帝ノ命ヲ奉シ六百四十九首ヲ集ム金葉集ト号ス天寶中國相四百九十首ヲ集詞花集ト号ス近衛帝ニ献ス保元中後成後白河帝ノ命ヲ奉シ千二百八十四首ヲ集メ千載集ト号ス元久中道具定家家隆有家雅經後鳥羽上皇ノ命ヲ奉シ千九百七十八首ヲ集メ新古今集ト号ス貞永中定家後堀河帝ノ命ヲ奉シ三百七十一首ヲ撰シ新勅撰集ト号ス建長中爲家後嵯峨上皇ノ命ヲ奉シ千三百六十八首ヲ撰シ續後撰集ト号ス文永中後嵯峨上皇又基爲々家行家光俊ニ命シ千九百七首ヲ集シメ續古今集ト号ス建治年中爲氏龜山上皇ノ命ヲ奉シ千六百首ヲ撰シ續拾遺集ト号ス嘉元中爲世後宇多上皇ノ命ヲ奉シ千九百七十首ヲ集メ新後撰集ト号ス正和中爲兼伏見上皇ノ命ヲ奉シ二千八百三首ヲ集メ玉葉集ト号ス元應中宇多上皇命ノ二千百二十首ヲ集シテ續千載集ト号ス正中中爲定後醍醐帝ノ命ヲ奉シ千三百四十三首集メ續後拾

貴龜ト号ス貞和中花園上皇白二千二百十首ヲ撰ノ風雅集ト号ス延文中爲貞後光厳帝ノ命ヲ奉シ撰ノ新千載集ト号ス貞治中爲明又後光厳帝ノ命ヲ奉シ撰ノ新拾遺集ト号ス至徳中爲瑞後小松帝ノ命ヲ奉シ撰シテ新後拾遺集ト号ス永享中雅世後花園帝ノ命ヲ奉シ撰シテ新續古今集ト号スコレヲ号シテ二十一代集ト云フ　於是爲世千九百餘首ヲ撰シ新後撰集トシテ獻ス忠宗公

倭歌ヲ賦シテ聲譽アリ爲世忠宗公ノ歌二首ヲ撰テ集ニ載ス

波コユル油ノ湊ノ浮沈ウキテハヒトリ子ヲナカレケル　按ニ新後撰集戀歌第四ニノス惟宗忠宗トアリ

中々ニウキモツラキモ知レスハ心ノ儘ニ世ヲハ過サン　按ニ同集雜歌中ニアリ

文保元年丁巳　嘉元四年十二月十四日改テ德治元年トス三年十月十八日改テ延慶元年トス二年正月二十日改テ正和元年トス六年二月三日改テ文保元年トス

○將軍守邦親王日州高知尾庄肥前國福万名松浦庄ノ内早湊村内ナリヲ忠宗公ニ加ヘ封ス

元應元年己未　文保三年四月二十八日改テ元應元年トス

○上皇復ヒ勅シテ續千載集ヲ撰セシム亦忠宗公歌一首ヲ撰テ載ス　集中雜歌上ニアリ

風渡ル夏見ノ川ノユフ暮ニ山カケ涼シ日クラシノ聲

○本田左衛門次郎入道道意安藤四郎左衛門景綱景光　姓字不詳或云酒匂氏乎　酒匂兵衛入道阿忍平内兵衛入道　姓名不詳　沙彌西念ヲ國老トス藤原範政　姓字不詳　ヲ守護代トス

正中二年乙丑

○冬十一月十二日　薨ス享年七十五道義仲阿彌陀佛ト諡ス墓廟神主ヲ建ルヿ前ニ同シ

謹按ニ　忠宗公紹述憲章シテ賊ヲ逐ヒ瑾ヲ懷キ瑜ヲ握ル思ヒヲ和歌ニ深クシ名聲升騰ス善政嘉敎泯沒シテ傳ハラス勝テ嘆スヘキカナ

西藩野史卷之二終

西藩野史卷之三

◎貞久公

忠宗公ノ長子母ハ三池杢介入道々智女辛保中追贈ノ理左院殿惠照見一房ト号ス 文永六年己巳生ル三郎左衛門尉ト稱ス上總介ニ任ス

正中二年乙丑

○忠宗公薨シテ襲テ立ツ

正慶二年癸酉 正中三年四月廿六日改テ嘉暦元年トス四年二月二日改テ元德元年トス三年八月十日改テ元弘元年トス二年三月廿二日改テ正慶元年トス

○初後醍醐帝 諱ハ尊治 九十五代 永太子タルノ片北條氏世々天下ノ權ヲ執テ 按ニ北條氏平時政頼朝ニ相ノ從五位下遠江守ニ任ス頼家立後北條氏ヲ謀ル成ラスノ廢セラル實朝立ニ及テ時政カ子義時代テ相タリ從四位陸奥守ニ叙任ス頼家ノ子公曉ヲノ實朝ヲ殺サシメ又公曉ヲ殺ス於是源氏絶ユ藤原氏頼經ヲ乞テ將軍ニ任ス幼キヲ以テ頼朝ノ夫人「義時カ妹」簾ヲタレテ政ヲキクヿ八年承久中後鳥羽上皇北條氏ヲ征ノ克タス義時帝ヲ廢シ上皇及皇子ヲ遠國ニ遷ス義時卒ノ子泰時立ツ頼經ヲ廢シテ子頼嗣ヲ立ツ泰時カ孫經時代テ相タリ頼嗣ヲ廢シテ宗尊親王ヲ立ツ經時卒ノ弟時頼廢テ相タリ亦廢シテ惟泰親王ヲ立ツ時頼カ子時宗父ニ代テ相タリ亦廢シテ久明親王ヲ立ツ時宗カ子貞時代テ相タリ亦廢シテ其子守邦親王ヲ立ツ貞時卒シテ子高時幼シユヘニ其族宗宣師時并ンテ相タリ六年ニノ高時代テ相タリ特ニ將軍ノ廢立ノミニアラス承久乱後帝ノ廢立モ亦北條氏ニ由ル 驕横不法擊斷自恣ナルナニクムコレヲ討シテ政ヲ專ニセンヿヲ欲ス位ニ卽テ學ヲ好ミ諸儒ニ命ノ五經三史ヲ講セシム政ヲ治ノ務テ貧民ヲ賑濟ス相摸守高時將軍ニ相タルニ及テ資辯捷疾淫酒度ナシ隔膜國ニ徧ク懊懷巷ニ滿ツ 帝以テ時至レリトシ密ニ中納言資朝右少辨俊基等ト謀ル發覺シテ高時 先是嘉暦三年病ニ由テ薙髮シテ崇鑑ト稱ス弟左近太夫泰家代テ相タリ 資朝ヲ佐州ニ遷シ後ニ殺ス 俊基ヲ錮ス亦殺ス

帝ヲ廢シ他州ニ遷サントス帝ヒソカニ遁レテ笠置山（山州相良郡ニアリ寺アリ笠置寺ト名ツク後鳥羽帝ノ時解脫上人創建）ニ幸シ城築シテ兵ヲ徵ス高時常盤駿河守範貞ヲ將トシ大軍ヲ發シテコレヲウタシム帝ノ軍利アラス有王山ニ遁ル範貞追テ帝及諸王ヲ捕フ元弘二年三月於是高時帝ヲ隱岐國ニ中務卿親王（帝第一子）土佐國ニ妙法院親王（帝第二子）ヲ讃岐國ニ流ス先是詔ヲ奉シ判官楠正成（多門兵衛ト稱ス河州ノ人ナリ敏達十八世從五位上楠正遠ニ男也智勇謀畧忠肝義膽世以テ古今ノ良才トス高時亡後河攝泉三州ニ封セラル建武乱攝州湊川ニ戰死ス年四十五後三位中將ヲ贈ラル）ハ河內國ニ赤松圓心（次郎則村ト稱ス其先村上帝ノ子具平親王ニ出ツ親王ノ子師房從一位右大臣ニ任ス始テ源姓ヲ賜フ八世ノ孫季房播州國史ニ任スコレヨリ武人トナル則村ハ季房九世ノ孫也）ハ播磨國ニ大塔宮護良親王（後醍醐帝ノ皇子早ニ僧トナリ天台座主ニ任ス帝笠置城ヲ遁ルノ後護良南都ヲ出テ紀州ヲ隱吉野城ニ據ル東軍吉野ヲ陷ルノ後フカク幾內ニ竄ル密ニ詔シテ圓心ニ令ノ勤王ノ師ヲ起サシノ北條氏ヲ滅征夷將軍ニ任ス尊氏ヲ惡ムノ故ヲ以テ鎌倉ニ幽囚セラレ建武二年足利直義ガタメニコロサル）ハ吉野和州ニ右馬頭足利高氏ハ京師ニ新田小太郎義貞ハ上野國ニ起ル帝亦遁テ隱岐ヲ出テ伯耆國ニ至リ名和伯耆守長年ニ寓ル天下ニ令シテ高時ヲ討セシム高氏京師（六波羅）ヲ破テ仲時時益（共ニ北條氏是ヲ兩六波羅ト稱ス）ヲ誅ス（今年五月七日）義貞鎌倉ヲ滅シ高時ヲ誅ス（五月廿二日）北條氏天下ノ權ヲ執ル凡ソ九世一百十五年ニシテ亡フ時ニ修理亮北條英時西州ノ探題トシテ筑前國博多ニ在リ高氏貞久公ニ告テ是レヲウタシム

夏五月二十五日貞久公筑後守小貳貞時入道妙惡（按ニ小貳氏其先藤氏田原藤太秀郷八世島田三郎景頼ノ次子大藏丞頼平ニ出ツ其子資頼太宰大貳ニ任ス其子資能太宰小貳タリ因テ以テ氏トス）刑部太輔大友氏時（按ニ大友氏小貳氏ト祖ヲ同ス秀郷八世景頼ノ長子ヲ左近將監能成ト云初テ大友ヲ以テ氏トス）ニ會シテ英時ヲウツテ是ヲ殺ス是ニ至テ天下始テ一統ス尊氏書ヲ貞久公ニ贈テ功ヲ賞ス（六月十日ノ書今猶存ス）

建武元年戊申（正慶三年正月二十九日改テ建武元年トス）

○貞久公豐後國井田郷地頭職ニ補ス

二年乙亥

○秋七月北條時行（高時大子）信州ニ起ル（傳云闔族殘亡ノ時信州ニ匿ル）先亡ノ餘衆ヲ收集テ鎌倉（先是帝第八子成良親王ヲ征夷大將軍ニ任シテ鎌倉ニアリ督直義執タリ）ヲ襲フ足利直義成良親王ヲ奉シテ走ル時行鎌倉ヲ取テ東州震ヒ駭ク尊氏勅ヲ奉シ往テ征ス時行誅ニ伏ス初尊氏征夷大將軍ニ拜セラレンコヲ請フ許サス功アラハ拜セント約ス於是尊氏勅ヲ待スシテ自征夷大將軍ト稱ス尊氏新田義貞ト善カラス義貞ガ一族ノ采地東州ニ在ルヲ奪テ軍士ヲ賞ス義貞大ニ怒リ尊氏カ采地ノ中州ニ在ル亦奪テ己カ士ニ封ス交讒テ相訴フ帝義貞ニ可ク命シテ尊氏ヲ擊シム義貞兵六萬ヲ師ヒ東海道ヲ經テ鎌倉ヲ征ス足利直義（尊氏ノ弟）參州矢矧川（スキ）ニ逆ヘ戰フ利アラス義貞地ヲ略シテ伊豆國ニ至ル直義又六万兵ヲ卒シ相州箱根山ニ軍ス義貞ス、ンテウヲ破ル先是大智院宮（或云中務卿親王）禪正尹宮及ヒ江田行義大館氏義冨津道鑑公（先是貞久公薩摩ニシテ道鑒ト稱ス島津筑後前司未考）等一萬余兵ヲ卒シ東山道ヲ經テ鎌倉ヲウツ尊氏大兵十八万ヲ將ヒ相州竹下ニ逆ヘウツ衆寡敵セス官軍大ニ潰ユ尊氏又義貞ノ後ヲウタントス東征ノ諸將軍ヲ京師ニ班ス尊氏足ヲ追フ（按ニ道鑒公勅ヲ奉ノ征東ノ將タリスデニ尊氏京到テ是ニ風ス傳記其故ヲノセス愚謂中納言安野公廉ノ女廉子容色アリ宮ニ入テ幸セラル立テ准后トス佞姦邪惡ノ人多ク准后ニ由テ內謁ス帝准后ノ言是ニ從フ於是政大ニ乱レ人望ヲ失フ尊氏ニ圖スルヤ此時ナルヿ必セリ然ル臆說ヲ以浸ニ記セス分註シテ參考ニ備ルノミ）

三年丙子

○春正月尊氏大兵ヲ率シ京ニ入ル　帝江州比叡山ニ幸シテ難ヲ避ク中納言北畠顯家奥州國司奥州ニ起テ尊氏ノ後ヲ躡テ京ニ入リ義貞正成等ニ會シテ尊氏ト洛中ニ戰フ道鑑公尊氏ニ屬シテ數々功アリ傳云道鑒公正月廿七日加茂河原ニ闘フ明日神樂岡ニ闘テ功アリ島津孫五郎宗久名和伯耆守長年カ臣和賀尾孫太郎及兵衛次郎ヲ殺ス明日宗久五條河原ニ戰功アリ尊氏ノ軍利アラス西州ニ走ル　道鑑公モ亦是ニ從テ國ニ歸ル傳云公河内國香椎宮ニ屯ス菊地掃部助武俊聞ヒ來ル公是ト戰テ功アリト云未其討ナルヲ不考傳云此時三州ノ將士出テ公ヲ迎フ山田孫五郎忠能ハ長州赤間關ニ到ル尊氏筑前ノ國ニ在リ道鑑公ヲ賞シ筑前國松口郷博多ノ内ヲ賜ヒ是ニ居ラシムユエニ松口殿ト稱ス數箇ノ庄ヲ加ヘ封ス筑前國今津本岡比加里唐津豐後國故比田豐前國菅井筑後國故加ヲ賜フ後ニ老ヲ告辭ノ國ニ歸ス

○夏四月尊氏復大軍ヲ起シ京ヲウツ　帝義貞正成ヲシテ攝州ニ逆ヘ戰ハシム正成戰死シ義貞敗績ス　帝比叡山ニ幸ス尊氏人ヲシテ僞テ京ニ還幸センヿヲ請フ　帝コレヲ可ク義貞大ニ憤激シ　帝ニ見テ且恨ミ且悲ム　帝是ヲ諭シ春宮恒良ヲ抱ス義貞春宮ヲ奉シテ北州ニ走ル尊氏車駕ヲ迎ヘ帝ヲ花山院ニ幽ス十二月　帝潛ニ遁テ大和國吉野ニ幸シ都ヲ建テ帝ト号ス是ヲ南朝ト号ス於是尊氏後伏見帝第四子ヲ立ツ光明

按ニ藏王堂ノ西實成寺島居ノ地タリ元ヲ延元ト改メ二世相嗣五十六年ニシテ亡フ　以テ天下ニ令ス

○義貞越前國金崎城ニ據ル足利尾張守高經コレヲカコミ攻ム尊氏又仁木頼章師泰ヲツカハシテ高經ヲ助ク島津越前守頼久其子親房上野介鹿兒島川上村ニ封セラル川上ヲ以テ子トス十八世ノ孫川上貞久公ノ長庶子ナリ初法師房彦三郎孫三郎左衛門尉上野介太夫判官ト稱ス

久馬久信是也五世上野介兼久ノ三男左近將監忠塞十一世勘解由久統ナリ忠塞ノ三男信濃守與忠其子參河守忠智國老ニ任ス其子左京亮忠賢薩信ヲウツテ功アリ忠賢ノ弟四郎兵衛忠兒亦國老ニ任ス共ニ子孫アリ　道鑑公ニ代テ軍ヲ領シ越州ニ至リ師泰ニ屬シテ功アリ

四年丁丑

○春三月師泰等金崎城ヲ拔ク尊良親王南帝第一ノ子及ヒ新田義顯越後守ト稱ス義貞ノ長子自殺シ春宮處ニ就ク賴久軍ヲ班ス義貞此時同州杣山ニアリ肝付八郎兼重按ニ肝付氏其先天智帝ノ子大伴皇子其子余那足ニ出ツ初テ伴姓ヲ賜フ刑部少輔兼遠安和元年薩州ニ封セラル鹿兒島郡神食（今ノ上伊敷也）ニ居ス其裔孫新太夫兼俊肝付ヲ領シ因テ氏トス子弟ヲ分封ス八世ニシテ兼重ニ到ル世々大隅國肝屬郡内浦高山姶良大姶良串良鹿屋高隈百引ヲ食邑トシ日州三俣高城勝岡院山之口ヲ幷領シ自三俣八郎ト稱ス南朝ニ從テ道鑑公ニ叛ス其子彦太郎兼隆ト加瀨田城百引或云高山本城ニ據ル將軍尊氏道鑑公ニ命シテ擊シム於是島津六郎資久後安藝守（道鑑公第五ノ弟桃山ヲ以テ氏トス尊氏ニ屬シテ功アリ觀應二年二月尊氏日州臼杵院ニ封ス明年肥後國山鹿庄ノ内日州宮崎郡ノ内ヲ加封ス三世安藝守敎久元久公ニ仕テ國老タリ八世安藝守善久後ニ玄佐ト稱ス貴久公ノ女ヲ配ス歷々大功アリ十二世美濃守久高義久公ニ仕テ國老ニ任ス二十二世主計久初國老ニ任シ繼豐公宗信公ニ仕フ其子左京久智繼豐公ノ長女ヲ配ス重豪公ノ朝國老ニ任ス）大隅助三郎忠國其先忠時公ノ第七子常陸介忠經ニ出ツ其季子ヲ侍傍房後忠ト稱ス其子圖書介久兼伊集院ニ封セラレ因テ以テ氏トス四世ニシテ忠國ニ至ル後南朝ニ國シテ道鑒公ニ叛ス女アリ　氏久公ノ夫人タリ忠國ノ嫡孫ヲ彈正少弼賴久ト稱ス　氏久公ノ女ヲ配ス　久豐公ニ叛シ後ニ降ル其子大隅守照久　忠國公ノ女ヲ配ス叛ヲ謀テ肥後國ニ走ルコノ片伊集院除セラル十二世遠江守久族子ナシ　家久公ノ子久立嗣ト成テ十右衛門ト稱ス十五世藏人久矩國老ニ任ス吉貴公繼豐公ニ仕フ病ヲ以テ免ス十七世今ノ十右衛門久是也　ト号ス

是ヲ討セシム傳云本田左衛門久兼軍奉行タリ中二將進テ是ヲ攻拔ク兼重父子遁レテ三俣ニ去ル按ニ條左衛門入道祐心水手軍奉行タリ

戰場記五月六日ヨリ十日至テ攻ルト云テ陷ルヲ云ハス擾乱記五月二十五日陷トス或說ニ五月廿五日水手ヲ破トイフ　時ニ南北両朝ノ令双ヒ行ハレテ天下二分シ

鬪爭止ム時ナシ我三州モ亦大半南朝ニ屬ス谷山入道鎌信鮫島入道蓮道澁谷東郷市來院高城鶴田市來時家中村秀純矢上高純肝付兼重稱「魚寐」清成知覽給黎珂邊則付稅所出水肥後牛屎菱刈等ノ諸士コレ也秋道鑑公將軍ノ命ヲ奉シ國ヲ出テ京師ニ至リ大和河内ニ向テ南朝ノ軍ト戰フ傳云十一月十一日公大和國ニ上城ヲ攻ム敵既ニ逃亡ス味噌路城ニ至テ戰フ十九日河内國東條城ヲ攻ムトイフ未其ツマビラカナルコトヲ考ス

曆應元年戊寅 建武五年八月廿八日改ヲ曆應元年トス

○奥州牧兼鎮守府將軍北畠中納言源顯家 其先天曆帝ニ出ル少弱冠ニシテ中納言ニ任シ陸奥國司トナル 南帝ノ詔ヲ奉シ大兵ヲ起シ地ヲ略シテ和州ニ至ル新田義興 義貞ノ次子義貞北國ニ走ルノ時本國上野ノ新田ニアリ後ニ北畠顯家ト鎌倉ヲ破リ義詮ヲ追フ正平中尊氏ト武藏野ニ戰ヒ又鎌倉ヲウツテ基氏ヲヤブル 延文三年武州矢口渡ニ於テ竹澤右近ガタメニ溺死ス後ニ祭テ矢口大明神トス又上野國新田ニ祭テ新田大明神トス 上野國ニ起テコヽニ會ス播磨守桃井直常 按ニ直常カ後裔越前國幸若村ニ居ス樂士トナル祿ヲ賜フコレヲ幸若音曲ト云 武藏守高師直將軍ノ命ヲ奉ケ逆戰シテ擊ヤブル顯家義興狼狽シテ遁ル北畠顯信 顯家ノ弟 散卒ヲ收メ義興ト八幡山城國久世郡男山コレナリニ據ル師直コレヲ圍ミ攻ム道鑑公師直ニ會シテ城ヲ攻ム 或云三月十三日 顯家亦敗軍ヲ收集テ攝州天王寺 攝州東生郡ニアリ荒陵山四天王寺ト號ス聖德太子物部守屋ヲ亡シテ立ツ今寺領千百七十七石 ニ起ル師直兵ヲ分テ八幡ヲ攻メ自ラ天王寺ニ向フ道公鑑又是ニ從テ顯家ウツ 或云三月六十日 顯家又敗テ走ル追テ攝州阿部野ニ至テ 五月二十二日 顯家戰死ス 年三十一田中ニ松一株アリ顯家ノ墓アリ俗ニ大名塚トフ 師直還テ八幡ヲ拔ク世子宗久公道鑑公ニ代テ軍ヲ領シテ直ニ攻シテ功アリ 傳云宗久公將軍ノ命ヲ奉シ攝州兵庫ヲ領ス六月二日南軍來テ湊川ヲ侵ス宗久公衆諸侯トスヽンテコレヲ被リ二十七日八幡ニ至リ七月九日洞峠ニ戰テ功アリト云フ未タ其詳ヲ不考

二年己卯

○將軍尊氏聖武帝四十五世ノ國分寺ニ擬シテ 聖武帝天平九年州毎ニ寺ヲ建テ國分寺ト號ス薩州水引郷錄國山威德院國分寺隅州國分郷圓通山國分寺是ナリ 州毎ニ寺ヲ建テ太平山安國寺ト号ス薩州中郷隅州加治木安國寺是ナリ

○夏六月薩州南方 阿多河邊頴姓指宿知覽給黎谷山ノ七郡ヲ南方ト云ノ賊谷山五郎左衛門入道隆信 谷山ノ主ナリ其先平氏村岡五郎良文ニ出フ數世ニシテ伊作平次郎太夫良道ト稱ス數子アリ第四子ヲ五郎別府忠明ト稱ス薩州別府ヲ領ス是別府氏ノ祖也谷山氏ハ其支族ナリ忠久公ノ時兵衛尉忠光谷山ヲ領ス因テ以テ氏トス其子左助忠貞其子五郎資忠法師覺信其子平五郎左衛門入道隆信コレナリ相ツヽキテ谷山ヲ領ス元久公ノ中谷山郡司入道ニ至テ除セラル其裔次郎右衛門ト稱ス 鮫島彦次郎家藤入道蓮道 鮫島氏其先藤氏工藤ノ族ナリ駿河國鮫島郷ヲ領シ以テ氏トス建久三年鮫島四郎宗家相朝公ノ命ヲ奉ケ薩州阿多ニ地頭タリ世々相繼テ領ス數世ヲ經テ土佐入道双月日新公ニ仕テ老中タリ其子又左衛門三山ニ戰死ス子孫アリ薩州田布志ニ居ス 來テ碇山平城ヲ攻ム 道鑑公爰ニ在權執印三郎次郎俊正 薩州宮里ノ主ナリ權執印氏古來薩州ニ住ス執印氏ト姓ヲ異ニス執印ハ新田宮ノ神領ヲ司リ祭祀ノ時印ヲ執リ職タリ因テ氏トス權執印氏モ亦執印氏ニ代テ權ニ印ヲ執ル者カ未詳子孫アリ新田宮社援兵ヲ率シ城ニ入ル 六月十八日 澁谷孫次郎澁谷小四郎入道澁谷平五郎 澁谷氏平姓秩父氏ノ支族ナリ澁谷庄司重國ノ子ヲ太郎光重ト云鎌倉將軍ニ仕テ薩州東郷郡答院鶴田入來院高城等ヲ領スユヘニ數子ヲツカハシテコヽニチラシム光重數子アリ長ヲ重直ト云東州ニ在テ將軍ニ仕フ次ヲ武蔵權守實重ト云賀治年中來テ薩州東郷ヲ領ス以テ氏トス數十世ヲヘテ永祿中始テ除セラル三ヲ吉岡三郎重保ト云邪答院ヲ領ス以テ氏トス十二世河内守良重永祿九年裏ノ爲ニ弑セラル嗣ナシ四ヲ大谷四郎重諸ト云ヲ鶴田ヲ領ス以テ氏トス四世刑部左衛門重成ニ至リ故ニハナレ氏久公ニ通シ鶴田ヲ遁去ル五ヲ曹司五郎定心ト云フ入來院ヲ領ス以テ氏トス入來院氏ノ祖ナリ六ヲ落合六郎重貞ト云高城ヲ領ス以テ氏トス薩州家ノ爲ニ陷ラル 大兵ヲ起シテ南軍ヲ援ケ急ニ進テ門ヲ破ル 六月廿二日酉刻ト云 城兵奮發ノ拒ミ戰フ三晝夜ニ亦又同廿五日一方ヲ破ル城中震動シ既ニ拔ントス時ニ新田宮 按ニ八幡新田宮ハ地神三代瓊々杵尊ノ廟ナリ神體所謂久々天津彦火瓊々杵尊崩固葬筑紫日向司愛之山陵コレナリ○傳ニ云尊子ノ墓ヲ築キ城ヲ高ス故ニ子墓高城ト云毎年六月大祭アリ按神祇拾遺太永年中筑前國大分宮肥前國平栗宮肥後國藤崎宮薩摩國新田宮大隅國正八幡宮ヲ山城國小山庄ニ移ス今ヤ京師京極ノ北五所八幡コレナリ ノ山上ヨリ矢ヲ發スルヿ両

三醉ツクヘテ南軍ニ落ツ城中揚言シテ曰是八幡大神ノ賊ヲウツナリ忽奮激シテ敵ヲウツ賊潰ヘ亂ル退テ淵上城入來ニ據ル道鑑公襲テコレヲ拔ク六月廿九日

三年庚辰

○春正月　道鑑公世子太夫判官宗久公母ハ大友因幡守紹時入道道德女元亨二年生ル生松丸三郎左衛門尉ト稱スヲシテ澁谷氏ヲ擊シム隈城ニ至リ過テ馬ヨリ落ヲ頓ニ薨ス二十四日或云芦毛馬ニノル是ヨリ世々芦毛馬ニ乘ルヲ忌亨年十九久阿彌陀佛ト謚ス稱名寺ニ葬ル

按ニ法昌山福蓉院稱名寺相州藤澤山末寺曆應三年正月開基遊行上人七世陀阿ヲ以テ開山トス寺領三石寄附ス隈城ニ在

○秋八月伊集院助三郎忠國伊集院氏四世市來太郎左衛門時家市來氏其先後漢靈帝ノ子阿智王ニ出ツ王始テ本朝ニ來ル子孫大藏ヲ以テ姓トス其支族政房實龜中始テ市來ヲ領ス以テ氏トス四世ニノ十郎都司家房嗣ナシ一女アリ惟宗廣言カ養子友成ニ嫁ス友成カ子太郎左衛門貫家外孫タルヲ以テ家房養テ子トス於是貫家市來氏ヲ冒シ封ヲ襲ク然ニ猶惟宗姓ヲ冒ス是始忠久公惟宗姓タルヲ以テ他姓ヲ冒スヲ欲セス敢世ヲヘテ立久公ノタメニ市來ヲ除セラル南朝ニ屬シテ叛ス道鑑公コレヲ討シテ一宇治城伊集院ヲ拔ク忠國平城市來或ハ云伊集院ニ走ルヽシテ市來ヲ攻ム時家逃亡ス

○秋八月十二日道鑑公東福寺城鹿兒島安養院ノ後山ナリ初安養院ヲ東福寺ト云フヲ攻ム先是矢上左衛門五郎高純矢上氏其先薩氏純友カ子直純ニ出ツ有馬ヲ以テ氏トス忠久公ノ片右衛門尉盛澄始テ鹿兒島ノ郡司トノ矢上ト稱ス六世傳領ス高純ニ至リス沒收セラル南朝ニ屬シ鹿兒島催馬樂城ニ據テ叛ス肝付八郎兼重中村彈正忠秀純來テ東福寺城ヲ保ヲ勢ヲ助ク道鑑公是ヲ攻ム八月十二日城兵拒戰テ拔ケス相侍シテ明年ニ至ル

○冬市來時家市來城ヲ復ス傳云今年鎌氏天龜寺ヲ京ニ建ツ供養ノ日諸侯悉ク臨ム道鑑公位次第一ニ亞ク按ニ天龜寺鎌倉山天龍資聖禪寺ト號ス葛野郡嵯峨ニ在リ今寺領七百二十石禪家五山ノ一ナリ開山疎石勢州ノ人夢窓國師ト號ス

四年辛巳

○夏四月　道鑑公東福ヲ攻テ未拔クアタハス矢上高純軍ヲ發シテ東福寺ヲ助ク公軍ヲ分ヲ七郎左衛門尉資忠後尾張ノ守ト稱ス忠宗公ノ六男ナリ將軍尊氏ニ仕ヘテ功アリ建武四年八月尊氏越前國安都郡ヲ賜フ觀應二年九月金隈合戰ニ功アリ文和四年十二月尊氏日州北郷ヲ賜フ因テ氏トス八世讚岐守忠相豫州忠廣ト號テ貴久公ヲ立ツ十五世忠直從五位下式部太輔ニ任ス二十一世今ノ筑後久般コレナリ○十代右衛門時久ノ次子ヲ作左衛門三久ト稱ス平佐ニ封セラル後加賀守ト稱ス其子佐渡ノ守久加光久公ニ仕テ國老ニ任ス四世總次郎忠昭モ亦同朝ノ國老タリ其子作左衛門久嘉吉貴公ノ片國老ニ任ス三久九世今ノ民部久儲是レナリ○十三代忠亮ノ弟ヲ又次郎久常ト稱ス五世ノ孫今ノ七郎左衛門久儲是ナリ寄合ニ列ス○久常ノ次子ヲ右衛門八久弘ト稱ス三世ノ孫助太夫久風コレナリ寄合井ニ列ス○十九世筑後久竜次子ヲ樋八久綿ト稱ス寄合ニ列ス其子樋五郎久富是也支族猶多ト雖モ寄合井以上タラサルハ記セス後是ニ效ヘ六郎左衛門尉資久傳前出ヲ將トシコレヲ擊破リ催馬樂城ヲ陷ル高純降ヲ乞テ肥前國有馬ニ遁ル四月十六日道鑑公三郎左衛門師忠忠宗公ノ三男佐多氏ノ祖傳綱貴公ノ傳ニ在ヲ先鋒トシテ東福寺ヲ攻拔ク四月二十三日肝付等遁レテ尾顯小城多賀ノ山ヲ保ツ進テ是ヲ圍ミ攻ム敵破レテ谷峯城一說若峯城山王山コレナリニ走ル四月二十八日襲フテ上山城今ノ城山ナリヲ取ラントス道鑑公又スヽシテ聚破ル敵ノカレ去ル於是鹿兒島ヲ次子氏久公ニ賜フ東福寺城ニ居ス後大始寺又志布志ニ移ル

○秋八月十五日道鑑公伊集院忠國カ平城去年八月爰ニ遁ル鹿兒島ヲ攻ルガニヘニ置ヒテ討セスヲ攻ム忠國固ク守テ下ラス公其陷レ難ヲ見テ軍ヲ班ス傳云今年薩州刑府ニ職フ數回ソノツマヒラカナルヲ未考

康永元年壬午曆應五年四月廿七日改テ康永元年トス

○秋八月谷山郡司左衛門尉忠高叛シテ南朝ニ屬ス　道鑑公是ヲ討シ波平谷山ノ内ニ軍ス忠高迎ヘ戰フ河邊傳云其先平氏村岡五郎良文四世ノ孫伊作平次貞時九州ノ惣追補使トシ薩隅日及肥前國ヲ領シ肥州羽高ニ居ス又四世ニシテ平次郎太夫良道來テ伊作ヲ領ス良道カ長子ヲ平次郎道房ト云初テ河邊ヲ領ス因テ氏トス四世ノ孫兵衛太郎久道承久ノ亂ニ罷有テ除セラル後ニ其子平次郎信道封ヲ河邊ニ受ク世々傳領ス元久公ノ時ハ絵州伊久是ニ居ス順ニ河邊氏　師久公ノ爲ニ滅セラルヽ者乎後見ルヿナシ　給黎其先伊作平次郎太夫良道カ次子兵衛有道始テ給黎ヲ領シ同テ氏トス後忠時公第七子常陸介忠經ノ長子左京亮　知覽　知覽氏其先伊作平次郎太夫良道カ三男頴娃三郎忠長カ三男宗長領ノ又給黎ヲ以テ氏トス子孫傳記ニ見ルヿナシコノ時何人ノ領スルヤ未詳四郎忠信知覽ヲ領ス因テ氏トス按ニ知覽氏忠信五世ノ孫ヲ三郎忠合ト云此時見ルヿナシ越前島津氏ノ族豐後守忠宗始テ知覽ヲ以テ氏トスルトハ此人亦知覽ヲ領スル者乎文和四年ニ至テ三郎左衛門尉師忠尊氏ヨリ賜フテ知覽ヲリヨウ別府即加世田ナリ伊作良道カ五男五郎忠明別府ヲ領シ因テ氏トス三男彌平五信忠襲領ノ數世ヲ經テ薩州家是ヲ領ス　澁谷前ニ出ツ等千餘兵ヲ率シ來テ忠高ヲ助シ八月五日ヨリ七日ニ至テ會戰ス忠高祐玄忠高第ヲシテ間道ヲヘテ手落鹿兒島谷山境ニ軍シ道鑑公ノ後路ヲ絶シム傳云矢上五郎軍ヲ率來テ祐玄ヲ助ク公ノ軍粮絶テ大ニ窮ス右衛門尉忠氏道鑑公ノ次弟下野守忠氏ノ子ナリ出水郷ヲ領ス久豐公傳ニアリ援兵ヲ率シ手落ニ至リ軍ヲ青屋松原郡元村ノ海邊ニ隱シ忠氏單騎ニシテ祐玄ヲ呼フ祐玄應シテ出ツ共ニ勇悍ノ名アリ忠氏精神ヲ厲シ祐玄ヲ捕テ首ヲ斬ル青屋軍スヽシテ手落ヲ攻破ル忠氏波平ニ至テ道鑑公ニ見ユ相議シテ曰敵强シテ援兵四方ニ集ル戰モ利ナケン於是軍ヲ鹿兒島ニ班ス　公年七十四老テ益壯也故ニシバラクモ安居セス又伊集院忠國カ平城ヲ攻ウツ八月十三日　忠國堅ク守テ下ラス按ニコレヨリ忠國カ事見ルヿナシ二十九年ノ後應安三年日州冀原ノ軍忠國ノ子大隅守久氏氏久公ニ屬ノ忠アリ忠國カ末年歸降スル乎或ハ久氏ニイタツテ降ル乎イマダ詳ナラズ

二年癸未

○秋九月十二日賊未考鹿兒島ニ入テ催馬樂城ニ據ル　道鑑公コレヲ討ス十一月七日ニ至テコレヲ拔ク賊遁レ去ル

貞和四年戊子康永四年八月三日改テ貞和元年トス

○秋八月楠正行從四位上左衛門督ニ任ス勤王ノ軍ヲ起シ屢々尊氏ヲ討メ奇功アリ貞和五年正月五日弟正之トトモニ四條畷手ニ戰死ス河內國ニ在リ南帝ノ詔ヲ奉シ兵ヲ帥テ京師ヲ襲フ將軍尊氏丹州ニ走ル正行京ニアルヿ五拾餘日ニシテ歸ル尊氏細川顯氏山名時氏傳云世子師久公貞和二年九月廿八日將軍ノ命ニ由テ京師ニ至リ山名伊豆守時氏ニ屬シテ功アリト云々按ニ貞和二年時氏カヿ傳記見ル事ナシコノ時ヲ誤テ二年トスル乎ヲ擊ダシム三郎左衛門尉久氏伊作家二世宗久ノ二子將軍ニ近侍シ寵譽セラル按ニ久氏ハ毎ニ尊氏ニ昵近ス尊氏門暇ヲ强ク申候得共當時ハ殊ニ人少ク候上諸事御用人ニテ候程ニフツト叶フマシキヨシ申候ト云々久氏ハ尊氏髮結ナリト云フ時氏顯氏ト共ニ正行ヲウツ時ニ尊氏東寺九條大宮ニアリ秘密傳法綱勅山敎王護國寺ト號ス又金光明四天王敎王護國寺ト名ツク大內裏羅生門ノ東ニ在リ方二町昔時番客ヲ迎ヘシ鴻臚館也桓武帝ノ時建ツ弘仁十四年嵯峨帝沙門空海ニ賜フテ寺トス今寺領二千三十石ニ在リ和歌ヲ賦シ親ラ扇ニ寫シテコレヲ賜フ

九ツノ國ヨリ御代ハ治リテ目出度ヲ白菊ノ花

久氏コレヲ兄下野守忠親忠親薩州ニ在リニ贈リ扇菊ヲ時氏等ニ從テ攝州天王寺ニ軍ス正行逆ヘウツテコレヲ破ル京軍大ニ潰ユ顯氏時氏ノガレ歸ル久氏コヽニ戰死ス按ニ久氏子アリ竹壽丸ト稱ス後大炊介ト改ム信州神代ニ居亦將軍ニ近侍ス子孫傳記ニ見ヘス

五年己丑

○秋八月高武武藏守師直將軍ノ執事ノ越後守師泰師直カ弟驕奢跋扈荒淫度ナシ左兵衛督直義尊氏ノ弟コ

レヲ惡ミ上杉重能伊豆守畠山大蔵少輔直宗ト謀テ殺サントス師直覺ル兵ヲ會シテ直義ヲ擊ントス直義逃レテ將軍ノ宮ニ匿ル師直追テ宮ヲ圍ム此時師直カ權朝野ヲ傾クユヘニ諸侯ノ京ニ在ル者悉クコレニ從フ將軍人ヲシテ師直カ不臣ヲ責ム師直曰吾儕忠在テ私ナシ直義漫ニ讒ヲ信シ殺ヲ謀ル今ヨリ後直義ヲシテ政治ニ與ルヿナク上杉畠山遠州ニ左遷セハ兵ヲ解クベシ將軍コレヲ可ク直義免カルヿヲ得タリ上杉畠山越前國ニ流サル師直畠ヲ殺ス時ニ道鑑公及右衛門兵衛尉忠氏四郎左衛門尉時久忠宗公ノ四男ナリ四郎左衛門尉近江守ト稱ス貞久公ノ中守護代トシテ軍ニ勞ス尊氏賞ノ新納院ニ封ス因テ新納ヲ以テ氏トス後畠山國長カ爲ニ掠取ラル又救仁ノ院「志布志」ニ封セラル其子實久越後守ト稱ス志布志松尾城ニ居ス其子忠臣近江守ト稱ス大崎松山ヲ合セ領ス女アリ忠國公ノ夫人タリ七世近江守忠武忠昌公ニ反ス其子近江守忠勝救仁院ヲ除セラル十五世市正久珍綱貴公ニ仕テ國老ニ任ス十七世今ノ四郎久倍之レナリ○時久四世修理亮忠治ノ次男駿河守是久「日州御問院ヲ領ス」ト稱ス女アリ伊作又四郎善久ニ嫁ス即日新公ノ母ナリ其子伊勢守友義日新公ニ仕テ功アリ是久五世武蔵守忠元大口封セル勇壯絶倫名譽天下ニ聞シ十三世內藏久品重年公ノ時國老ニ任ス其子今ノ次郎四郎久儒コレナリ○是久次子能登守忠登後除髮ノ魚隱ト稱ス其子伊勢康久日新公ノ時國老ニ任ス後一珪ト稱ス二子アリ長ハ五郎左衛門久饒次ハ僧トナル後還俗シテ休閑齋旅庵ト稱ス義弘公ニ仕テ國老タリ久饒ノ子ヲ右衛門久詮ト稱ス光久公ノ時國老タリ其子又左衛門久了同朝國老ニ任ス五世ノ孫五郎右衛門久起コレナリ其外支族甚タ多シ京師ニ在テ將軍ニ忠アリ傳云時ニ將軍根ヲ絶ツ時久忠氏飯ヲ行器ニ盛リコレヲ負テヒソカニカコミヲ通リ築地ヲウガチ餌餌シテ營ニ入ル將軍大ニヨロコブ將軍道鑑公ニ告テ曰君カ意ニ任テ賞ヲ賜ハン公答テ曰賞ハ望ム所ニアラス伊地知彈正季隨道鑑公同番ノ人爭論ニ坐セラレテ獄ニ繫カル吾カ微功ヲ以テ是ヲ贖リン將軍其寡欲ニシテ仁厚アルヲ稱シ季隨ヲ免ス季隨再造ノ恩ヲ感シ薩州ニ來テ臣トナル按ニ季隨コノ恩ニ因テ氏久公ニ代テ筑前國ニ戰死ス事ハ氏久公ノ傳ニアリ子孫隅州出水ヲ領ス叛ヲ謀テ除セラル伊地知氏義久公ノ傳ニアリ道鑑公又將軍ヲ邸ニ請テ百度ノ笠懸ヲ覽セシム傳云一矢數ハ上杉師冬島津忠氏也共ニ九十六ト云フ又時久ヲ賞シテ日州救仁院志布志紹ニ封ス按ニ忠氏モ亦賞アルヘシ傳記闕ヲ之

觀應元年庚寅貞和六年正月廿七日改テ觀應元年トス

○先是肥後守菊池武光或作重朝南朝ニ屬シテ忠アリ南朝ノ衰フルニ及ンテ九州靡然トシテ將軍ニ從フ者多シ於是潛ニ南朝ノ皇子良懷後醍醐帝第九ノ子或云第六ノ子肥後國八代ニ薨ス悟眞寺ニ葬ル子アリ爵松ト稱ス後ニ後醍醐院越後守源良宗ト稱ス七世ノ孫喜兵衛宗重初テ義弘公ニ仕フ嫡子少三郎去テ松平宮內少輔ニ仕フ次子內藏介父ニ闘テ邦君ニ仕ヘ子孫今喜兵衛ト稱スヲ請テ征西將軍トシ肥後國ニ在テ近州ヲ絢フ畠山治部太輔國長或作修理亮直顯其命ニ應シ日州ニ寇シ穆佐院倉岡穆佐高瀨ヲ云高瀨今ハ高岡ニ屬ス此時穆佐院ハ將軍夫人ノ采地ナリ新納院按ニ先是將軍島津近江守時久ヲ新納院ニ封ス時ニ時久京ニアリヲ掠取ル按ニ太平記畠山治部太輔日向六笠城ニ在テ將軍ニ風ストス何レカ是ナルヿヲシラカニセス信濃源氏ノ末流ト云フコレニ應シ松尾城志布志ニアリ新納時久領スニ據ル肝付兼重亦コレニ黨ス因循シテ相惡ミ終ニ相攻擊ニ至ル國中大ニ亂レ或ハ道鑑公ノ命ニ從ヒ或ハ三氏ニ屬シ爭鬪暫ラク止マス傳云七月十一日稱猴大和守清成「根占ノ主此ノ片小根占國見城ニアリ」國長ニ國ノ肝付兼重ヲ攻ト云

二年辛卯

○先是菊地武光九州探題兵衛佐足利直冬ヲ追フ直冬ハ將軍尊氏ノ庶子ナリ初宮內少輔ト稱ス叔父直義ト善シ傳云尊氏ノ妾孕ムヿアリ家ニ皈テ後直冬ヲ生ム數歲ニシテ直義ニヲク直義ヲ尊氏ニツク尊氏信セス直義開說シテ始テ信ス命ノ直義ノ子トセシム直義高師直ニ惡マルヽヲ以テ南朝ニ降ル直冬亦兵ヲ西州ニ起シテ直義ニ應ス於是筑後守ハ少貳貞時人道妙惠刑部大輔大友氏時武光ニ降ル新探題左京太夫一色直氏義家八世ノ孫一色次郎範氏長男及ヒ弟修理太夫範光豫州守護ヲ發シ豐後國府ニ航ス大友コレニ降ル少貳入道三原ニ逆ヘ戰利アラス武光ス

ヽンテ一色大友ヲ豐後國ニ擊破ル大友復菊地ニ降ル一色畠山京師ニ遁ル（按ニ太平記此一件延文四年）氏久公道鑑公ニ代リ軍ヲ領シ範光ニ屬シ金隈（筑前）ニ戰テ利アラス武光勝ニ乘シ奮戰フ　氏久公ノ軍大ニ潰ユ伊地知彈正季隨島津氏久ト稱シテ戰死ス　道鑑公ノ恩ヲ報ス（傳云季隨カ骸ヲ海ニ投ス流テ薩州加世田ノ海濱ニ寄ル邑人舉テ唐人原ニ葬ル寺ヲ立テ西照寺ト云墓間瀨川ノ下ニアリ）氏久公モ亦傷ヲ得テ國ニ歸ル後ニ將軍コレヲ賞ス（傳云賴仲カ薦加瀨田城「大姶良」高隈城ニ據ル稱寐清成是ヲ斃フテ拔ク島山國長ヲ擒テコレヲ賞ス其畧今猶存ス）

文和元年壬辰（觀應三年九月廿七日改テ文和元年トス）

○秋七月楡井頼仲亂ニ乘シテ隅州ヲ侵ス稅所助（稅所氏其先篤實親王ニ出ツ八世ノ孫ヲ篤如ト云ソノ族篤滿隅州ニ來テ曾於郡ヲ領ス霧島神ノ貢稅ヲ司ル故ニ稅所ヲ以テ氏トス霧島山稅所宮ハ稅所氏ノ立ル處ナリ世々曾於郡ヲ領ス文明中島津修理亮忠昌ノタメニ曾於郡ヲ追ハル事ハ忠昌公ノ傳ニアリ）是ニ與ス　氏久公逆ヘ戰テ利アラス八月十八日

○八月畠山國長大ニ國中ヲ絢フ於是市來太郎左衛門氏家（市來ノ主）東鄕藏人道義（傳文和二年ニアリ）市來新左衛門伊集院助三郎忠國（伊集院ノ主）谷山五郎谷山新左衛門鮫島彥次郎入道（阿多ノ主）知覽四郎（知覽ノ主）頼娃三郎入道（頼娃ノ主）知色三郎入道（彥三郎入道行覺ト稱ス出水知色城主ナリ文和三年師直公ノ爲陷ル）泉和下司諸太郎兵衛尉政保（傳云其先伴姓肝付右兵衛佐兼貞ノ季次兵衛尉行俊ニ出ツ和泉太夫兼保初テ薩州出水ヲ領ス世々傳領ノ四世政保ニ至ル按ニ貞久公ノ次弟下野守忠氏出水ニ封セラル政保ハ初ヨリ南朝ニ屬スルコヘニ出水ヲ以テ忠氏ニ封スルナラン）牛屎左近將監高元（太泰姓牛屎氏薩摩四郎元衡保元三年八月初テ薩州ニ來テ牛屎院ヲ領ス牛屎院ハ大口山野羽月也或云元衡ハ安藝判官平基盛ノ子信元ノ子ナリ夢ニ由テ太泰姓ニ改ム太泰ハ泰徐福カ後ナリ元衡カ子ヲ左衛門尉元包ト云フ世々薩領スト）羽月彥次郎（羽月ノ將乎未詳）羽月三郎太郎山野孫次郎（山野ノ主乎）寄田李之助（薩州高江鄕寄田邑アリ此主カ）伊作田兵衛尉（市來鄕伊作田邑アリ此主乎）井口彌太郎（和泉政保カ祖ニ井口氏アリ政保カ一族カ）池上彥四郎入道（傳云觀應中池上彥四郎ニ御教書ヲ賜テ曰父四郎兵衛光久金隈ニテ戰死ト云フ是ヲ以テ考ユルニコノ時天下ニ名ヲ聞シラレタルモノナリ彥四郎モマタ其ノ子族ナルヘシ）稅所介（曾於郡ノ主薩生ノ主保安四年ヨリ弘治三年ニ至テ四百余年コレヲ領ス貴久公ノ前ニ出ツ）薩生彥四郎（薩生ノ主保安四年ヨリ弘治三年ニ至テ四百余年コレヲ傳ニ詳カナリ）吉田藏人清忠（薩州吉田ノ主忠隆公ノ傳ニ詳ナリ）稱寐郡司（其先小松内府重盛ニ出ツ建仁三年七月將軍頼家ノ命ヲ奉シ來テ隅州大根占小根占佐多田代邊津貫五ケ所ヲ領シ稱寐ヲ以氏トス建武乱功アリ厚氏コレヲ賞ノ感書ヲ賜フ「五タヒ應永廿四年稱寐山城守清平能登守清忠久豐公ニ屬シ河邊ニ戰死ス永正中大和守殆重京師ニアリ省中ニ當直ス尊重倭歌ヲ以テ鳴ル　帝感ヲ賜フテ賦セシム曰羇旅花旅ナカラ旅ニモアラヌ心カナ花ニナリサム志賀ノ山越帝叡感シテ大和守ニ任ス家傳云帝諱字ヲ賜フテ尊重ト稱スト非ナリ帝諱ハ勝仁ト稱ス前後數世尊字ヲ以テ諱トスル帝ナシ文祿中三州檢地ノ日轉シテ薩州吉利ニ封セラル七郎重政ニ至ル嗣ナシ家久公ノ子ヲ養テ嗣トス右近重永ト稱ス其子丹波清雄　綱貴公ニ仕テ國老ニ任ス亦嗣ナシ綱貴公ノ子ヲ養テ子トス仙十郎清純ト稱ス早ク卒ス島津大藏久明ノ三男後嗣トナル式部清香コレナリ亦子ナシ吉貴公ノ季子安之助ヲ養テ子トス稱寐氏其先小松重盛ニ出ルト云ヲ以テ　吉貴公安之助ヲメ小松氏ヲ稱セシム清香モ亦コレヲ稱ス島津因幡忠鄕ノ卒スルニ及シテ安之助其後ヲ嗣キ因幡ト稱ス於是清香　國命ヲ奉シ島津太藏久通ヲ以テ養子トシ仙十郎ト改ム○傳云田代ハ其先田代氏ノ領スル處ナリ忠久公封ニ就クノ時ハ田代次郎兼盛是ニ居ス其子以テ久高隈ヲ領スト云又云應永五年ヨリ田代宗次郎久助領ス同十七年三月　元久公其本領ノ地タルヲ以テ田代宗次郎ニ賜フ又云フ稱寐重長降テ後田代直隷トナル按ニ古昔田代氏ノ領ニシテ道清轉ノ串良等ヲ領シ稱寐氏田代ヲ領シ應永年中復田代氏ニアタヘ其後田代氏莚テ又稱寐氏ノ有トナリ重長義久公ニ降テ後田代氏除セラル乎）姫木郡司（其先稅所氏族ナリ曾於郡ノ内姫木ヲ領スル「數世子孫襲微シテ農民ト也帖佐船津村ニ居ス）小河郡司（其先ハ日奉姓小川太郎季能承久乱宇治川ニ於テ戰功アリ賞シテ薩州甑島ニ封セラル世々之ヲ領ス天正中小川越前守ニ至テ甑島除セラル更ニ祿五百石ヲ賜フ）等コレニ與ス國長カ威漸ク國中ヲ傾ク

○冬十月二十六日　將軍尊氏肥前國松浦庄早湊村ヲ　道鑑公世子師久公ニ賜フ

○十一月楡井頼仲小根占國見城（稱寐大和守重成カ臣コレヲ守ルヲカコミ攻ム城兵擊出シテ走ラシム十二月來

使スヿ數回城兵固ク守ル賴仲拔ツヿアタス

二年癸巳

○夏五月將軍（傳記將軍足利義詮トス按ニコノ時イマタ尊氏將軍タリ誤テ義詮トスル乎）薩州東郷ヲ　氏久公ニ賜フ初在國司入道々超世々其先在國司小太郎道氏忠久公ノ時東郷ヲ領シ子孫傳領ス一族在國司三郎道義モ亦一族トシテ東郷氏ノ内ヲ分チ領ス　寶治中澁谷次郎薩州東郷ヲ領ス　副ハ時吉邑ヲ領ス其外東郷藏人道義モ亦一族トシテ東郷氏ノ内ヲ分チ領ス

寶重（前ニ出ツ）封ヲ東郷ニウケテ薩州ニ來ル（事ハ曆歷二年ニ在リ）在國司猶東郷ヲ利シテ去ラス寶重怒ル矛楯シテ寶重カ孫若狹守重親ニ至リ猶東郷ヲ爭テ止マス道超豪富ニシテ勇武アリ重親其力ヲ以テ爭ヒ難キヲ見テ大憤激シテ曰生テ勝ツヿアタハス死シテ泉下ノ鬼ト成テ彼ヲ滅サント馬ニ乘リ士穴ニ馳ケ入テ死ス（衆是ヲ祭テ大明神トス東郷ニ在リ）道超病テ死ス（五月十一日）東郷ヲ沒入シ氏久公ニ賜フ（按ニコレヨリ後永祿中ニ至テ東郷澁谷氏ノ領タルヿハ氏久公封ヲ受テ後澁谷氏復掠取ル乎）

三年甲午

○春二月師久公知色城ヲ陷ル（出水下知識村ニアリ知識彦三郎入道行覺世々主タリ）

○夏四月（五月或六月）肥後彦太郎種顯彦三郎種久兄畠山國長ニ應シ下大隅崎山城（今出水ニ屬ス）ニ在テ叛ク氏久公已ヲ攻ム肥後計窮テ出テ降ル（或云今年四月十二日）

○夏六月十日畠山國長薩州山北ニ（祁答院ニ高城東郷等ヲ合テ山北ト云フ）在リ地ヲ畧シテ鹿兒島原良ニ軍ス氏久公逆ヘ戰フヿ連日雌雄未決セス六月十日國明カ士多田七郎氏久公ノ軍山田彌九郎（傳云義久公ノ傳ニアリ）共ニ勇武ヲ以テ名アリ多田單騎ニシテ出テ山田ヲ呼テ出テ、決セシム彌九郎左手ニ楯ヲ取リ右刀ヲ取テ出ツ多田カ二十刃ヲ接テ刻ヲ移ス兩軍其傷ンヿヲ恐レヒトシク進ンテ是ヲ救フ山田多田カ冑印（カサシルシ）ヲ切リ大言シテ歸ル國長　公ノ軍整々トシテ破リ難ヲ見テ山北ニ退ク（傳云此日甲ヲ川ニ突キ入ルユヘニ名ツケテ甲突川ト云）

四年乙未

○夏四月夜（四月廿六日丑刻）出水諸太郎兵衛尉政保牛屎左近將監高元市來新左衛門尉氏家東郷藏人道義及肥後國萩北ノ賊木牟禮城ヲ襲フ細作正文（四郎三郎孫二郎）ヲ城ニ入レ詐譟シテ攻擊ツ城中大ニ震駭ス　道鑑公親衆軍ヲ屬シ細作ヲ斬テ城中ヲ靖メ突出シテ敵ヲ破ル敵狼狽シテ退キ去ル

○秋九月十二日三條侍從（征西將軍ノ臣乎）市來太郎左衛門尉鮫島彦次郎入道知覺四郎左當彦次郎入道櫛木野城（師久公ノ注進狀云老父道鑑櫛木野城櫛宮方大將三條侍從云々寄木ト云フコノ片道鑑公此ノ城ニアリ乎）ヲ侵ス　師久公知色ヲ發シ櫛木野ニ至テコレヲウツ五日ニシテ敵退キ去ル

○冬十月二十二日牛屎高元在國司入道出水庄名主等知色ヲ侵ス北郷尾張守資忠城中ニ在リ力ヲ戮テコレヲ禦ク賊死力ヲ盡シ攻ルヿ一晝一夜　師久公親双ヲ執テ敵ニ合ヒ傷ヲ得ルヿ三左腕及足資忠亦肱ニ傷ク酒匂兵衛四郎（守護代）酒匂左衛門四郎（其先平氏梶原太郎景久（景時カ兄梶太夫景道子）次子刑部丞朝景ニ出ツ相州酒匂ヲ領シ因テ氏トス其家傳云朝景女子左衛門ノ尉景貞ト云フ　忠久公生レテ傳タリ從テ薩州ニ來リ國老ニ任ス世々相模テ國老タリ兵衛入道稱何　久經公ニ仕フ兵衛入道阿忍　忠宗公ニツカヘ次郎左衛門貞資入道貞阿　貞久公ニ仕フ其後兵衛四郎等　師久公ニツカヘ子孫總州家ニ仕フ酒匂紀伊守ニ至リ叛シテ　久豐公ニ通ス事ハ公ノ傳ニアリ其孫新左衛門河邊日當山地頭タリ永祿中源左衛門隅州廻ニ於テ右馬頭忠將ニ從テ戰死ス其裔今次郎左衛門ト云）戰死シ城兵

傷クモノ百餘人然共兵氣猶衰ヘス突進テ戰フ於是賊軍大ニ罷困メ退キ去ル此時國中悉ク檢井畠山等ニ屬シ征スルコトアタハス將軍ニ告ケ援ヲ求ム其書曰両御所之門御發向及延引者師久捨國可令參洛候將又老父道鑑中風ノ身難義之上合戰最中之間不能委細惶若此旨爲於申候者可蒙八幡大菩薩御罰候以此旨可有御披露候恐惶謹言文和四年十一月五日左衛門尉師久進上御奉行所按ニ此後援兵至ルヿ見ヘス

延文二年丁酉文和五年三月廿八日改テ延文元年トス傳云延文元年氏久公岩屋城ヲ陷ル按ニ傳記何レノ國イツレノ敵ナルヿヲ詳ニセス

○春二月肝付五郎九郎兼重カ弟横山城隅州肝付郡大姶良ニアリヲ拔ク初肝付八郎兼重日州三俣院高城ニ移リ五郎九郎ヲシテ隅州内城肝屬郡大姶良ニ在リ肝付ヲ鎮セシム又軍ヲ分テ末次西俣共ニ大姶良ニ城ヲ守ル大姶良其先長谷四郎太夫藤原義兼初テ日州飫肥南郷ヲ領ス喬永二年加賀國篠原ニ戰死ス義兼根占或ハ富山ヲ以氏トス其子根占小太郎義明大姶良ヲ領ス其子掃部助義宗其子掃部助清義其子六郎晴義相樹テ大姶良ヲ領ス横山大姶良六郎晴義カ兄彌三郎有義横山辨濟使ト成ツテ横山ヲ氏トス世々傳領ス獅子目大姶良晴義カ弟八郎義藤獅子目辨濟使トナリ因テ氏トス世々傳領ス子孫アリ肝付氏ノ臣タリト濱田大姶良ノ族ナリ子孫民部左衛門入道榮林勇名アリ義久公ニ殉死ス事ハノ四氏始ヨリ兼重ニ從テ相議シテ曰肝付ハ叛賊公ノ傳ニアリコノ四氏ヲ大姶良四ヶ村ノ頭人ト云フ驕恣ニシテ禮ナシコレニ從フハ天ニ逆フナリ逆ヲ棄テ順ニ從ハン密ニ氏久公ニ通シ横山城ニ據ル五郎九郎軍ヲ發シテコレヲ攻拔ク濱田戰死シ大姶良横山逃亡ス完目潛ニ路傍ノ林ニ匿ル日暮レテ五郎九郎軍ヲ班ス親ラ衆ニ先タチ馬ヲ躍ラセ意氣揚々トシテ歸ル獅々目忽チ出テコレヲ斬ル五郎九郎馬ヨリ墜テ死ス獅子目走テ林中ニ入リ遁レ去ル肝付カ軍求レ共エス空シク内城ニ歸ル檢井頼仲志布志ニアリ變ヲ聞テ大ニ欣ヒ大軍ヲ起シ大姶良ヲ掠メ地ヲ畧シテ肝付ヲ絢フコレヨリ頼仲カ威風日隅ヲ傾ク兼重勢孤ニシテ是ニアタ

ルヿアタハス傳ニ云此時頼仲肝屬郡帝釋寺ヲ志布志ニ移シ龍興山大慈寺ト号ス按ニ大慈寺ハ臨濟宗京師妙心寺ノ末寺ナリ開山ヲ王山ト云寺傳云勅願寺ナリユヘニ廣慈ノ二字ヲ賜ヒ大慈廣慈禪寺ト號ス永正十五年後柏原帝勅ノ王山ニ佛知大通禪師ト號ス二世ヲ剛中和尚ト号ス頼仲亡テ後氏久公コレニ皈依ノ由ヲ聞セ丈室ヲ修造シ即心大樹ノ二寺ヲ建ツ

○畠山國明薩州山北ニアリ大兵ヲ將ヒ志布志ヲウツ頼仲松尾城ニ據テコレヲフセク國明兵ヲ增テ急ニ攻ム城陷ル頼仲僅ニ身ヲ以テ免レ寶持庵大慈寺ノ内ニ入リ筆ヲ把テ書シテ曰開山檀那仲公大用大禪定門大事同緣五十七年遊戲自在劍樹刀山

コシカタモ又行末モ此事ノ此月ノ今日只今ニアリ

延文二年丁酉二月五日大用花押筆ヲ棄テ自殺スコレヨリ國明カ威國中ニ震フ

○國明隅州加治木ニ至リ土器園今加治木土器園ナシ乎或云黑川諾ヲ云乎ヲ修築シテ居ス執事野元藤次秀安萩原城帖佐ニ在リ首尾相援フ國明スヽンテ薄邊城氏久公ノ執事本田信濃守重親アリヲカコム氏久公モ亦萩原城ヲカコム二城危ヿ旦夕ニアリ宮内正宮ノ社人和ヲ國明ニ求ム於是國明氏久公ト約シテ共ニ圍ヲ解キ去ル氏久公細作ヲ茶ケ尾ニ遣シテ其虛ヲ窺ヒ夜ニ乘シテコレヲ襲フヿ不意ニ出ヲ國明大ニ破レ山北ニ走ル

○氏久公末次城ヲ陷ル先ニ肝付カ領スル處ナリ按ニ五郎九郎殺サレテ後榆井頼仲是ヲ掠取リ頼仲死ノ畠山コレヲ掠メ今又氏久公ノ陷ルカ傳云コノ片市場ニ於テ公大ニ戰テ敵ヲヤブル今ヤ士小路ノ上東畠是ナリ進テ西俣姶良大姶良ノ三城ヲ拔ク下大隅靡然トメ公ニ屬ス於是氏久公大姶良ニ移リ山田加賀守忠經山田氏五世ヲ末次ニ本田信濃守重親ヲ西俣ニ封ス氏久公軍ヲ發シ日州救仁院志布志ヲ定メ新納越後守實久二世愛ニ封ス先是新納時久將軍尊氏ノ封ヲ受テ救仁院ヲ領ス其後榆井頼仲コレヲカスメ取ル畠山國明頼仲ヲ殺ノ是ヲ奪フ實久

未弱冠ニ滿ス此時元服ス　氏久公加冠シ名ヲ修理亮ト賜フ實久松尾城ニ居ス

○畠山國明大兵ヲ山北ニ起シ内城志布志ニアリヲ拔キコレニ據テ實久ヲ攻ム　氏久公大軍ヲ卒シ國明ヲウツ實久モ突出シ夾攻ム大ニ破レテ櫛間或作福島ニ走ル　公又追ヒウタントス國長恐レテ飫肥ニノガル從軍逃散シテ戰フコトアタワス止ムヲヱスシテ山東ニ至タリ伊東大和守祐重伊東氏其先藤氏工藤左衛門尉祐經カ子大和守祐時カ六男信濃守祐光ニ出ッ或云祐經五世六郎左衛門尉祐時建武四年畠山國長ト足ニ九州ニ來リ畠山ハ穆佐ニ伊東ハ佐土原ニ居ス將軍義滿薩地ヲ討スルノ片日州ノ守護ニ任スト雖日州ハ頗ル我　邦君ノ有ナリユヘニ伊東氏屢々日州飫肥福島ニ寇ス天正中　薩久公ノタメニ追ハレテ豐後國ニ走リ大友氏ニ寓ル　秀吉西州ヲ徇フノ日飫肥曾井清武ニ封セラル後德川家ニ奉仕シ封ヲツキテ五万餘石ヲ領スソノ裔豐後守祐福コレナリ　按ニ初南朝ノ盛ナルニ及テ肝付兼重コレニ屬シ國中ヲ誘テ大ニ勢ヲ振フ櫛井賴仲畠山國長ニ據ル祐重容レス去テ豐後國ニ走ル

日州ニ來ルニ及ンテ初ハ力チアハセ後ハ相惡ム肝付ハ勢ヲ櫛井ニクシカレ櫛井ハ畠山ニ滅ボサレ畠山ハ氏久公ニ追ハル復來リ侵サスコレヨリ伊東相良東北ニ寇ス按ニ太平記延文四年冬十一月薩地武光日州六笠城（畠山治部太輔據ル）ヲ攻ムマツ三保城（治部太輔カ子民部少輔據ル）ヲ陷ル畠山父子走ル山林ニ遁カルヽト云々

四年己亥

○肥後國球摩侯同國葦北郡ヲ兼領ス　相良兵庫允實長其先藤氏伊東氏ト祖ヲ同ス工藤祐經七世ノ祖ヲ駿河權守時信ト云其次子惟兼ノ孫右京太夫國頼ト稱ス初テ遠州相良ヲ領ス因テ氏トス四世ノ孫頼景頼朝公ニツカヘ肥後國球摩ニ封セラル相模ヲ實長ニ至ルコレヨリ世々我國ニ寇ス實長十世ノ孫修理太夫義陽ニ至テ初テ義久公ニ降ル後秀吉及德川家ニ奉仕ス其裔今猶球摩郡人吉城ニ居シテ二万二千余石ヲ領ス乱ニ乘シテ日州ニ寇ス伊東大和守祐重コレニ應ス眞幸吉田馬關田仮野加久藤三山ヲ眞幸院ト號ス按ニ由來記上古ヨリ草部氏コレヲ領ス　忠久公封ニ就クノ片眞幸十郎草部重兼領ス其子貞賴其子貞能其子貞總其子貞季其子左衛門三郎貞房相續テ　貞久公ノ時ニ至ル北原氏代ワテ眞幸院ニ主タリ北鄕按ニ庄内安永川東ヲ北鄕ト云其所ノ衆謀テ應スルナラン北鄕氏ニ非ス野

々美谷ノ衆亦是ニ與ス　氏久公國合原末吉ニ軍ス相良實長貞幸貞季或ハ北原氏トスルハ非ナリ是襲フ公ノ軍利アラス佐多左馬介忠直佐多氏二世也傳吉貴公ノ傳ニ在ノ忠直佐多彦四郎ノ弟等力戰シテ死ス公遁レテ手取城末吉ノ内岩川氏保ツニ據ラントス岩川氏拒ンテ容ス去テ蓬原城志布志ノ内救仁鄕氏保ツニ至ル救仁鄕氏亦容ス山ヲ越テ百引ニ出飯午禮山市城ヲ經テ此時山中ノ鄕導タリシ者ヲ賞シ書ヲ賜フ今ニ至テ子孫コレヲ藏ムト云フ鹿兒島ニ歸リ軍ヲ聚メ復ヒ末吉ニ軍シ手取城ヲ拔キ又蓬原ヲ陷ル　按ニ救仁鄕氏其先件姓肝付氏ノ族ナリ世々蓬原城ヲ領ス應永中薩川右兵衛佐源滿賴九州ノ探題タリ救仁鄕氏ノ女ヲ娶テ救仁鄕姓ヲ冒ス姓ハ猫源ヲ稱ス子孫山伏ト成テ飯限山ニ住ス今連光院ハ其後ナリ傳云飯限山照信院飯福寺天台宗本山派ノ山伏寺ナリ開山ハ覺進上人ト云弘安三年江州比叡山ヨリ來ル新熊野權現ヲ立ツ數世ノ後妻帶僧寺トナリ又山伏寺トナル本朝二十八人山伏先達ノ一ナリ古昔ハ勅命ヲ奉ノ此寺ニ住スト云フ

貞治二年癸卯延文六年三月廿九日改テ康安元年トス二年九月廿三日改テ貞治元年トス

○夏四月　道鑑公封ヲ二分シ二子師久公薩摩國守護職國櫛無保下總國相馬郡小河村下黒前同本戸日向國高知尾庄豐前國曾井田豐後國井田○鄕地頭職ヲ師久公ニユヅル傳云氏久公大隅國ノ守護及諸所ノ地頭職氏久公ニ讓ル於是幷ヒ立テ　師久公ヲ總州家　氏久公ヲ奥州家ト稱ス本田酒匂二氏忠久公以來世々老中タリコヽニヲイテ酒匂ヲ師久公本田ヲ氏久公ニ仕カヘシム

○秋七月三日薨ス享年九十五道鑑道阿彌陀佛ト謚ス墓廟神主前ニ同シ

謹按ニ　貞久公包荒高義三精霧塞ノ時ニ會ヒ封内ニ馳騁シ外邦ニ往行シ奔逸塵ヲ絶ヘス群雄ヲ芟刈シ兇賊ヲ討殺ス赳々タル雄斷屢大功ヲ立ツ遠近懷柔シ今古芳ヲ流ス

西藩野史卷之三終

西藩野史卷之四

○師久公

貞久公ノ第三子（長ハ川上頼久ト稱ス側室ノ生ム處ナリ故ニ家督ヲ貞久公ノ傳ニアリ）母ハ大友因幡守親時入道道德女正ラス次ハ宗久公早世ス共ニ

中二年乙丑八月十二日ニ生ル生駒丸ト稱ス後三郎左衛門尉ト改ム太夫判官上總介ニ任シ從（貞和ヨリ貞治ニ至テ十餘年征伐ヲ事トス事ハ貞久公ノ傳ニアリ）

四位ニ叙下ス此時國中大ニ亂レ比年軍ニ勞ス

貞治二年癸卯

○夏四月十日道鑑公封國ヲ分テ　師久公　氏久公ヲ幷ヘ立ツ事ハ道鑑公ノ傳ニアリ於是　師久公薩州碇山城（平佐）ニ居シ酒匂次郎左衛門貞資入道貞阿（傳云コレヨリ後酒匂氏世々師久公ノ子孫ニ仕フ總州家衰ルニ及テ酒匂氏モ衰微ス）ヲ守護代トシテ峯城（高江）ニ在ラシム

永和元年乙卯（貞治七年二月十八日改テ應安元年トス八年二月廿七日改テ永和元年トス私云此間氏久公隅州ニ在テ稅所氏ヲ討シ又日州ニ於テ伊東相良ト戰ヒ　師久公此事ニ與ラザルニヨツテ此ニ闕ク可參考）

○入來院彈正少弼重門（入來院其先瀧谷氏ノ族ナリ　貞久公ノ傳ニアリ入來院定心始テ入來院ヲ領ス其子平次公重弘安中筑前國博多ニ在テ弟等三人ト共ニ蒙古ノ爲ニ戰死ス定心五世重門コレナリ應永中元久公ノ爲ニ應清色城（傳云元久公應永三年ニアリ）ヲ陷ラル十世彈正少弼重聰ノ女ハ貴久公ノ夫人タリ元龜元年十二世石見重副サキニ掠奪フノ地百次平佐等ヲ獻ノ降ル入來院ヲ賜フ十三世彈正忠重盤嗣子ナシ一女アリ右馬頭忠將ノ次子ヲ養ヒ女ニ妻ハセテ嗣トス又六重時ト稱ス慶長庚子ノ乱九月廿三日濃州ニ死ス亦一女アツテ男子ナシ薩摩守義虎ノ五男ヲ養ヒ女ニ妻ス伯耆守重高ト稱スソノ子伯耆守重國ト稱ス初メ重時文祿年中檢地ノトキ入來院ヲ轉ノ湯尾ヲ賜フ入來ハ太守公ノ領トナル重國ニ至テ復入來ニ還附セラル其孫石見守重賴請テ入來ヲ二分シ士ヲ移ス其子牟人佐重治請テ士人居ル所ノ地ヲ太守公ノ地トスコレヲ樋脇トイフ男子ナシ島津丹波忠通ノ次子ヲ養テ子トス志摩之助重堅ト稱ス

亦子ナシ島津筑後忠顯ノ次子ヲ養フ又兵衛短軍ト云フ又子ナシ光久公ノ子ヲ養ヲ石見定勝コレナリ）峰城ヲ侵ス城兵擊出シテ戰フ主馬頭短ト稱ス其子主馬定恒亦子ナシ（鶴豐公ノ季子ヲ養フ）利アラス有名ノ士許多戰死ス（酒匂石塚否笠中條等死ス）退テ堅ク守ル重門勝ニ乘シ躬先トソ攻擊スルヿ急ナリ城兵大石ヲ拋テ防禦ス重門コレニアタリ冑ヲ破リ陣中ニ陷テ死ス（或云城中式部三郎太郎等數十人戰死ノ城陷ル於是又碇山ヲカコムト云フ）於是賊軍退キ去ル澁谷黨（者挾守重親乎）コレヲ憤リ大ニ北山ノ軍ヲ起シ碇山城ヲカコム相良兵庫允實長澁谷ニ應シ來テコレヲ助ク城兵寡シテ大軍ニアタルニ堪ヘス氏久公志布志ニ輕騎ヲ驅テ直ニ碇山ニ向フ（伊作伊集院ノ軍コレニ從フ）薩摩山ヲ出テ後軍ヲ待ツ市來太郎右衛門氏家（市來ノ主）薩摩山ヲ塞テ其後ヲ絶ツ　氏久公進退途ナシ人チツカハシテ氏家ニ說テ曰孤軍フカク入リ前ニ大敵アリ此後ヲ斷ツ我軍大ニ窮ス汝欲スル所アラハ悉クコレヲ聽ン途ヲヒラキ後軍ヲ通ラシメヨ氏家曰欲スル所他ニアラス　公ノ女ヲ以テ妻トスルヿヲエハ我願ヒ足レリ　公之ヲ許ス氏家欣ンテ路ヲ開ク後軍通ルヿヲ得タリ（按ニ公ハ一女アリ伊集院頼久カ妻也氏家ニ婚ヲ許スハ計策ナルベシ）澁谷相良援兵ノ至ルヲ見テ夜ニ乘シテ遁レ去ル　師久公危ヲ免レ氏久公日州ニ歸ル

二年丙辰

○春正月二十日　師久公碇山城ニ薨ス享年五十三稱名寺（限城）ニ葬ル貞山道貞ト謚ス

謹按ニ　師久公英敏明達膽略人ヲ兼ヌ堅ヲ破テ威ヲ逞フシ策ヲ運シテ賊ヲ退ク英威スデニ震フテ舊物ヲ克復ス亦美ナル哉

○氏久公

貞久公第四子母ハ大友親時女嘉暦三年戊辰生ル又三郎ト稱ス後三郎左衛門尉ト改ム修理亮越後守陸奥守ニ任ス

暦應四年辛巳

○夏四月　貞久公鹿兒島ヲ略シ（事ハ貞久公ノ傳ニアリ）氏久公ニ給フ於是東福寺城ニ居ス初　忠久公信州大田庄ニ封セラレ諏訪神（信州諏訪郡ニアリ）ヲ信ス　貞久公コレヲ薩州山門院（本牟礼城）ニ移ス（傳云公人ヲ体ヲ薩州ニ移スヨヘニ信州ノ民庶サラニ神体ヲ作テ祭ル）氏久公鹿兒島ニ遷シ東福寺（初山住職ノ寺ナリヲ）鎮國山安養院ト改号シ以テ別當寺トス（按ニ諏方上下大明神上ハ退御名方命本社ハ信州諏方郡南方刀美（大巳貴命ノ子也）神社ナリ下社ハ事代主命本社攝州（矢田郡）長田神社（事代主命ヲ祭ル大巳貴命ノ子ナリ信州下諏方ハ八坂入姫命ノ子ナリ）也綱貴公請テ正一位ニ任ス　近衛家熙公額ヲ書ノ奉表ニカク按ニ信州諏方社ハ坂上田村丸東夷征伐ノ中建ル所ナリ攝州長田社ハ神功皇后新羅征伐ノ中故アリテ祭ル所ナリ故ニ武家殊ニ崇敬スト云又正八幡宮（今ノ若宮八幡コレナリ傳云鶴岡八幡ヲ祭ル鶴岡八幡頼朝公ノ傳ニ在リ）府下ニ移ス（始何ノ地ニ在ルヿヲ詳ニセス）暦應ヨリ貞治ニ至リ二十餘年國家ノタメニ賊ヲ討ス事ハ　貞久公傳ニアリ

貞治二年癸卯

○夏四月　貞久公封ヲ二分シ　師久公　氏久公ヲ并ヘ立ツ於是　氏久公大隅國守護職ニ任シ隅州大姶良城ニ移ル又去テ日州志布志ニ移居ス（貞久公ノ傳ニアリ）

○平田新左衛門尉親宗本田信濃守重親酒匂次郎左衛門尉入道貞阿ヲ國老トス

○隅州曾於郡ノ主税所介畠山國長ニ應シテ叛スル了年アリ事ハ貞久公ノ傳ニアリ又相良兵庫允實長ニ應シ實長カ軍ヲ姶木城今國分ニ屬スニ召テ己ガ勢ヲ助ケ清水城ヲ分ツ守リ恣ニ郡縣ヲ剽掠ス正宮ノ傳ニ出ツ社人急ヲ　氏久公ニツク　公笑隈正宮ノ上ニ軍ヲシテコレヲ攻ム三年コシテ降ラス奇計ヲ運ラシテ姶木清水ヲ陷ル税所介餘衆ヲ收テ湯峯城北ニ軍ス　公進ンテコレヲ破ル税所子ヲ擊レ狼狽ノ曾於郡ニ退ク　公姶木ニ入ル賊又來侵ス　公奮戰シテコレヲ追ヒ傳云此時伊集院長門守碇山左衛門本田重治其子氏親功アリ碇山脅力絶倫刀ヲ把テ敵ヲ斬ル過ツ大石ヲ破ル今ニ存シテ金晋石ト云フルソノ後税所氏コレヲ掠領ス　ヲ清水姶木ニ封シテ以テ守護代トス　傳云貞治五年種子島對島守紹時（七世）氏久公ノタメニ肥後國ニ戰死ス按ニ此時氏久公肥後國ニ至テ相良氏ヲ討スル歟未詳ヲ考ヘス

應安三年庚戌貞治七年二月十八日改ヲ應安元年トス

○春二月相良實長伊東祐重都城此時北郷潛岐守義久樺山美濃守音久（樺山氏二世實ハ北郷義久ノ弟）都城ニアリ按ニ都城ハ文和四年十二月十二日七郎左衛門尉資忠將軍尊氏ニ封セラル爰ニ都城ト云ハ南郷ナリ六年ノ後永和元年今ノ都城ヲトシ北郷氏世々是レニ居ス　ヲ侵ス三州有名ノ士菱刈世々隅州菱刈ノ主ナリ傳貴久公永祿十二年ニ在リ牛尿世々薩州牛尿ノ主ナリ傳貞久公文和元年ニアリ澁谷傳貞久公曆應二年ニアリ土持世々日州縣城主ナリ天正中土持彈正義久公ニ屬シ久字ヲ賜テ久綱ト稱ス秀吉入寇ノ時來テ薩州ニ臣タリ子孫土持新八コレナリ土持伊豆守政綱入道弓伴ハ久綱カ支族ナリ初日リ我國ニ來テ仕フ　勝久公ノ片國老ニ仕ス貞幸北原氏世々是ヲ領ス傳貞久公延文四年ニアリ牛山未考傳貞久公文和元年ニアリ肝付世々隅州肝付ノ主也傳貞久公延武四年ニアリ飯肥此時飫肥氏ノ領未其詳ヲ考ヘス福島不考南方薩州谷山阿多河邊知覽頴娃指宿給黎七郡ヲ南方ト云フ等有名ノ士凡六十三人コレニ應シ軍ヲ起シテ本原ニ會シ力ヲ戮テ都城ヲ攻ム日州震駭シテ都城危キヿ旦夕ニ在リ氏久公孤軍ヲ帥ヒ志布志ヲ發シ天ケ峯庄内南郷四城寺ノ上ニ軍ス伊集院伊作鹿兒島大姶良及財部氏肝付氏ノ次子ノミ來會スト云三月朔日ヲ以合戰ノ期トス　公世子又三郎公即元久公也年八歳ニ告テ曰ク賊四集シテ吾軍孤ナリ勝敗計ルベカラス生死モ亦知ルヘカラス汝速ニカエリ衆ヲ撫シ兵ヲ聚メヨ我モシ死セハ賊ヲ討シ仇ヲ報セヨ世子不肯シテ曰君父ノ危キヲ見テ遁ルハ我情ニアラス共ニ死シテ義ヲ全クスベシ　氏久公コレニ說クニ報讐ヲ以テス再三ニシテ聽ク本田信濃守重親世子ノ傳モ亦弟或甥次郎氏親年十一ニ敎諭シ世子ニ從テ志布志ニカエラシム將士悉ク感慨シテ涕泣セサルハナシ於是　氏久公軍ヲ平波瀨末吉ニ進ム二月二十八日

○三月朔日　氏久公財部ニ軍ス從軍八百餘人分テ三隊トス　氏久公中軍ニ將タリ小一撰ト云二百余人本田重親杉一撰ト云フ新納實久月撰ト云フ左右軍ニ將タリ衆死ヲ以テ誓フ旗將北原又七郎旗ノ進止ヲ問フ本田重親曰進テ敵ノ後ニアルヘシ北原諾ス平波瀨ヲ渡テ敵ニ向フ時ニ城中北郷義久樺山音久議シテ曰今日　氏久公ヲ危地ニ陷ラシムルハ吾儕ノ罪ナリ万死以テ贖ニ足ラス大ニ憤激シ突出シテ敵ニ向フ其兵七十餘人平田新左衛門宗親工藤藏人櫻ヲ折テ腰ニ挿ム衆笑テ曰梶原景季カ箙ノ梅ヲ學フカ二士揚言シテ曰吾何ソ景季カ下ニ出ンヤト先發シテ奮戰ス義久音久急ニ進テ衝擊ス一以テ百ニアタルト雖モ衆寡相敵セス力盡キ勢窮ス北條彌次郎基忠北郷七郎忠宣共ニ義久ノ弟等數十人戰死ス義久モ亦傷ヲ得タリ敵前後左右ヲ圍テ薄リ戰フ遂ニカコミヲ破テ城ニ歸ル氏久公ノ三軍ス、ンテ蓑原ニ戰フ僉死ヲ以テ期トス其勢疾

風迅雷ノ如シ賊軍被キ靡ク賊將相良氏頼伊東六郎左衛門池尻五郎澁谷典廐戰死ス　公ノ軍モマタ大ニ勞ル暮ニ至テ軍ヲ收ム今夜敵ノ首級ヲ聚ム伊集院大隅守久氏（伊集院氏五世）澁谷典廐カ首ヲ見テ泣ク人ニ語テ曰吾初女ヲ以テ彼カ妻トセンヿヲ約ス未嫁セスシテ此戰アリ出ルニ及ンテ彼使ヲ遣シテ予ニ告テ曰出バ死生シルベカラス一度會シテ後ニ死トモ憾ナケン予コレヲ拒ンテ曰汝既ニ賊ニ黨ス今ヤ見ルニ由ナシ戰ニ臨テ命ヲ損シ首ヲ以テ謁ヲ執テ足レリ今果シテ如是衆其情ヲ悲ム氏久歸テ後女ヲ尼トナシ圓通庵（伊集院）ニ居ラシメ貞節ヲ全フセシム明日（三月二日）両軍傷ヲ養ヒ勞ヲ休メ三月三日又ス、ミ戰フ　公ノ軍寡シトイヘ氏義氣奮發シテ一以テ千ニアタル暮ニ至テ勞ル敵機ニ乘シテ戰ヒ公ノ軍大ニ破レ本出重親北原彦七郎肥後石井等戰死ス　公精神ヲ震ヒ自先登ニス、ンテ諸軍ヲ勵マス敵又潰乱ル勝ニ乘シ逐ヒ追ヒ功ヲ樹テ歸ル都城全キヿヲ得タリ（傳云氏久愛馬アリスミタヲ井黒ト名ツク奥州ノ産ナリ山田右京亮久興ニ借ノ乘ラシム朔日右京亮傷ヲ得タリ三日又傷ヲエテ馬ヨリ墜ツ馬走リ去ル初公ノ軍敗レ衆走ルノ中右京亮亦走テ財部ニ遁ル後ニ公ノ利ヲ得ルヲ聞キ其逃レタルヲ恥ツ以爲ニタロ公ニ面スルヿアタハシト其夜馬尋テ右京亮ニ到ル於是明日馬ヲ引テ公ニ詣リ狀ヲツケ然ノ曰馬猶主ヲ尋至ル人トノ危ニノソンテ主ヲ棄テ走ルコレヲナニトカ云ハンヤ公其直ニノ際スヿナキヲ稱シ馬ヲ右京亮ニ賜フ

永和元年乙卯（應安八年二月二十七日改テ永和元年トス）

○澁谷黨相良實長ト共ニ　師久公ノ碇山城ヲ攻ム　氏久公援兵ヲ卒シテ至ル敵退ク（事ハ師久公ノ傳ニアリ）此時澁谷薩州島城東郷入來院（今ノ入來通脇）邪答院（異本ニ高城鶴田大村山崎佐志黒木蘭牟田ヲ邪答院ト云ヲ澁谷四支族ノ主元久公ノ獨族ヲ離レ　氏久公ニ通ス於是蔓延シテ勢國中ヲ傾ク鶴田刑部左衛門重成（鶴田ノ主元久公ノ個所ト云傳應永八年ニ在リ）

公軍ヲ卒シ鶴田ニ至リ相謀テ澁谷ヲ討ントス澁谷忽チ大軍ヲ卒シ牛屎（傳貞久公文和元年ニアリ）菱刈傳ニアリ）ト共ニ　公ヲ襲フ　公ノ軍大ニ潰ユ式部彦七本田彌七等戰死ス　公敗軍ヲ收メ山ヲ越テ退ク賊勝ニ乘シテ追フ　公急ニ軍ヲ返シ親先登ニス、ンテ敵ヲ斬ル　公ノ軍又奮ヒ戰フ敵披靡ク澁谷大村乱軍ノ中ニ死ス北ヲ追ヒ首許多ヲ斬テ歸ル（コレヲ山引合戰ト云　氏久公）

○氏久公筑前國ニ至リ今川伊豫守貞世入道了俊（今川氏其先源義家ノ三男龍國孫義兼三男義氏ノ子長氏ノ二男國氏初テ今川ヲ以テ氏トス駿河國ニ封セラル六世ヲ經テ範氏ト云其弟則了俊ナリ範氏八世義元織田氏ノタメニ尾州ニ戰死ス其子氏眞ニ至テ國ヲ失其孫刑部太輔範英ト稱ス德川氏ニ仕フ世々高家ト云ヲ以テ仕ヘ祿千石ヲ賜フ其嗣丹後守義泰ト稱ス從五位下侍從ニ任ス）ニ會ス先是應安三年了俊西州ノ探題トシテ筑前國ニ居ス（傳云應安五年三月菊地武敎了俊ヲ攻テ克タス七年四月將軍武滿四州ニ入テ菊地ヲ討ス九月武敎降ル菊地四世南朝ニ屬ノ忠アリコトニヲイテ始テ降ル）使ヲツカワシテ　氏久公ヲ召フ（傳云來テ政ヲ興リキカンフヲ賞ルト云フ）公筑前ニ至ル本田信濃守氏親伊地知民部少輔季時コレニ從フ了俊宴ヲ開テ饗ス又來テ　氏久公ノ旅第ニ宴ス（傳云了俊酒ヲ携ヘ來ル從者樽ヲ開テ酒ヲ出ントスレモアタハス　氏久公ノ臣牧二郎三郎帶力人ニスク衆鮑ノ袖ヲ樽ニ掩テ捽ム酒肆沂テ席上ニ散ル衆其力ヲ稱ノ興アリ）厚情日々ニ加ハル了俊小貳冬資小貳氏　貞久公正慶二年ノ傳ニアリ當時島津大友小貳ノ三氏九州牧伯ノ長ヲ以テ稱ス）ヲ惡ム　氏久公ヲシテ是ヲ召ハシム冬資來テ了俊ニ見ユ了俊力士ヲシテ冬資ヲ席上ニ殺ス（按ニ本朝通記冬資建武中尊氏ニ屬シ菊地ト戰フ數年去年菊地降ル冬資以爲我家世々將軍ニ功アリ必ス賞アラント菊地降テ益封ヲ受ケ其威冬資カ右ニ出ツ冬資恚テ叛ス了俊兵ヲ師ヒテ生葉城ヲ陷レ一族與黨七百余人ヲ殺スト惡按ニ冬資死ノ後族等生葉ニ據リ了俊討スル乎）又　氏久公ヲ召フ衆疑テコレヲ止ム　氏久公聽カス衆諫テ曰　公聽カズンハ戎衣シテ變ニ備ヘヨ　公曰彼ヲ恐ルヽニ似タリ衣冠シテ至ル了俊力士悉ク甲冑ヲ着ス兵ヲ執テ門ヲ衛ル本田氏親伊地知民部少輔先

入ル衛門ノ士拒テ氏久公一人ヲ通ラシメントス衆聽カス公ニ從テ悉ク突入ル今川カ士拒ムヿアタハス　公席ニ就テ了俊酒ヲ勸メ小貳ヲ殺スヿヲ語ル　公出テ衆ニ告曰了俊害心アリ小貳カ族ト力ヲ戮セテコレヲ討セン衆曰國ニ歸テ後ニ謀ラン　公諾ス使ヲツカハシ了俊ニ告曰足下我ヲシテ小貳ヲ召ヒ僞テ席上ニ殺ス我小貳ガ爲ニ心ニ恥ル處アリ是ヲ以テ今國ニ歸ルナリ了俊驚ク然共止ムヿアタハス（傳云此時西州ノ人了俊ヲ惡ムヿ將軍ニ聞スユヘニ除セラレテ京ニ返リ遠州ニ蟄スト按ニ非ナリ了俊今川泰範ト隙アリ泰範了俊ヲ將軍義滿ニ讒ス大内義弘探題タランヿヲ欲ス管領義將己カ族澁川氏ヲ探題ト爲サンヿヲ欲スト由レ之交相譖ル義滿コレヲ信ス故ニ了俊離メラレ應永三年叛ル俊病有テ期ニ後ル義滿怒テ封國遠州ヲ奪フユヘニ遠州ニ蟄スト　イフ）

嘉慶元年丁卯（永和五年三月廿三日改テ康暦元年トス三年二月廿四日改テ永德元年トス四年二月二十七日改テ至德元年トス四年八月二十三日改テ嘉慶元年トス）

○公志布志ニ在テ復鹿兒島東福寺城ヲ修メ居ント欲ス未タ果サス夏壬五月四日薩州伊集院ニ薨ス享年六十齡岳玄久ト諡ス即心院志布志ニ葬ル（即心院ハ大慈寺二世剛中開基大始良龍翔寺亦　公ノ墓アリ京師即宗院ニ　公ノ神主ヲ建ツ即心院ハ東福寺ノウチニアリ或ハ云フ即宗院ハ　氏久公ノ立ル處或ハ云フ剛中立ル處未詳其是非矣）

謹按ニ　氏久公俶儻瑰瑋超邁群ニ絶ス屢艱難ヲ經過シ英氣世ヲ蓋フ急ヲ救フテ遠ク馳セ單力ニシテ探題ノ會ニ趣キ危懼ニ臨テ任度優容南山ニ倚リ平原ニ坐スガ如シ卓越ノ姿炎天ノ才民ヲ安ンセン哉

西藩野史卷之四　終

西藩野史卷之五

○元久公

氏久公ノ長子母ハ伊集院忠國（長門守ト稱ス）入道道忍女貞治二年癸卯隅州大始良城ニ生ル又三郎ト稱ス後陸奥守ト改ム　氏久公ニ從テ日州志布志ニ移リ又鹿兒島東福寺城ニ移ル城地偏少ナルヲ以テ清水城ヲ築キ（大興寺後山也）コレニ居ス（至德中也是ヲ木城ト云フ貴久公ニ至猶是ニ居ス）猶廣地ナラズ有士在職ノ士ハ橋ノ口城（吉野實方ナリ或云此ハ清水城主殿十二間雜賞所馬屋アリ）ニ居ラシム

嘉慶元年丁卯

○夏壬五月　氏久公ニ嗣テ立ツ（コレヲ第七世ノ大守トス）

○大寺美作守元幸蒲生美濃守清寛村田右衛門（名詳ナラス）柏原豐前守好資伊地知縫殿介孝重入道明德四年癸酉（嘉慶三年二月九日改テ康應元年トス二年三月二十六日改テ明德元年トス）

○先是　師久公薨メ後世子上總介伊久（初太夫判官ト稱ス貞和三年二月朔日生ル後ニ除髮シテ久哲ト稱ス）薩州數郡ヲ領ス躬薩州河邊郡ニ居シ長子太夫判官（後播磨守）守久ハ木牟禮城（出水）次子山城守忠朝ハ碇山城（平佐）ニ居ラシム守久性凶暴ニシテ父ニ逆フ師ヲ帥ヒテ父ヲ攻ルニ至ル　元久公人ヲツカワシテ說シメテ曰父子相暴ハ逆ノ大ナルモノナリ天神以テ怒ル其責メ免ルベカラス守久悔悟シ父子和睦シ（名字詳ナラス）ヲ國老トスキニ至ル

テ歸ル伊久是ヲ德トシ己ガ藏ル處ノ忠久公ノ印胄（按ニ數百年ニ至テ其形損スル處アリ享保中懇望公ニ命ノ更ニ似セ作ラシム并誌テ寶トス）小千文字ノ太刀（傳云源家世々傳ル處ノ膝丸ナリ忠久公ノ僧ニ辭ナリ伊久忠久ヲ以テ公ノ大宗家タルヲ以テコレヲ傳フ今ニ至テ相傳フテ家珍トス）公辭スルニ守久アルヲ以テス伊久曰守久ガ不肖成他日ノ存亡イマダシルベカラス不幸ニシテ他人ノ有トナラバ百世ノ遺憾ナルベシ於レ是　公山田右京亮（一族ト云ヲ以テス）伊地知民部少輔（家臣ト云ヲ以テス）ヲ河邊ニッカワシテコレヲ受ケシム伊久モ亦阿蘇谷（一族ト云ヲ以テス阿蘇谷氏其先忠時公ノ六男大炊助久時ニ出ツ公ノ語ヲ受テ伊賀國長田庄ヲ領ス子孫薩州羽月ニ居ス）石塚（大和守ト稱ス家臣ヲ以テス）ヲシテ授ク相議メ曰重器ノ授受民屋ハ褻嫚也佛寺ハ凶場ナリト田中（松尾內城ノ間）ニ授受シテ歸ル

應永元年甲戌（明德五年七月五日改テ應永元年トス）

○僧石屋（石屋ハ伊集院長門守忠國第十一子ナリ貞和元年乙酉七月十七日生ル觀應元年六歲ニシテ伊集院廣濟寺（泰定山廣濟寺京師南禪寺ノ末寺ナリ本朝甲刹ノ一ナリ開山南中ハ石屋ノ兄ナリ）ニ入テ學フ延文四年洛湯ニ到リ南禪寺蒙山（南中ノ師ナリ勸請シテ廣濟寺ノ開山トス）ヲ拜ノ師トス同五年十六歲ニシテ僧トナル永德三年癸未三十九歲ニシテ能登國總持寺ニ至リ通幻（豐後ノ人）ニ見テ法ヲ受ク至德二年乙丑四十一歲ニシテ國ニ返リ妙通寺ヲ建ツ同三年深固院ノ薩州吉利ニ建ツ（文明三年福昌寺東嶺ニ移ス）直林寺ヲ伊集院ニ建ツ嘉慶元年妙圓寺建ツ應永元年福昌寺ヲ建ツ又惠燈院ヲ建ツ同三十年五月十一日丹波國永淨寺ニ卒ス年七十九○按ニ通幻ハ道元弟子五哲ノ一ナリ道元姓ハ源氏洛陽ノ人始建仁寺入ニテ明庵ニ謁ス庵以テ法器トス商船ニノリ宋ニ入リ天童如淨禪師ニ見ユ宗洞宗ヲ傳テ返ル城南深草ニ於テ法ヲ說ク北條時賴召セ左遷カス越前國ニ永平寺（按ニ永平寺ハ初僧行基開基ス又總持寺永平寺ヲ以テ曹洞宗ノ兩本寺トス）ヲ建テ居ス延長五年秋八月寂ス年五十四）京師及ヒ北州ニ遊ヒ禪ヲ學テ歸リ　元久公ニ說ク　公是ヲ悅ヒ府下長谷場六郎久純ガ宅地ヲ乞ヒ寺ヲ建テ玉龍山福昌寺ト号シ石屋ヲ住セシメ田祿許多ヲ寄ス（同三年十二月鹿兒島坂下池上ヲ封ス同六年二月二十九日谷山宇宿村ヲ封ス）

○春二月　元久公日州野々美谷ヲ攻ントス初北原周防守範兼（按ニ肝付氏ノ祖兼俊ノ弟右京亮初北原氏ヲ冒ス　貴久公ノ傳ニ辭ナリ神部氏ニ代テ世々眞幸院ヲ領ス神部氏貞久公延文四年ノ傳ニアリ）眞幸院ヲ領シ伊東相良ニ與シ日州ヲ乱スヿ年アリ安三年ニアリ相良近江守前續（實長ノ子）コレト謀テ野々美谷城ヲ取ル於レ是　元久公梶山ニ軍シコレヲ攻ントス今川播磨守貞兼（今川了俊カ族ニシテ伊東相良ニ與スルモノ乎）來テ野々美谷ヲ援フ高木長門守（梶山城ノ主）和田土佐守（日州高城ノ主）貞兼ト戰テ利アラス高城ニ走ル貞兼勝ニ乘シテ梶山ヲ襲フ兵勢迅疾シ北鄕又次郎北鄕藤次郎伊地知又七戰死ス　元久公ノ軍短兵急ニ接シテコレヲ破ル貞兼大ニ狼狽シ僅ニ身ヲ以テ免カレ山東ニ走ル（二月十七日）

○秋七月　元久公野々美谷ヲ陷ル千田牟田（相良氏有名ノ士）以下許多戰死ス於是野々美谷ヲ樺山美濃守音久（樺山氏二世）ニ賜フ（按ニ音久教宗教久滿久長久廣久菅久七世太永元年ニ至テ傳領ス其間百三十年傳云天文十二年北鄕忠相伊東北原二士ガ背テ掠取ル處ノ地ヲ復ス其中野々美谷アリ私云太永ノ後又二氏コレヲ掠取ル乎）

二年乙亥

○初北原周防守範兼相良伊東ニ與ス故ニ相良近江守前續兵ヲ眞幸院ニッカワシテ北原氏ヲ助ク今年春範兼相良祐賴（或賴照ニ作ル前續カ弟）ヲ德滿城（加久藤也）ニ宴ス事ヲ論シテ合ハス怒テ相刺シ共ニ死ス於是二氏交ヲ斷ツ左馬頭久兼（範兼カ子）元久公ニ降ル　公軍ヲ發シ相良軍ヲ追ヒ眞幸院ヲシテ全ク久兼ニ給フ

三年丙子

○春正月初　元久公澁谷氏ヲ證センカ爲薩州高牧ニ軍ス去年十二月入來院ヲ清色城樋脇城ナリ樋脇入來ヲ清色ト云ス、ソテ清色城（入來院氏據ル）ヲ圍ム日十一入來院彈正少弼重賴援ヲ相良前續ニ請フ援兵未タ至ラス城先陷ル重賴前田ニ走ル日十三公北ヲ追テ市比野樋脇ノ内ヲ取ル相良氏カ援兵至ル公軍ヲ進メ花北ニ戰ヒ大ニコ、レヲ破リ主將吉田氏ヲ斬ル勝ニ乘シ數百人ヲ殺ス公軍ヲ班メ後重賴襲フテ清色ヲ復ス傳云高城トウ花山牛屎ニ戰フ其事詳カナラス

四年丁丑

○元久公復大兵五千人ヲ揚テ清色ヲ攻ム上總介伊久入道久哲河邊城主播磨守守久久哲ノ長子木牟禮城主伊作大隅守久義伊作家四世新納越後守實久新納氏二世志布志城主本田信濃守忠親隅州清水城主軍ヲ卒來テ公ヲ助ク於是四軍ニ分ツ　元久公ハ野頸ニ久哲守久久義ハ木場原黑瀨ニ實久ハ壽昌寺ノ峰ニ忠親ハ滿手野ニ陣シ攻擊ツ甚急ナリ入來院重賴勢盡テ降ル應永十八年又叛ク

○先是谷山郡司佛心入道谷山ノ主命ヲ奉セサル久シ　氏久公日州ヲ征スルノ時虛ニ乘シテ鹿兒島ヲ襲ンヲ恐ル人ヲシテ佛心ニ說シメテ曰予師ヲヒキヒテ遠ク日州ヲウツ賊等虛ニ乘センヲ恐ル汝予カ爲ニ來テ鹿兒島ヲ守ランヤ佛心任俠ヲ好テ志氣アリ　公ノ爲ニ東福寺城ヲ守ル　公軍ヲ班スニ及ンテ兒ヘスシテ谷山ニ歸ル此ユヘニ氏久公世ヲ終ルマテ谷山ヲ伐ス元久公ニ至テ佛心猶從ハス故ニ師ヲヒキヒテコレヲ征ス佛心軍敗レテ逃亡ス（按ニ谷山氏其先兵衛尉忠光忠久公ノ時ニ當テ初テ谷山ヲ領シテヨリ今ニ至マテ二百餘年始テ除セラル谷山氏貞久公ノ傳曆應三年ニアリ）給黎指宿（指宿氏世々是ヲ領ス其先伊作平次郎太夫良道カ第三子頴娃三郎忠長カ族ナリ世々傳領シ爰ニ至テ除セラル於是奈良氏ヲ揖宿ニ封ス奈良氏久豐公傳ニアリ）風ヲ聞テ降ル

○本田信濃守忠親開國ヨリ以來世々國老ノ職ニ任ス此時故有テ日州ニ走リテ叛ク又三郎久照（伊久入道久哲第三子北殿ト稱ス初元久公ニ從ハレテ子タリ後變ス）ヲ立主トシ軍ヲ發シテ志布志ヲ侵ス新納越後守實久（志布志ノ主）犬馬場ニ出テ川ヲ隔テ戰フ實久先渡テ忠親ヲ破ル忠親ノガレテ隅州ニ歸ル實久カ軍熊田原氏兄弟アリ（野邊薩摩九郎兄ハ十九弟ハ十六平素ヲ嗜ム又容色アリ今日衆ニ先テ戰死ス鄕里コレヲ悲ム貳人ヲ石ニ刻ミ寶滿寺（秘山密敎院ト號ス律宗南都西大寺ノ末寺ナリ花園帝正和五年立テ勅願寺トス）ノ門ニ立ツ或云今ノ寶滿寺ニ至是ナリ）

○忠親隅州ニ歸テ故舊ヲ誘フ廻伊豆守（隅州廻ノ主永祿四年ノ傳ニ出ツ）貴久公コレニ應ス相共ニ横川ヲ侵ス横川氏舊戰シ伊豆守及ヒ忠親カ族數人ヲ殺ス二氏ノ軍大ニ潰ユ忠親身僅ニ免カレテ他邦ニ走ル（按ニ横川氏其先平清盛ノ子安藝守基盛其子左馬頭行盛其子肥後守信基其第三子藤内左衛門信行ニ出ツ其子藤内兵衛尉時信ト稱ス承久中初テ隅州横川ヲ領シ因テ氏トス九世ノ孫河内守種氏ニ至テ其後ヲ詳ニセス後北原氏横川ヲ領ス按ニ忠親除髮ノ安了ト稱ス元久公京師ニ至ルノ片安了京師ノ邸ニ來リ阿多平田ノ二氏ニ因テ罪ヲ謝ス　公召テ見ル又去テ其後ナシラズ）元久公忠親カ兒（後信濃守元親ト稱ス國老ニ任ス）及ヒ其族臣ヲ召テ曰忠親カ罪至テ重シトイエトモスデニ亡命シテ去ル本田氏ノ國家ニ勳勞アル重親忠親カ父　カ難ニ死スル（氏久公ノ傳ニ出ツ）亦忘ルヘカラスユヘニ兒ヲ清水ニ封ス族臣等恩ヲ謝シ兒ヲ奉シテ清水ニ歸ル

○冬十二月伊作大隅守久義師ヲヒキヒドウメキ川ヲ渡リ（傳云間瀨川コレ也）鵜塚（加世田益山村）ニ軍シ別府氏（加世田ノ主貞久公ノ德康永元年ニ出ツ）ヲウツ別府逆擊テコレヲ破ル久義援ヲ二階堂氏（按ニ其先文永中相州ヨリ來テ阿多北方ニ寧タリ世々コレヲ領ス北方ハ郎

田布施ナリ二階堂氏傳曰永十三年ニ出ニ求ム聽カス（按ニ二階堂ハ久義姉ノ夫ナリ又別府カ妻ハ二階堂カ女ナリ故ニ別府ヲ擊ヲ肯セス）久義又元久公ニ求ム　公人ヲシテ久義ヲ諭シテ曰軍ヲ解テ伊作ニ歸リ異日ヲ待ツベシ久義止ムヿヲ得スシテ軍ヲ班ス是ヨリ久義又二階堂ト快カラス（後ニ久義兵ヲ元久公ニ請ヒ二階堂ヲウツヿハ應永十二年ニアリ）

七年庚辰

○春正月　元久公隅州鹿屋院ヲ鹿屋周防介忠兼（後除髮ノ玄蕃トニ稱ス國老ニ任ス）ニ賜フ忠兼其先肝付氏カ族ナリ（肝付氏五世河内守兼名カ第三子宗兼初テ鹿屋ヲ領ス）封ヲ鹿屋ニウク因テ氏トス中比除セラルコヽニ至テ本土ニ復ス

八年辛巳

○秋九月鶴田刑部左衛門尉重成（世々鶴田ヲ領ス澁谷氏ノ一族也）族ヲハナレテ　元久公ニ通ルヿ年アリ（按ニ永和元年重成氏久公ニ通ス今ニ至テ二十七年獨族ヲ離レテ孤立スル歟或ハ族等ト平和ノ時ヲ待哉詳ナラス）澁谷氏コレヲ惡クミ清色（入來院氏也）柏原車内（澁谷實重早川東郷或ハ車内ト稱ス）高城（澁谷重光ヲ六男落合六郎重貞薩州高城ヲ領シ因テ以テ氏トス）大村軍ヲ發シテ鶴田ヲカコミ攻ム上總介伊久入道久哲澁谷ヲ助テ萩ケ平ニ軍ヲス（按ニ久哲コレヨリ元久公ト兵ヲ搆フヿ數年）元久公三千五百餘兵ヲ率シ鶴巢神崎山（コレヲ鶴田古城ト云フ）ニ軍シ鶴田ヲ援フ五日久哲軍ヲ善福寺ニ移ス澁谷又援ヲ球摩ニ請フ相良前續（或ハ實長ニ作）自ラ來テコレヲ助ク（十月中旬相良氏到ル或云牛屎ノ軍是ニ屬ス）於是日々ニ戰ヲ挑テ雌雄決セズ（傳云十月新納八郎三郎元久公ノ營ニ詣ル皈ニ及テ賊出テコレヲ遮ル新納カ士中野四郎九郎戰死ス兩軍大ニ戰フ澁谷大村戰死ス元久公ノ軍伊集院大輔等戰死ス敵モ又神崎山ニ攻入ル公ノ軍又久哲ノ營ヲ攻敗ル十月二十五日又千町田ニ會戰ス）元久公重成ヲ諭シテ曰今賊軍四集シテ敗ルベカラス孤城亦永ク保ヲカタシ鶴田ヲ以テ澁谷氏ニアタヘヨ更ニ封スルニ谷山ノ地ヲ以テセン（傳云山田村六町サエノ脇ノ内今アミノ浦ヲ封スト云フ）重成諾ス城ヲ下テ菱刈ニ通ル澁谷氏鶴田ヲ取ル（按ニ鶴田氏其先重茂寶治中封ヲ鶴田ニウケテヨリ以來今ニ至テ百五十餘年コレヨリ子孫衰微スト云）

十年癸未

○元久公師ヲヒキヒ日州海江田城（伊東氏領）ヲ陷ル新納越後守實久功アリ海江田ハ山東ノ要地ナリユヘニ城ヲ修築シ阿多加賀守ヲシテコレヲ守ラシム於是川南（穆佐三百丁池尻細工）伊東ヲ叛テ　公ニ屬ス今給黎長門守久俊（元久公ノ外叔父ナリ知覽ノ主久豐公ノ傳應永二十六年ニ在）ニ命シテ日州ヲ鎮ス久俊其任ニ勝ザルヲ以テ辭ス更ニ　久豐公（元久公ノ弟ナリ此ノ時薩州頴姓ニアリ故ニ南殿ト稱ス去ルニ及テ頴姓ヲ小牧氏ニタモウ事ハ應永二十七年ニアリ）ニ命ス　久豐公卽日州ニ至リ穆佐ニ居シ池尻白糸細江三城ヲ築キ日州ヲ鎮ス伊東大和守祐安　久豐公ノ勇武ヲ恐レ女ヲ以テ之ニ嫁シ長ノ唇齒ノ交ヲ結フ　元久公其ヲ告スシテ聚ルヲ怒ルコレヨリ久豐公ト善カラス於是後藤氏細江城ニ據テ　久豐公ニ叛キ阿多加賀守ニ通ス加賀守卽元久公ニ告ス　公福永紀伊介ヲ細江ニツカハシテ後藤ヲ助ク　久豐公怒テ穆佐高城ノ軍ヲヒキヒ細江ヲ陷ル後藤福永戰死ス（久豐公ノ臣本田小太郎綾縫殿介戰死ス）コレヨリ日州大ニ亂レ山東河北宮崎田島木脇河南土持縣岡富財部等悉ク　久豐公ニ背キ　元久公ノ東征ヲ請フ　公卽日州ニ趣キ宮崎田島ヲ巡リ穗北ノ大河ヲ渡リ峰ニ陣ス　久豐公ハ伊東祐安大軍ヲ率ヒ後本庄深利飯田クツラ池尻白糸細江數里ノ間ニ軍シ兵勢大ニ振フ元久公人ヲ遣シ　久豐公ニ說テ曰骨肉ノ親兵ヲ搆フベカラス我未虎壽丸（久豐公ノ子卽忠國公ナリ今年五月生ル）ヲ見ス兄弟ノ子ハ猶子ノ如クナ

ルヿ能ワス吾ヲシテコレヲ見ルヿヲエセシメバ軍ヲ班シテ骨肉ノ恩ヲ全フセン　久豐公從者ヲシテ幼兒ヲ　元久公ノ陣營ニ送ル於是　元久公歡ヲ盡シテ鹿兒島ニ還ル

十一年甲申

○西州ノ探題澁川氏西土ノ牧伯ヲ肥後國二見郷ニ會ス新納越後守實久　元久公ニ代テ會ニ（スン）趣ク播磨守守久澁谷氏モ亦會シテ席上ニアリ實久席ニ前テ其上ニ就ク澁谷黨潛ニ議シテ曰實久島津氏ノ威ヲ假テ我黨ヲ蔑如ス他日ノ會必其上ニ就テ辱シメン實久愛妓（コレヲ白拍子ト云アナイガロシ）ヲ聞テ實久ニック他日ノ會實久先至ル柏原氏（澁谷カ族）前テ實久ニ禮ス實久其意ヲ曉リ起テ席上ニ就キ密ニ思ヘラク彼レ己レガ上ニツカハ斬ラント志氣容色ニアラハル相良近江守前（求摩）續ノ主起テ柏原ヲ引テ探題ノ下ニ坐セシメ已ハ其下ニツクノ於是實久モ亦下テ謝ス無事ナルヿヲエテ國ニ歸ル

○夏六月將軍義滿（將軍義詮ノ長子征夷大將軍太政大臣從一位應永十五年薨ス鹿苑院ト号ス勅ノ太上天皇ノ号ヲ贈ル嗣子義持辞ス）更ニ　元久公ヲシテ日向大隅二州ノ守護職ニ任ス（按ニコノ片三州爭亂ス就中伊東氏日州ヲ爭ヒ已カ封國トスユヘニ更ニ二州ノ守護職ヲ元久公ニ任セシムル歟）

○上總介伊久入道久哲國賊ノ首魁トシテ仇ヲナシテ息マス將軍義滿遥ニ三州ノ亂ヲ開キ朝山出雲ノ守師綱小次郎西重綱（師綱カ弟）ニ書ヲ齎ラシテ西州ニ遣ハス（其書曰爲一名守不斷及合戰云々何樣之事候哉否然所詮止確執之義和睦珠可致忠節由被仰付處也仍執達如件島津陸奥守殿奉行）豐後太守修理太夫大友親世モ亦吉弘土佐入道ヲ台使ニ從ヘツカハシテ和ヲ元久公ニ勸ム　公大慈寺（志布志）ニ張具シテコレヲ待ス（傳云朝山和歌ヲ以テ世ニ鳴ルユヘニ詩歌ノ會アリ）朝山台

史記灌夫傳云（ハイヲ）市ニ午酒ヲ夜酒擂張具（ス）

命ナツタヘ又薩州ニ至ル（傳云朝山志布志ヲ出テ隅州加治木ニ至ル加治木氏黑川響ス加治木カ族高山氏連歌ヲ以ツテ之レヲ宴ス）久哲ニ傳ヘ（時ニ平佐船ニ乘テ歸ル口ニ戰死ス邑人祭テ一ノ塚天神末社ノ神トス）

十二年乙酉

○冬伊作久義二階堂行貞（山城守ト稱ス阿多北條ヲ領ス）ヲ恨ム（按ニ久義嘗テ別府ヲ攻ム援ヲ二階堂ニ求ム疏カス故ニ久義是ヲ恚ム事ハ應永四年ニ出ツ）元久公ニ請テ擊ントス　公群臣ヲ會シ議シテ曰行貞久哲ノ二子山城守忠朝二階堂氏ノ女ヲ妻トス市來結テ外親タリ相共ニ力ヲ戮セハ害甚シカラン久義ノ請ニ從ヒテコレヲ証セント師ヲ帥ヒテ久義ヲ助ク久義先登ニスヽンテ阿多北方（即田布志ナリ）ヲ攻ム阿多（鮫島氏領ス貞久公ノ傳曆應二年ニアリ）別府（別府氏領ス傳康永元年ニアリ）相謀テ北方ヲ援フ　元久公軍ヲ分テコレト戰フ

十三年丙戌

○春二月　元久公阿多別府ノ援兵ヲ破ル行貞（按ニ藤原姓二階堂氏其先駿河守維遠始テ相州鎌倉二階堂林ニ居ス因テ氏トス八世ノ孫左衛門尉元行ノ弟常陸介行久鎌倉ニ仕テ評定衆タリ薩州北方及ヒ相州吉田島ヲ賜フ行久女ヲ以テ元行ノ子隠岐守行氏ニ嫁ス北方吉田島ヲ讓リ與フ行氏子隠岐守泰行幼ニシテ孤ナリ其母家事ヲ理ム文永中北條家ノ難ヲサケ北方ニ來牟礼城ニ居ス其子左衛門尉行雄將軍家ニ仕フ行貞ハ行雄カ曾孫ナリ此ニ至テ百四十年北方始テ他人ノ有トナル行貞市來ニ去テ後　元久公觀音寺府ヲ賜フ子孫流落シテ阿多ニ寓ス遂ニ阿多郷士トナル　光久公ノ中源右衛門行搭鹿兒島ニ移テ府下ノ士トナル今ノ出右衛門即其孫也）降ヲ諸ヒ阿多北方ヲ棄テ市來ニノガル於是　元久公妾（五代氏女ナリ）ヲ志布志ニ迎ヘテ北方ニ居ラシメ老臣ヲシテコレヲ守ラシム（傳云後ニ一女ヲ生ム伊作久義ノ子四郎左衛門尉勝久ニ妻セテ田布志ヲ勝久ニ賜フ）

十四年丁亥

○先是伊集院彈正少弼頼久（伊集院氏六世　元久公ノ妹ヲ配ス）河邊城（島津上總介伊久入道久哲コヽニ居ス）ヲ陷ル（或云頼久軍ヲ進テ距箱坊泊ヲ定ム伊久勢孤ニシテ居城ノ保チカタキヲ計リ河邊ヲ元久公ニ獻シ平佐ニ遁レテ忠朝ニ據ルト云フ執カ是ナルヿヲ詳ニセス）久哲平佐ニ走リ次子山城守忠朝（平佐城主）ニ寓ス五月四日久哲病テ卒ス（享年六十一）此日　元久公軍ヲ進メテ平佐城ヲ陷ル忠朝逃亡ス（傳此時在國司領悉ク元久公ニ屬ス）

十五年戊子

○元久公種子島清時ヲ屋久島永良部島ニ封ス（按ニ種子島氏其先平相國清盛ノ次子安藝判官基盛ノ男右馬頭行盛カ子行基ニ出ツ平氏滅亡ノ日亡命ノ際レ北條時政ニ因テ赦ヲ得發ハレテ子トナリ相州鎌倉ニ居ス時政將軍頼朝ニ告テ種子島ニ封ス因テ以テ氏トス後屋久永良部ノ二島ヲ加封セラル七世ノ孫對馬守頼時　氏久公ノ時ニ肥後國ニ戰死ス清時ハ頼時ノ子ナリ何レノ年カ二島ヲ除セラルヽニ至テ復封セラル　久豐公ノ時薩州硫黄竹島黑島ノ三島ヲ賜フ永享中九世時長ニ至テ三島ハ除セラル十四世曉堯日新公ノ女ヲ配ス天文十年四月從五位下ニ叙シ彈正忠ニ任ス女アリ義久公ノ夫人タリ十六世ニ至テ久字ヲ賜テ久時ト稱スコレヨリ世々久字ヲ賜テ名トス）

十六年己丑

○秋九月十日將軍義持（將軍義滿ノ長子征夷大將軍贈太政大臣從一位正長元年薨ス）書齎シ使ヲ薩州ニツカハシ　元久公ヲ薩摩國守護ニ封ス（按ニ去年五月將軍義滿薨ス義持立ツ故ニ更ニ如此乎）

十七年庚寅

○先是將軍使ヲツカハシテ　元久公ヲ京師ニ召フユヘニ伊集院頼久先至テ邸ヲ京師ニ造ル（應永十四年）於是公京師ニ朝ス（樺山教宗（樺山氏世）北鄕知久（北鄕氏四世此ニ人ヲ一族ト云）平田重宗（隅州串良ノ主也）阿多時成（國老ナリ揖宿ノ主此二人ヲ御内ト云）北原久兼（日州眞幸ノ主北原氏六世）加治木忠平（左衛門ト稱ス隅州加治木ノ主）蒲生清寛（隅州蒲生ノ主）肝付兼元（又八郎ト稱ス隅州肝付ノ主）野邊某（右衛門尉ト稱ス其先武藏七藩ノ内横山藩ナリ武州榛澤郡野邊郷ヲ領シ因テ以テ氏トス後日州福島院ノ地頭ニ任ス又隅州深川院ヲ領ス子孫アリ志布志ニ居ス）飫肥某（隅州廻リノ主ナリ以テ氏トス貴久公ノ傳ニ出ス）等是ニ從フ時ニ　久豐公日州穆佐院ニ在テ伊東ト和ス故ニ　元久公新納近江守忠臣（世々日州志布志ノ主）ニ命シテカタク志布志ヲ守ラシメ其變ニ備フ　公既ニ日州油津ニ至リ船ヲ發セントス　久豐公爰ニ至ル衆大ニ驚ク　元久公曰彼兄ヲ愛スルノ道ヲ以テ來ル何ノ疑フ處カアラン即召見テ曰賊虜ニ乘シテ國ニ寇センヿヲ恐ル爾我タメニ日州ヲ鎮セヨ　久豐公謹テ諾ス慇懃ノ情昔日ニ異ナラス（傳云此時久豐公錢數万ヲ元久公ニ獻ス）元久公スデニ泉州境津ニ至ル伊集院頼久爰ニ在リ赤松滿祐（按ニ赤松氏其先村上帝ノ子具平親王其子師房右太臣始テ源姓ヲ賜フ八世ノ孫從三位季房播磨國司ニ任スコレヨリ世々播州ヲ領ス季房九世ノ孫則村入道圓心其子律師則祐元弘建武ノ乱名聲高シ則祐ノ子義則其子滿祐播州ノ太守タリ後叛シテ國除セラル　傳云大寺美作守元幸長野左京二人馬ニ乘テ前驅ス○按ニ大寺ハ國老世々鹿兒島艸牟田邑ヲ領ス長野氏後裔ニ居ス然レトモ川上伊集院新納町田伊地知本田ノ八家ト井テ諏方神社祭祀ノ役ニ任ス且　太守公薨禮ニ役スルカユヘニ重年公ノ片召サレヲ府下ノ士トナリ○私云薨禮役ト云ハ葬禮職事アルナリ本田氏ハ太刀ヲ取ル梶原氏馬ヲ牽ク木藤氏燈燈ヲ取ル中村氏幢ヲ執ル長野氏香爐香合茶碗茶入茶杓茶洗湯桶湯入匙花瓶燭臺下火松明茶湯提子ヲ奉シ盥渡氏天蓋ヲ執ル）從臣モ亦將軍ヲ拜ス於是從臣悉ク官ニ除ス所謂樺山教宗安藝守北鄕知久中務少輔阿多時成加賀守平田重宗右馬介加治木兼平能登守肝付兼元河内守蒲生清寛美濃守北原久兼左馬介飫肥某伊豆守野邊某薩摩守ニ任ス元久公亦將軍ヲ已カ邸ニ宴ス厚情日ニ加ワル

十八年辛卯

○此時國中澁谷氏大ニ蜂起ス　元久公京師ヲ辭シテ國ニ歸ル（或云公伊勢太神宮ニアリ亂ヲ聞テ伊勢ヨリ國ニ歸ル）大軍ヲ發

ス鋒尾ニ至リ稻苗原浮橋樋綠川瀨野原松瀨口數十餘ケ所ニ軍シ清色城澁谷瀧入來院氏據ル ヲ圍攻ム
公暴病ヲ得テ起ルアタハス明ヲ解テ鹿兒島ニ歸リコレヲ養フ終ニ起ス秋八月六日清水城
ニ薨ス享年四十九玉龍山ニ葬ル杉ヲ墓邊ニ植ヘ今猶在ス 恕翁玄忠大禪伯ト謚ス 公一男八女アリ七女ハ尼
トナリ一女ハ伊作勝久ニ嫁ス 男ハ梅壽丸ト稱ス石屋會下ニ入テ僧トナリ伸翁ト號ス先是應永二年東州ニ趣クニ按
仲翁和尚應永二十年三十四歲ニノ國ニ皈リ應永十八年寺ヲ田布志ニ立テ大平山常珠寺ト号ス二十八年四十二歲ニノ
福昌寺三世ノ住持タリ延長二年五十歲ニノ寺ヲ隅州大姶良ニ立ツ寶陀山含粒寺ト号ス文安二年六月六日此ニ於テ遷
化ス或云ノ伊集院德重村ニ終ト未其是ヲ詳ニセス 故ニ嗣子ナシ於是伊集院彈正少弼頼久聲言シテ曰ク 元久公遺命ア
リ我兒初犬千代丸後大隅守照久ト稱ス忠國公長女ヲ配ス反シテ肥後ニ走ル ヲメ嗣テ立シム衆悅ヒス頼久情ヲ察シ大兵ヲ揚
テ府下ニ入强テ立ントス傳云此時頼久カ平東福寺寶方清水城邊ニ充滿ス 佐多伯耆守親久北鄕中務少輔知久樺山安藝
守敎宗吉出若狹守清正蒲生美濃守清冨伊地知民部少輔等胥日議シテ急ヲ久豐公ニツク州日
穆佐ニ輕騎ヲ驅テ鹿兒島ニ至ル傳云佐多若狹守佐多美濃守樺山伊地知菜是ニ從フ時ニ元久公ヲ福昌寺ニ葬ス伊集院
アリ 犬千代 公ノ神主ヲ奉スヲ梵語死者ノ後タル者神主ヲ奉スルヲ以テ禮トス 頼久カ衆寺中ニ充ツ 久豐公憤激ニ堪ヘス
自神主ヲ奪フテ奉シ葬禮ヲ終フ頼久大ニ恚ミ伊集院ニ叛テ叛ス
○播磨守々久出水ニ在 山城守忠朝永利ニアリ 澁谷黨ニ通シ力ヲ戮テ亂ヲナス三郎左衞門尉久世守久ノ子頼
久ニ乞テ曰河邊城ハ我祖伊久ノ居城タリ君サキニコレヲ奪フ志ヲ同フス願クハ返テ我ニ
與ヘヨ然フシテ恩ヲ結ビ交ヲ固フセハ亦善カラズヤ頼久諾ス久世河邊ニ移ル於是黨比シ

テ大ニ國中ヲ乱ル
謹按ニ 元久公海涵ノ量不羈ノ才窮ヲ賙シ困ヲ卹ミ慈仁矜宥以テ心トス騷乱ノ際奇ヲ
出シテ窮ナリ敵ヲ料テ變ニ合フ多々益辨ナル哉

西藩野史卷之五終

西藩野史卷之六

○久豐公

氏入公ノ次子母ハ佐多三郎左衛門尉忠光女永和元年乙卯鹿兒島ニ生ル二郎三郎ト稱ス修理亮ニ任ス

應永十八年辛卯

○秋八月　元久公ニ嗣テ立ツ陸奥守ト改ム

○浦生美濃守忠清入道吉田若狭守清正本田信濃守重恒（忠國公ノ片ニ至ル）大寺彦左衛門貴幸入道幸朝（立久公ノ片ニ至ル）ヲ國老トス

○冬肝付河内守兼元叛ス師ヲ帥ヒテ鹿屋（應永七年元久公老中鹿屋ヲ鹿屋周防介忠兼入道芝兼ニ賜フ）ヲ襲フ鹿屋入道玄兼急ヲ久豐公ニ告ク　公大兵ヲ起シ鹿兒島ヲ發テ市成ニ航ス（吉田若狭守清正蒲生美濃守清フナワ寛廻伊豆守數根業等是ニ從フ）先是山田加賀守忠經入道（山田氏五世）鹿屋ヲ救フ兼元軍ヲ分テコレヲウチ破ル（山田孫四郎等戦死ス按ニ忠經恒吉宮里百引高隈西村ノ軍ヲ起ハト云疑クハ此邊ノ主乎）忠經退テ高隈城ヲ保ツ　久豐公コレヲ市成ニ召ス忠經衆ヲ率テ來謁ス　久豐公軍ヲ〻ム兼元救ヒノ至ルヲ見テ圍ヲ解テ去ル大姶良ノ軍鹿屋ヲ援フニ會フ玄兼亦繫出シテ夾ミ攻ム兼元大ニ潰乱ス沿ニ陷リテ死スルモノ百ヲ以テ數フ（兼元カ一族藥丸式部少輔等戦死ス）勝ニ乘シテ逃ルヲ追ヒ首級許多ヲ得テ歸ル捷書ヲ　久豐公ニ獻ス　公下大隅ヲ巡テ歸ル（傳云此ノ片久豐公山田入道ヲ賞

シ將軍義持元久公ニ賜フ處ノ相作ノ太刀ヲ賜ヒ且名字ノ地也ト云テ谷山郡山田五町別府五町ヲ賜フ○按ニコレヨリ後數十年ヲヘテ弘治二年肝付河内守兼續鹿屋ヲ取ル一族武蔵介兼堅ヲ以テ地頭トス肝付氏ヲトロヘテ伊集院幸侃カ領トナル後ニ島津相摸守忠仍コレヲ領シテ居所トス後除セラル

十九年壬辰

○伊東大和守祐安日州曾井城傳云曾井氏コレニ據ル久豐公ノ女ヲ娶ル ヲ圍ミ攻ム樺山安藝守教宗北郷中務少輔知久三俣高城白糸細江海江田ノ軍是ニ從フ 曾井ヲ援フ祐安急ニ逆擊テコレヲ破ル教宗知久高城ニ退ク傳云佐多兵部少輔戰テ傷ヲ得タリ高城ノ援ヲ得テ免ル 高木左馬介日州高城ノ内高木村ヲ領ス又梶山城主タリ嘉吉年中叛ヲ以テ忠國公ノ爲ニ伏誅ス 戰死ス 久豐公曾井ノ危キヲ聞キ師ヲヒキヒテ高城ニ至リ高木カ幼兒ヲ召テ曰爾カ父國家ノ爲ニ死ス今ヨリ後我ヲ以テ爾カ父トセヨ名ヲ賜ヒテ次郎三郎公ノ幼ト字ナリ稱ス永吉村十二町鹿屋ニアリヲ賜フ傳云紋ヲ賜フ時ニ祐安俱ヲ高城ニ入レ夜ニ乘シ火ヲ縱テ西城高城ノ内ヲ襲フ傳云此時末弘甲斐守佐多若狭守佐多讃岐守松元佐藤瀬口根原等戰テ其功アリト云フ 教宗教久 久豐公ニッケテ曰事スデニ急ナリ敵ノ兵勢アタルベカラス其鋭氣ヲサケテ時ヲマッベシ於是夫人伊東祐安カ女及ヒ二子長ハ忠國公次ハ薩摩守用久ナリ 雖ヲ末吉ニ避ケシム 久豐公鹿兒島ニ歸ル伊東終ニ川南川北ヲ略ス

二十年癸巳

○冬十二月澁谷氏隅州ニ寇ス 久豐公師ヲ帥ヒテコレヲ征ス薩州吉田ニ舍ス吉田若狭守清正ノ主盛饌ヲ獻ス伊集院賴久虛ニ乘シ夜鹿兒島清水城ヲ襲フ傳云賴久俱ヲ鹿兒島ニヲカハシテ内應ヲ求ム北原氏ガ臣東福寺ノ城中ニアッテ應スルモノアリ於是賴久兵ヲ發ス城中驚愕シテ自相蹂踐ス賴久火ヲハナッテ城ヲ燒ク城兵益々亂ル死スルモノ百ヲ以テ數フ傳云北原彌二郎北原次郎三郎佐多三郎九郎伊地知新右衛門等城中戰死ス 遠矢無覺大竹ヲ執テ賊數人ヲ擊倒或云清貴ニシテ兵器ニシテ火光竹ヲヤラス大刀ヲ舞スルニ似タリ恐怖シテ近ッカス須臾ニシテ竹破ル於是賊群リスヽンテ無覺ヲ斬リ城陷ル賊又東福城ヲ燒ク賴久軍ヲ分テ清水城ヲ守ラシメ自退テ原良小野ニ屯ス 久豐公變ヲ聞キ軍ヲ班シテ賴久ヲ討セントス吉田清正蒲生清寛諫曰賴久大兵ヲ起シ鹿兒島ヲ略シ兵勢甚盛ナリ檄ヲ傳テ軍ヲ四方ニ召シ衆ヲ會シテコレヲウタバ勝ストイフヲナケン 公聽カス輕騎ヲ驅テタヽチニ鹿兒島ニ趣クコノ時佐多伯耆守親久大寺美作守川上長野北原等余衆ヲ聚テ東福寺城ニ在リ 公諏方神ヲ拜シ清水城ヲ廻リ猪木川稻荷神前ニ流ル ヲ隔テ兵ヲ隱シ東福寺城ニ入テ小野原良ヲ討セントス下大隅向島及ヒ谷山ノ軍公ニ會ス傳云下大隅向島ノ軍船ニノリテ岩下濱ニ到ル 久豐公兵勢大ニ震テ原良ニ向フ十二月十三日伊鋪ノ賊賴久ニ應シ日田碧ヲ築テ守ル ニ據ル川田三郎太郎義清滿家院河田ノ主一說義清ヲ父義祐トス河田氏忠昌公文明十七年ノ傳ニ在ト四郎カ坂ニ鬪フ矢ヲ發テ賊ヲ逐フ久豐公モ亦軍ヲス、メテ戰ヲ挑ム賴久逆戰テ利アラス傳云賴久カ族日置肥前守町田土佐守大田三郎二郎等粉骨碎身ノ戰フ賴久カ軍數百人戰死ス 退テ原良壘ヲ保ツ 公追ヒ進テコレヲカコム賴久遁ルヽニ途ナク自殺セントス吉田清正蒲生清寛 公ニ告テ曰賴久カ罪万死ヲ以テ贖ニタラストイヘトモ正シク 公ノ外親ナリ賴久カ妻ハ公ノ妹也元久公ノ母ハ賴久カ祖父忠國ノ女也 今コレヲ赦サハ再造ノ恩ヲ感シ永ク國家ノ藩屏タラン公是ニ從フ賴久罪ヲ謝シテ伊集院ニ歸ル初賴久軍ヲ發スルニ及テ老親野田入道焉カタク諫テ不可ナリトス賴久キカス道焉五子アリ亦父カ言ヲ以テ老耄ナリトス此ニ至テ初テ信ス

二十一年甲午

○秋八月　久豐公師ヲヒキヒテ薩州給黎（伊集院頼久領ス）ヲ伐ツ頼久援ヒヲ伊作大隅守久義（久義初テ叛ス頼久ニ親キヲ以乎其ニヘ群カナラス）島津上總介久世（河邊ノ主）ニ求ム二人コレニ應シ兵ヲ會シ知覽ノ大山ヲ越松平荒平共ニ給黎ノ地ニ軍ス　公頼久ト戰フ本田信濃守重恒國老久義久世ヲ破ル（傳云伊作家ノ士上原氏以下許多戰死ス本田カ族五郎二郎大隅等亦戰死ス）頼久突進テ城ニ入ル（或云此時求麻ヨリ援兵到ル）公ス、ンテ城ヲ攻メ擊ツリ城邊ニ逆陣ス（傳云公ノ軍駒返ヨ共ニ久豐公ニ屬ス）頼久思ヘラク給黎ノ地タルヤ揖宿谷山ニ間リテ長ク保チ難シ獨知覽（頼久カ叔父今給黎長門守久俊領ス）ニ隣ルトイヘ氏大山ノ嶮アリテ急卒ノ變援ヒガタシコレヲ捨ンニハシカシト夜八月六日乘シテ遁レ去ル知覽河邊伊作ヲヘテカヘルヘテ國老ニ任ス　於是下永吉ヲ和泉又四郎直久（傳云本領ノ地上永吉二十町トシテ賜フ）ヲ大寺美作守元幸（元久公久豐公ニツカ）長野左京亮ニ賜フ

○公鹿兒島ニ歸リ頼久ヲ憤テ止マス然氏黨與多キヲ憂フ故ニ人ヲシテ上總介久世ニ說曰我固ヨリ汝ト仇ナシ只佞姦ノ徒ニ誤ラル、ヿ久シ今ヨリ後好ミヲ結ヒ吉亡相共ニシ患難相助ケ長ク脣齒タラバ豈善ラズヤ久世悅フ山城守忠朝市來備後守家親等ト議メ和ヲ約ス久豐公大ニヨロコヒ日ヲ定テ平等寺（薩州日置郡山郷厚地）ニ會シ頼久ヲ討センヿヲ約ス期ニ至テ公先至ル三人言食テ至ラス頼久一千餘軍ヲ率シ來テ　公ヲ襲フヿ不意ニ起テ　公ノ軍大ニ乱ル吉田清正肝付某後軍ヲ領シ且戰且走ル日暮レ滿家ノ民蜂起シヲ頼久カ軍ニ逼リ島ヲ奪ヒ兵器ヲ取ラントス頼久軍ヲ收テ歸ル

二十二年乙未

○伊作四郎左衛門尉勝久（大隅守久義ノ子）初久世ニ黨シテ頼久ニ與ス（傳云勝久ノ妻ハ久世ノ妹ナリ故ニコレニ黨ス按ニ元久公ノ季女亦勝久ノ妻トアリ頼ニ勝久ノ初室久世ノ妹ニノ早ク卒スル乎又ハ出ル乎然ノ元久公ノ女ヲ娶ルナルヤシ）一日奮然トシテ曰ク逆ニ與シテ君ニ背ク人倫ノ道ニアラス久世ニ勸メ相共ニ　久豐公ニ降ル　公コレヲ嘉シ河邊ニ至テ久世ニ會シ歡ヲツクシテ歸ル又久世ヲ論シテ鹿兒島ニ朝セシム

二十三年丙申

○春伊作勝久鹿兒島ニ朝シ前非ヲ謝ス　公嘉納ス

○冬十二月久世亦朝ス宴ヲ開テコレヲ饗ス千手堂坊（或云今ノ内丸觀音堂也古眞言宗ノ寺ナリ）ニ館ス歸ルニ及テ久豐公忽兵ヲ發シテコレヲカコミ責テ曰汝重罪アリ河邊ヲ獻シテ順ハズ歸ルヿヲエン然スンバ汝ニ賜フニ死ヲ以テセン久世死ヲ甘ンシテ罪ヲ謝スルニ意ナシ福昌寺僧大田（或大轉ニ作ル）坊ニ至テ是ヲ論ス久世曰我スデニ困應タリ我封土ノ取舍ト雖ヒ專ニスルヿヲ得ス命ヲ川邊ノ衆臣ニ傳テ後ニ決セン於是家臣本田伊賀ノ守ヲ河邊ニ遣ハス本田辭シテ曰不慮ノ變知ルベカラス須臾モ君ヲ離ルヘカラス固ク辭シテ往カス久世止ムヿヲ得ス小田原彈正柳田大膳ヲ河邊ニツカハシ群臣ニ告テ曰我死生ヲ以テ念トスル勿レ審ニ議メ事ノ宜ニ從ヘ老臣天辰見庵天辰安房介（見庵カ子）大ニ群臣ヲ會シテコレヲ議ス今給黎長門守久俊（知覽ノ主）亦來リ會ス胥議シテ曰久豐公詐テ久世君ヲ召シ罪ヲ數ヘテ其土ヲ求ム地ヲ獻シテ一匹夫トナラハ

他日ノ存亡知ルヘカラス古宗廟ヲ重シトスルノ義アリ今ヤ嗣子左太郎（年五歳後ニ久林ト稱ス永享二年誅ニ伏ス事ハ傳云柳田ハ忠國公ノ傳ニアリ）ヲ立テ社稷ヲ全フセンニナニノ不可カアラン小田原カエリテ久世ニ告ク（久世一族ナリ世人其生ヲ竊ムヲ譏ル）止テ河邊ニ

二十四年丁酉

○春正月十三日　久世小田原カ語ヲ聞キ自盃ヲ取テ從者ト安シ堂中ニ自殺ス（年三十一）從臣備中太郎本田伊賀守小田原彈正天辰助三郎黑田生駒金田等十一人節ヲ全フシテ死詢フ久世奴アリ暇ヲ賜テ去ラシム奴聞カス盃ヲ賜テ自殺ス　久豐公狀ヲ聞キ太ニ悔悟シテ曰思ハザリキ久世如此以ナラントハ於是除髮シテ存忠ト稱スヨテ過ヲ衆ニ示ストナリコレヨリ南方靜ナラス　愚謂ク哀哉學ヲ講セサルヿ舜天下ヲ棄ルヲ見ルヿ敝タル蹤ヲ棄ルカ如ク譬喩ヲ負テ海濱ニ遁レント云ハスヤ久世ノ諸臣一人モ知ルヿナキヤ惜哉速ニ城ヲ献シ個匐シテ君父ノ死ヲ援フヿナキヿ久世初ヨリ死ヲ甘ンズルハ可ナリ國君社稷ニ死スルノ義ナレハナリ本田伊賀守カ便ヲ辞シテ節ニ死スルハ一介ノ士ト云フヘシ忠ハ未シ如何トナレハ久世匹夫ニアラス此片生ヲ全フスレヒ勇ナシトスヘカラズ何ゾ勸ムルニ邦君ニ事フルニ赤心テシ義ニ從ヒ命ヲ槩ムヲ以テセサル聽スンハナンゾスミヤカニ河邊ニ便シ衆臣ヲ諭スニ君父ノ死天下ニ易ルヿナキヲ以テ久世ヲ援ハザル衆聽ズンハ君臣從容トシテ死ニ就ンヿ迎カラン人事未不盡ノ豈ニ是ヲ命ニ委ンヤ或云然ラス久世ステニ三世叛ク且約ニ背テ　久豐公ヲ平等寺ニ苦ム其罪至テ重シ地ヲ献ストイエ尼恐クハ免レサランヿヲ故ニ危ヲ棄テ安ニツキ久世ヲステヽ子ヲ立テ世々血食スルノ勝レルニハシカシ愚曰呼嗚コレ何ト云フヿン親ク君父非命ノ死地ニ陷テ生死ヲ臣子ノ手ニ委ル此時ニ當テ家ノ存亡士ノ有無ヲ慮ニ暇アランヤコレヲモ忍ヘクンハ何レヲカ忍フヘカララン宜哉他日叛臣其家ヲ乱リ久林亦非命ノ死ニツクヿ

○秋九月酒匂紀伊守（總州家老臣）松尾城（河邊館ニアリ）ニ據テ共主犬太郎（內城ニアリ其間二十町ニ過ス）ニ叛ス密ニ　久豐公ニ通ス　公軍（谷山鹿兒島下大隅ノ軍）ヲ發シ松尾城ニ會シ紀伊守ト謀テ內城ヲ攻シム左太郎ノ諸臣四方ニ

告テ援ヲ求ム於是今給黎久俊（知覽ノ主）知覽ノ軍ヲ率シ來リテ內城ニ入リ伊集院頼久伊作（伊作勝久既ニ久世ト共ニ降ル久世伏誅之後又叛スル乎）田布志（先ニ元久公伊作勝久ニ賜フ）阿田別府山田軍內城ニ會シテ野頸ニ軍ヲシ松尾ヲカコム　久豐公松尾ノ危キヲ聞キ神速ニ兵ヲ發シ牛途（柱ケ尾山之口平川）ニ出テ後軍ヲ俟ツ吉田若狹守清正（薩州吉田ノ主）蒲生美濃守清寛（入道隅州蒲生ノ主）長野左京亮（給黎郡上永吉ノ主）田代肥前ノ守久助（隅州田代ノ主）本田信濃守重恒（隅州清水ノ主）新納近江守忠臣（日州志布志ノ主）北郷中務少輔知久（日州郡城ノ主）樺山安藝守教宗（日州野々美谷ノ主）稱寂左馬ノ介清平（隅州根占ノ主）佐多伯耆守親久（佐多氏四世）和泉又四郎直久（和泉氏五世）和泉又五郎忠次鹿屋周防介忠兼（入道玄兼隅州鹿屋ノ主）飫肥伊豆守（隅州廻リ平田ノ主）左馬介重宗山田出羽守久興（山田氏六世）及ヒ福島飫肥粟野菱刈牛ノ山牛屎ノ軍粮ヲ裹甲ヲ擔テ至ル久豐公兵勢大ニ震ヒ堂々トシテ河邊ニ至ル然共未敵ノ虛實ヲ知ラス輕々シク軍ヲスヽメス伊集院頼久大兵ヲ率シ陣ヲ移シテ內城ヲ後ニシ埕（ホリ）ニケ所河水ヲ引キ柵ヲ設テコレヲ待ヲ軍ヲ分チテ松尾ヲカコムヿ益甚シ城中食盡テ蹙ル紀伊守夜乘シヒソカニ人ヲシテカコミヲ出テ急ヲ　久豐公ニ告ク　公問フニ賊ノ衆寡地ノ嶮易ヲ以テス使者コレヲ審ニセス　公曰汝歸テ紀伊ニツケ復虛實ニ明ナルモノヲ遣ラシメヨ不日ニ賊ヲ破テ難ヲ援ワン使者又カコミヲ犯シテカヘル告ク城中之ヲ議ス伊地知對馬寄瀨戸（或寄瀨田ニ作ル）常刀カ曰頼久嶮ニ據リ陣ヲ列ヌ　公其前ヲウツトモ破ルヘカラス薩野原ニ出テ柵ヲ破テ進マス若クハ破レン衆コレニ從フ又人ヲ出シテ公ニツケ於是軍ヲ分テ二隊トシ一ハ和泉直久忠次（或兵部少輔久國ニ作ル）佐多親久吉田清正蒲生清寛山

田久興伊地知將監等ヲ將トシ栗野菱刈牛屎等ノ軍從フ薩野原ニ出ツ一ハ久豐公自將トシ樺山教宗北郷知久新納忠臣稱寢清平平田重宗大寺長野等コレニ從テ內城ニ向フ九月十一日直久親久等薩野原ヲ下リ川ヲ隔テ賴久カ軍ヲ射ル賊軍駭キ亂ル勝ニ乘シ川ヲ渡リ柵ヲヤブリテス、ム先登ノ兵堭ニ陷ル後軍コレヲ蹈テス、ミ戰フ賴久本營ニ在テ動カス直久等カ軍隊伍乱ル、ニ及テ大ニ鬨ヲ發シ整々トシテ逆ヘ戰フ直久等カ軍潰ヘ乱ル賴久機ニ乘シテス、ミウツ直久親久等奮ヒ戰フ死スルモノ百ヲ以テ數フ直久忠次按ニ和泉氏其先忠宗公ノ次子下野守忠氏ニ出ツ忠氏將軍尊氏ニ仕ヘ建武中士所ノ奉行タリソノ子右衛門尉忠直亦將軍ニ近侍ス○或云忠氏後ニ南朝ニ屬ス忠直ノ子能登守氏儀ト共ニ豐後國ニアリ一家悉ク將軍ニ屬スル乎ユヘニ國ニ皈ルヿアタハス氏久公毎ニ嘆ノ曰忠氏ハ如何トモスルヿアタハス氏儀ヲノ他邦ノ人トナスヿ憾少ナキニ非ラスユヘニ後ニ元久公氏儀ヲ召テ日州救仁院ノ內深川村百丁ニ封ス其子式部太輔氏親其子直久コレナリコヽニ至テ和泉氏斷ユ○忠氏初薩州出水郷ヲ領スユヘニ以テ氏トス出水和泉方音相同ノ以テ同郡シテ和泉字ヲ用ユ延享中吉貴公ノ子三次郎ナン直久ノ後トシ頒姓揖宿二郷ノ內ニ封シ今和泉ト号シ一万石ヲ賜フ元服シテ因幡忠卿ト稱ス寶暦四年十一月卒ス嗣子ナシ稱嫡孫左衛門清香ノ養子小松安之助ハ忠郷ノ季弟ナルヲ以テ命ヲ奉ノ忠郷ニ嗣ク因幡忠溫ト稱ス

蒲生清寛時ニ國老田代久助按ニ田代氏其先平氏重盛ノ次子中將資盛ノ後伊與房時盛ニ出ツ時盛初テ隅州ニ來テ佐多ヲ領ス故アツテ姓ヲ建部ト改ム二子アリ長ハ佐多太郎久秀ト稱ス承久ノ乱宇治川ニ戰死ス亂ナシ次ヲ田代次郎兼盛ト稱ス田代ヲ領ス其子彦太郎後肥前守遠清ト稱ス野峰ケ崎串良ヲ領ス其子肥前守以久高隈ヲ領ス其子刑部少輔清久後肥前守トアラタム其子宗次郎久助刑部少輔肥前守ト改ム應永五年元久公復田代ヲ賜フ元久公ニ代テ探題ニ謁ス於是戰死ス年三十五數世ヲヘテ家衰微ス

伊地知將監山本孫五郎給黎猿渡吉田清正カ弟和田下田西村等戰死ス久豐公內城ニ向テ戰ヲ挑ム新納忠臣先登シテ功アリ傳云忠臣自薩刀ヲ取テ賊數人ヲ斬ル賊進來テ忠臣ノ胄ヲキル安樂豐前守河野土佐守趣キ援フコノ時戰急ニシテ新納家ノ臣隈江右京亮上井筑前八ケ城四郎左衛門等戰死ス城兵固ヨリ地ノ利ヲ諸スユヘニ嶮ヲ渡リ岨ニ因テ戰フ公ノ軍利アラス平田重宗百餘人ヲ卒シ賊軍ニ突キ入ル重宗カ族勘解由左衛門田鍋津田戰死ス

亦敗レテ松尾城ニ遁レ入ル賴久又殺到ス稱寢清平清忠清平弟按ニ二人ノ墓松尾城下田中ニアリ又稱嫡氏二人ノ爲メニ寺ヲ小根占ニ立テ圍林寺ト云フ等數十人戰死ス公ノ軍潰ヘ亂ル於是吉田清正賴久ニ說テ曰皆テ某蒲生清寛ト共ニ足下ヲ原良ニ援ヘリ久豐公ノ仁惠忘ル、ヿナクンハ甲ヲ解キ兵ヲ休メ和平シテ松尾ノ軍ヲ助ヨ賴久曰我ニ賜ニ鹿兒島谷山給黎ヲ以セバ謹テ命ヲ奉セン公コレヲ許ス於是賴久軍ヲ收メ久豐公鹿兒島ニ歸ル或云此時久豐公ハ鹿兒島ニアリ然共賴久猶松尾ノ圍ヲ解カス城中ニハ平田重宗カ百餘人ヲ加ヘテ益食ニ苦シム傳云此時伊作勝久カ臣平田民部平田伊勢根ヲ平田重宗ニナクラントスレヒ賴久カ怒ヲ畏ルユヘニ謀テ城下ニ至リ重宗ヲ呼ヒ戲言ノ喋ヲ投ス重宗コレヲ撫フニ餅ナリ賴久谷山ニ至テ後親戚故酒ヒンカニ食ヲ贈テ飢ヲ援フ賴久谷山コイタリ谷山給黎ヲ取テ松尾ノ衆ヲ鹿兒島ニ送ル又鹿兒島ヲ請フ群臣胥議シテ曰賊ヲ征シテ利アラス宗臣命ヲ墜シ諸軍死亡スルヿ此時ヨリ甚シキハアラジ又國郡ヲ以テ彼ニ與ソヿ大ニ恥ツベシ今ヤ賴久谷山ニアリ勝ニノリ軍ニ怠ル我軍新ニ敗軍ノ後トイヘヒ親死シ子殺サル積怨心肝ニ徹ス一ト夕ヒ靡カハ嬉笑シテ刃ヲフミ奮發メ賊ヲウタン機會失フヘカラス公是ヲ可シ速ニ軍ヲ發ス傳云老壯ヲ分テ二隊トス老ハ小旗ヲ負ヒ壯ハ芭蕉葉ヲ用テ旗トス爭テスヽム或ハ青屋手掛ヲ經或ハ紫原ヲ越テ椿山ニ至リ又ハ漁舟ニ棹サシ佐屋ノ脇ニ至ル志氣フルヒ發ツテ大ニ勇ム賴久本城慈現寺ノ北ニ在リ南方ノ軍賴久ニ屬スニ山田中村五箇別府川ノ口ニ屯ス公ノ軍之ヲ擊破リ逃ルヲ追フ直ニ本城ヲカコミ堀ヲ涉リ岸ニ附ク其勢ヒアタルヘカラス賴久復吉田清正ニ因テ降ヲ乞フ久豐公總カス賴久大ニ恐怖シテ曰願クハ掠奪ノ地及ヒ石谷三十町伊集院ニ屬スヲ獻シテ罪ヲ贖ハン清正謀テ曰今日賴久勢盡キ力窮

マリ其言フ處實ニ肺肝ヨリ出ツ若之ヲ殺サハ乱ハヤク息シ（ヤマ）公コレヲ可ク於是頼久悉ク地ヲ献シ恩ヲ謝シテ伊集院ニ歸ルコレヨリ再ヒ叛カス（傳云頼久軍谷山ヲ出テ、南方ニ歸ルヲ見テ衆惡言シテ曰河邊ニ敗ルヽノ辱二十日ヲ出スメ報ルヿヲ得タリ頼久カ軍面ヲ赤シテ去ル）

二十五年戊戌

○伊作四郎左衛門尉勝久阿多（鮫島氏ノ領）ヲウツ鮫島氏援ヲ四方ニ求ム於是穎娃指宿知寛河邊別府コレヲ援フ市來備後守家親勝久ヲ助ク勝久貝柄崎（田布施ノ屬ス）ノ通路ニノソミテ陣ス又援ヲ久豐公ニ求ム（按ニ勝久既ニ降又頼久ニクミセ河邊ヲ援フ片ハ久世伏誅ノ後叛シ爰ニ至テ又降乎）公阿多飛彈守ヲツカワシテコレヲ援フ然ルニ衆寡相敵セス勝久敗テ歸ル

○冬十二月先是久世誅ニ伏シ頼久降テ後総州家勢ヲ失ス虛ニ乘メ澁谷モ亦背ク於是入來院彈正忠重長市來備後守家親相謀テ永利城（薩摩郡山田ノ内）ヲ攻ム（大石カ平島津山城守忠朝堅ク防守ルニ陣ス）

廿六年乙亥

○春正月十一日忠朝軍ヲ督シ擊出シ重長家親ヲ敗ル重長援ヲ久豐公ニ請フ公聽カス怒テ曰汝我ニ叛スルヿ尚シ何ノ面目アツテ如此ヤ重長復告テ曰前罪至テ重シ臍ヲ噛ニ由ナシ今ヤ援兵ヲ賜テ忠朝ヲ亡スヿヲ得ハ誓テ日月ト共ニ永ク叛カン（誓ヲ献ス）公曰彼忠朝ト和シテ亂ヲナス若シ其言信アラハ一擧シテ二仇ヲ除クナリ佐多讃岐守久信ヲ將トシテ重長ヲ助ク重長大ニ歡ヒ復永利城ヲカコム忠朝援兵ヲ諸所ニ求ム於是求摩（相良眞幸ニ北原氏是ヲ領ス此片初テソ前編）

ムク河邊（大太郎）ノ援兵至ル（八月廿九日）重長久信以ヲ久豐公ニ聞ス公躬大兵ヲ督シ三方ノ援兵ヲ破ル忠朝城ヲ棄テ走テ隈城ヲ保ツ（後ニ降ルヿハ應永二十八年ニ在）公凱旋スコレヨリ重長奉仕シテ忠ヲツクス

○先是薩州揖宿ヲ奈良美作守ニ賜フ（按ニ揖宿ハ忠久公就封ノ日揖宿五郎忠光領ス元久公ノ片阿多加賀守ニ賜フ久豐公ニ至リテ奈良氏ニ賜フ）奈良氏治政ノ道ヲシラス驕縱シテ百姓ヲ荼毒ス衆其愛ニ堪ス叛シテ奈良氏ヲ逐フ揖宿大ニ亂ル久豐公往テ征ス賊城ニ據テ固ク守ル公衆ヲハゲマシテコレヲ拔ク（傳云公ノ軍酒匂主計等死ス）公曰奈良氏罪アリトイヘ片勇功愛スベシ召シ侍臣タラシム（傳云公日州ヲ征セントス故ニ勇士ヲ募ル奈良氏兄弟アリ共ニ勇武ヲ以テ世ニ鳴ル於是召ス兄ハ罪ヲ恥テ執ス穎娃ニ走ル弟近侍ス）

二十七年庚子

○穎娃某穎娃城ニ據テ叛ス（按ニ忠久公ノ片河邊平次郎道房カ次子三郎忠長穎娃ヲ領ス因テ氏トス其子太郎忠方一女アリテ男子ナシ益山太郎兼純カ子忠純ヲ養ヒ女ヲ妻セテ穎娃ヲ讓ル其後次郎左衛門尉久純貞久公ニ仕フ元久公ノ片太郎兼純反ス公是ヲ征シテ久豐公ヲ封ス公此ニ移ル故ニ南殿ト稱ス應永十年公日州ニ移ルノトキ先亡フ穎娃氏ノ族小牧氏ニ賜フ又穎娃ヲ以テ氏トス）久豐公師ヲヒキヒテコレヲ討ス穎娃戰敗レテ逃亡ス於是肝付兼政（二郎三郎後ニ美作守ト稱ス河内守兼元カ次男ナリ）ヲ穎娃ニ封ス因テ穎娃ヲ以氏トス（穎娃氏傳云此時久豐公兼政ヲ以猶子トシ藤原氏ヲ賜ヒ三男ニ準ス兼政辞ノ伴姓ヲ冒ス子孫ニ至テ山川ヲ領ス蟻久公ノ片左馬頭初メテ久字ヲ賜ヒテ久政ト稱ス光久公ノ片國老ニ任スコレヨリ世々久字ヲ賜フ近世左宗久周後内膳ト稱ス懸豐公宗信公ニ仕テ國老タリ或云小牧氏ハ久豐公日州ニアルノ日近侍シテ忠ヲ盡ス故ニ穎娃ニ封セラル按ニ諸家州ニ移ルハ應永十年ナリ小牧氏ヲ擊ハ今年ナリ其說攻メスン破ル）久豐公日州ニ趣クノ日穎娃ヲ兼政ニ封スト云大ニ非

○公別府ヲ征ス別府氏降ル、公其家老田中周防宮原兵庫ヲ召テ曰別府弱冠ニ滿タス汝等謹テ是ヲ輔ケヨ彼ヲシテ鹿兒島ニ在テ我ニ事ヘシメハ女ヲ以テコレニ妻セン二人謹テ命ヲ奉ス（傳云別府氏是ヨリ鹿兒島ニ在リテ公ニ仕フ後ニ公佐多親久ノ女チャシナヒテ子トシ別府氏ニ娶ス）公知覽ニ赴ク今給黎長門守久俊伊集院頼久ニ因テ降ル（傳云公久俊カ罪ヲ數テ降ルヲ聽カス頼久固請テ發可ク）公上木場城ニ入リ久俊ヲ長里（知覽ニ屬ス）ニ封ス（按ニ久俊是ヨリ叛カス三子アリ長ハ久盛ト云）其子孫宮入氏ノ臣トシ鹿籠ニ任ス次ヲ久昌ト云其孫右衛門兵衛尉久道後ニ下野入道碧笑ト稱ス其子下野守久次入道抱節義久公ニ仕テ國老タリ其裔今ノ伊膳久卿コレナリ久昌ノ弟ヲ久綱ト云其孫肥前守春入道元巢義弘公ニ仕テ國老ニ任ストモニ伊集院氏ニ復ス）知覽院ハ佐多氏ノ本望タルヲ以テ（將軍尊氏佐多氏ノ祖忠光ヲ知覽院ニ封ス）伯耆守親久（佐多氏四世）ヲ上木場城ニ封ス山田小野（十八町）大寺美作守ニ賜フ（コレヨリ大寺氏山田ニ移ル）阿多鮫島モ風ヲ聽テ降ル

○犬太郎久林ノ家臣等　久豐公ノ威風靡然トシテ南方ヲ偃スヲ見テ大ニ恐怖シ和ヲ請ヒ城河邊ヲ棄テ久林ヲ奉シテ山門院ニ遁ル（後肥前國高來郡ニ居ル又日州眞幸院德溝城ニ居ス忠國公ノタメニ誅セラル事ハ永享二年ニアリ）南方初テ定ル久豐公河邊ニ入リ坊泊ヲ巡テ歸ル

○北鄕中務少輔知久　公ニツケテ曰世子　貴久公（又三郎ト稱ス）イマタ夫人ナシ新納忠臣女アリ貞淑婉容以テ世子ニ配スヘシ　公可ス宮室ヲ造テ女ヲ迎ントス爭亂中スミヤカニ功ナシ是於忠臣世子ヲ中城（志布志ニアリ）ニ迎テ婚禮ヲ行フ

二十八年辛丑

○島津山城守忠朝隈城ヲ保ツ（初永利ヨリ遁レテコレヲ保ツ前ニ出ツ）久豐公南方ノ亂ニ由テ是ヲ征セス去年亂少ク息ニ由テ　貴久公ニ命シテコレヲウタシム忠朝　貴久公ニ告テ曰罪ヲ　公ニ獲タリ城ヲ枕ニシ死セハ祭祀ヲ斷ツテ益ナシ又出テ他州ニ走ラハ宗室ノ名聲ヲ傷ラン願クハ赦ヲ得テ一匹夫トナリ生ヲ終テ足ラン　貴久公コレヲ　久豐公ニック（公時ニ伊集院ニアリ）平田左馬介重宗固ク請テ曰忠朝叛タリトイヘトモ正シク　公ノ親戚ナリ彼今勢ツクルニ及テ猶家聲ヲ思フテ他邦ニ走ラス其志憐ムニ足レリ願クハ其請ヲイレヨ　公コレヲ許ス忠朝出テ降ル（八月第四）居ヲ鹿兒島和泉崎（佐多氏ニ賜ル）ニ賜フ又湯沐ノ邑ヲ封ス（是ヲ島飼所ト云）忠朝除髮シテ道聖ト稱シ其子彥三郎伊忠ト共ニ和泉崎ニ居ス（按ニ道聖ノ長子三郎左衛門尉忠氏肥後國ニ走ル其子彥次郎忠成相馬氏ヲ冒ス子孫北鄕氏ノ臣トナリ都城ニ居ス）

二十九年壬寅

○貴久公又軍ヲ興シテ木牟禮城（出水）ヲ攻ム判官守久援ヲ肥後國天草ニ求ム援兵至ラザルニ城先陷ル守久肥後國ニ走ル久シカラスシテ卒ス於是山門院ヲ相良近江守前續ニ賜フ（按ニ相良氏ハ世々我國ノ仇ナリ是ヨリ先キ服從スル乎）

○伊作大隅守勝久（初四郎左衛門）肥後國ニ走ル初勝久　貴久公ニ屬シ山門院ニアリ父久義兒安鶴丸（後四郎左衛門教久ト稱ス）伊作ニアリ久義ノ弟遠江守十忠（按ニ下野守忠親ノ六男ナリ又久義ノ女ヲ娶ル）爲レ人殘忍刻剝貪テ厭クヲナシ久義ヲ弑シ勝久ヲ追ヒ伊作ヲ奪ントヲ謀ルヒソカニ　久豐公ニ告ス　公固ヨリ勝久ヲ惡ムユヘニ是ヲ許ス於是十忠久義ヲ弑シ又安鶴丸ヲ殺サントス伊作信濃守等安鶴丸ヲ奉シテ內城ヲ保ツ新納近江守忠臣（勝久ノ甥）北鄕中務少輔知久樺山安藝守教宗（共ニ伊作家ノ親戚ナリ）變ヲ聞

キ輕騎ヲ驅テ伊作ニ至ル十忠曰是我私ニアラス　久豐公ノ命ナリ忠臣等處ヲシラス空シ
歸ル伊作家臣等安鶴丸ヲ奉ノ市來ニ走ル（傳云市來備後守家親ハ伊作氏ノ親戚也故ニ家親人遣シテ安鶴丸ヲ召フ）貴久公出水ニ在テ變
ヲ聞キ勝久ニ告テ曰吾既ニ汝ニ親シ（按ニ貴久公勝久ノ女ヲ愛ノ妾トス亦公ノ夫人ハ勝久ノ甥知納忠臣ノ女ナリ）難ヲ援ハント欲ス然ル
讒佞朝ニ滿テ父君ニ惡スシバラク他邦ニ走テ害ヲサケヨ勝久即チ肥前國ニ走ル（傳云山田孫五郎是ニ從テ走ル）十忠スデニ志ヲ得テ伊作ニ走ランヲ欲ス　久豐公曰彼レ富貴ヲ貪リ兄ヲ弑シ甥ヲ
追フ人倫ノ道ニアラス十忠大ニ恐怖シ伊作ヲ去テ知覽ニ遁レ上木場ニ匿ル於是　久豐公
伊作ヲ安鶴丸ニ賜フ然ルに幼キヲ以テ伊作美濃守伊作城ヲ守（安鶴丸猶市來ニ在）

三十年癸卯

○此時國中大半平治ス（傳云薩州ノ賊未服處ハ澁谷カ黨ノミ然ルに入來院氏降リ高城邪答院モ亦降ル於是三氏胥謀シテ東郷小河ヲ攻撃フ）久豐公吉利某（伊集院頼久カ族）ヲ召
テ曰國中ノ平ナル實ニ伊集院頼久カ降ルニ因テナリ只ニ讒佞ノ徒間テンヲ恐ル吾聞
ク頼久女有ト召テ妾トセハ長ク相親テ讒者ノ憂ナカルヘシ汝是ヲ謀レ吉利即頼久ニ告ク
頼久大ニヨロコヒ女ヲ獻ス（後ニ一男ヲ生ム出羽守有盛ナリ）於是石谷及ヒ河邊ヲ賜フ頼久其子初犬千
代ヲ元服シ大隅守照久ト名ツケ伊集院ヲ讓リ已ハ河邊ニ移リ薙髮シテ道應ト稱ス（此片道應道力明神ヲ河邊ニ立フ今猶アリ）

三十一年甲辰

○先是（應永十九年）久豐公伊東大和守祐安ト日州ニ戰テ利アラス地ヲ失フ數十里ニヘニコレヲ

報ヒンヲ謀ドイヘ内亂ニ由テ果タサス今年大軍ヲ卒シ日州油津ニ軍ス（傳云佐多伯耆守親久平田右馬介重宗伊地知久安大寺美作守奈良牧鹿屋和田高木從フ）三俣眞幸ノ軍先登シ緒木肥田木ト戰ヒスヽンテ抽木崎紙屋ヲ取ル伊
東祐安海江田（本城ト云）峠ノ二城ヲ以藩籬トス故ニ親戚伊東安藝守ヲシテ海江田ヲ守ラシム公
油津ヨリ航シ鵜戸崎宮之浦小内海ヲ巡テ内海ヘ至リ明日峠城ヲ攻ントス賊夜ニ乘シテ遁
ル於是軍ヲ分テ海江田ヲ攻ム一ハ七浦ヲ航シ一ハ折迫ノ海濱ヲ巡テ曾根山ニ登リ（傳云久豐公十二月爰ニ至ル）進テ海江田ヲカコム（正月中旬）守將伊東安藝守飫肥佐渡守ニ因テ降ヲ乞フ　公聽カス時
ニ伊東祐安二千餘軍ヲ卒シ曾井清武ヲ發シ隈野川ヲ隔ヽミ來ル　公佐多伯耆守親久ヲシ
テ城ヲ攻シメ親ラ川ニノゾミ陣ヲ張テ敵ヲ待ツ（傳云此片伊地知久安鹿屋某ト謀テ曰敵二千人ニアマレリ川ヲワタリ挑戰フ必セリ城中又強兵多シ賊ハ危カラン　公曰佐多親久城ヲ攻ム賊出ル能念トスルニタラス敵來ラハ我必コレヲ破ラン汝等畏ルヿナカレ衆猶危アム）賊川ヲ隔テ戰ヲ挑ム日暮レ悉ク退キ去ル城中
力ツキ降ヲ乞テ止マス是ヲ許ス安藝守城ヲ下リ都於郡ニ遁ル　公城廓ヲ修築シ　貴久公
ト代ル〳〵爰ニ在テ伊東氏ヲ謀ル於是川南川北復靡然トシテ公ニ屬ス（傳云和田高木師ヲヒキヒ田野ヲ徇フ奈良氏軍ヲ監ス營ヲ川路ニ築テ守ル土持兼綱降ル○按ニ土持氏ハ往昔日向國押領使タリ土持冠者宣綱頼朝公ニ仕フ世々縣城主タリ縣今攻テ延岡ト云敗世ノ後土持彈正義久公ノ麾下ニ屬シテ功アリ久字ヲ賜テ久綱ト稱ス大友氏ノタメニ縣城ヲ陷ラル傳云義久公前功ヲ懸ノ縣ヲ復ノ久綱ニ賜フ天中正秀吉征西ノ日土持氏除セラレ來テ我國ニ臣タリ）

○豐後國太守大友氏僧ヲ遣ハシテ　久豐公ニ說テ曰庶幾クハ伊東氏ト和平シテ共ニ太平ヲ
樂マハ豐善カラスヤ於是伊東祐安海江田城ニ來リ　貴久公ニ謁シ（久豐公ハ鹿兒島ニアリ）和ヲ約シテカ
ヘルゴレヨリ日州ノ亂止ムユヘニ　久豐公京師ニ朝シ將軍義持公ニ謁セントス病ニ臥シ

テ果サス

三十二年乙巳

○春正月二十一日久豐公薨ス享年五十一義天存忠ト謚ス傳云公ヲ葬ルノ地ヲ詳ニセス或云谷山ノ田中林アリ島津森ト号ス是即公ヲ葬ルノ地ナリ或云穉佐護寺中古墳アリ石棺ヲ埋ムコレナリ二說據ナクシテ詳ナラス

謹按ニ　久豐公倜儻尙義多難ノ時ニ當リ寐ニ席ヲ安ンセス食ニ味フ甘ンセス深ク謀リ遠ク慮ル事變ニ臨ミ烈然トシテ高斷ス姦賊魂褫ワレ氣懼ル於是斯衆愼ヲ決シ檀々トシテ生氣アリ社稷ヲ安ンスル哉

西藩野史卷之六終

西藩野史卷之七

○忠國公

久豐公ノ長子母ハ伊東大和守祐安日州都於郡ノ主女ナリ應永十年癸未五月二日日州穆佐院高城ニ生ル私ニ云其地今榎ヲ植テ驗トス虎壽丸ト稱ス元服シテ又三郎貴久ト稱ス

應永三十二年乙巳

○春正月　久豐公ニ嗣テ立ツ修理太夫忠國ト改ム後ニ陸奥守ト稱ス

秋八月二十八日將軍義持足利尊氏四世使ヲ薩州ニツカハシ書ヲ齎ラシ告テ曰薩隅日三州守護ノ任恒例ニ從ヘ

○平田美濃守氏宗町田周防介胤久支久公ノ本田因幡守國親支久公ノ時ニ至ル林田肥前守經定忠昌公ノ時ニ至リ美濃守兼守忠昌公ノ時ニ至リ石井丹波守義忠支久公ノ時ニ至リ林田經房柏原永好伊地知久安共ニ字詳ナラス ヲ國老トス

永享二年己酉應永三十五年四月二十七日正長ト改元二年九月五日永享ト改元

○先是島津上總介久世師久公ノ世子太夫判官伊久公ノ子播磨守久ノ長子伏誅事ハ久豐公ノ傳應永二十四年ニ在リ永二十七年ニアリ山門院ニ來リ又去テ肥前國高木郡ニ居シ左兵衛尉久林ト稱ス又日州眞幸院德滿城加久藤ナリ ニ移居ス按ニ德滿ハ北原氏カ封内ナリ北原氏ニ據レルカ忠國公軍ヲ發シコレヲ討ス久林城中ニ自殺ス十一月十日年十八傳云久林ノ像ヲ刻シテ阿彌陀佛トシ馬關田平ニ立ツ爰ニ至テ師久公ノ嫡流斷フト号ス其裔碇山次右衛門コレナリ伊久ノ次子山城守忠朝ノ後都城ニアリテ相馬氏ヲ冒ス

嘉吉元年辛酉永享十三年二月十七日改テ嘉吉元年トス

○春三月十三日 忠國公義照僧正ヲ日州福島ニ誅ス僧正ハ將軍義教按ニ義教ハ將軍義滿第三ノ男也初僧トナリ天台座主ニ任シ義圓僧正ト号ス兄將軍義持薨シ其子將軍義量久シカラスメ薨ス依之ノ弟也僧ト成嵯峨大覺寺按ニ大覺寺ハ山城國葛野郡ニアリ嵯峨帝ノ故宮ナリ貞觀十還俗シ將軍ニ任ス嘉吉元年赤松滿祐カ爲ニ害セラル八年始テ寺トス後宇多帝僧トナルノ片此ニ居ス開山恒寂ハ淳和ノ子ナリ今寺領千六十石余倭漢三才圖會ニ千十六石余ト載タリ ニ居シ義照大僧正尊宥ト号ス性强悍ニシテ多欲ナリ潛ニ將軍ヲ弑シ代テ立ンヿヲ欲ス發覺シテ將軍極刑ニ行ハントス義照恐レテ其徒數人ト亡命シテ日州福島ニ至リ野邊氏ニ依リ將軍 忠國公ニ命シテコレヲ誅セシム依之樺山美濃守敎久四世山田出羽守忠尚後聖榮ト稱ス山田氏七世 新納近江守忠臣北鄕讃岐守持久北鄕氏五世以上四人一族ト云フ本田信濃守重恒國老命ヲ奉シ福島ニ至ル傳云牧鹿屋恒吉三氏コレニ從フ兼宥永德寺福島ニアリ ニ入テ自殺ス山田忠尚其首ヲウツ從者別垂讃岐防宥善坊官防キ戰フ衆コレヲ殺ス首ヲ京師ニ獻ス將軍親書ヲ作リ腹卷一領世太刀備前國宗作ヲ賜ヒ琉球國ヲ加封シテ其功ヲ賞ス敎久等モ又太刀ヲ給フ傳云此時樺山敎久ニ賜フモ亦國宗太刀ナリ永祿中義久公樺山安藝守善久隅州長濱ノ第ニ臨ムノ片是ヲケンス後ニ又賜フ近世主計久初ニ至テ又ケンス 後ニ寺ヲ府下猪木川邊ニ至テ按ニ永正五年二月忠治公立ツ或ハ永正二年二月或云明應六年四月二十一日立ツ 千壹山眞乘院大興寺眞言宗坊津ニ乘院末寺ト号シ僧正ノ靈ヲ祭ル傳云昔時琉球國貢稅ヲ文船(五色ヲ以テ彩ル)ニノセテ獻ス器物許多品ヲ大興寺ニ寄進セラル國老連列ノ畫今ニ存ス今ニ至テ琉球國ノ貢米十五石及ヒ三月十三日七月十四日祭祀米四石ヲ大興寺ニ賜フ宥善カ神主モ亦此寺ニアリ 又福島ニ怪異アリ邑人恐レテ僧正之靈ヲナストス有司眞久作守社ヲ立テ祭ル後ニ島津豐後守忠朝福島大宰タルノ時神社長從二位吉田兼俱ニ因テ神號ヲ請フ於是後土御門帝百四世勅ノ福島大明神ト

号ス

○冬十二月將軍義勝將軍義教長子嘉吉三年薨ス 忠國公ニ命シテ薩摩守持久忠國公ノ弟後用久ト稱ス 高木孫三郎世々三俣院高城ノ内高木邑ヲ食ム 市來太郎等ヲ誅セシム私ニ云其事詳カナラス越智通古カ記ニ高木孫三世逆意ニ由テ退治セラルト云ノミ按ニ今年六月廿四日赤松滿祐將軍義教ヲ弑ス故ニ群臣義勝ヲ立テ將軍トシ滿祐ヲ討シ黨與ヲ諸州ニ求テ誅ス三人モ亦其黨ニ與スル歟 忠國公師ヲヒキヒ日州梶山ヲ拔ク守將高木長門守是家左衛門尉德家父子誅ニ伏ス所謂孫三郎カ一族ナルヘシ

文安四年丁卯嘉吉四年二月五日改テ文安元年トス

○本田信濃守重恒隅州濱水ヲ領ス叛ス忠國公師ヲヒキヒ姫木城今ハ國分ニ風ス ニ至リコレヲウタントス重恒救ヲ稅所氏世々薩於郡ヲ領ス ニ求ム稅所氏本田ト會シ來テ姫木ヲ侵ス傳云東ノサス尾ヨリ金吾石ニ攻入ル公ノ軍笹峰ヨリ其横ヲウツテ今城カンヌキノ瀨戸ニ戰フ公突出シテコレヲ破ル出羽守有久公ノ第四ノ弟大島氏ノ祖源左衛門尉公ノ第五弟伯耆守豐久初源左衛門尉ト稱スルカ若クハ豐久ノ子源左衛門尉忠堯カツマビラカナラス豐久ハ義岡氏ノ祖也 力戰シテ傷ヲ得タリ 公ノ軍スヽンテ重恒ヲ殺ス傳云何侯太郎等頗名士數十人ヲ殺ス 公之軍死スルヿ者ナシ稅所遁レ去ル

寶德二年庚午文安六年七月二十八日改テ寶德元年トス

○春二月伊集院大隅守凞久組久ノ子伊集院氏七世叛ス 忠國公コレヲ討ス凞久軍ヲ敗シテ肥後國ニ走ル按ニ伊集院氏其祖圖書介文兼初テ封ヲ伊集院ニ受テヨリ爰ニ至テ七世凡百五十余年始テ除セラル 凞久カ妻ハ 忠國公ノ長女ナリ凞久出奔ノ後貞節

ヲ守リ髮ヲ削テ尼トナリ寺ヲ府下ニ立テ永正四年太平山大德寺ト號シテ居所トス卒ノ實峰妙惠大姉ト謚ス以開山トス

康正二年丙子寶德四年七月廿八日改テ享德元年トス四年七月二十五日改テ康正元年トス

○春三月二十四日伊東大和守氏祐祐安之子北原又五郎貴兼北原氏八世ト兵ヲ會シテ隅州ニ入リ廻敷根土井今國分ニ屬スヲ侵ス　忠國公輕騎ヲ驅テコレヲ逐フ正八幡之神宮等大ニ起テ賊ヲウツ氏祐貴兼狼狽シテ遁ル　忠國公軍ヲスヽメテ遁ルヲ追ヒ首千三百余級ヲ得テ歸ル

寛正三年庚辰康正三年九月廿八日改メテ長祿元年トス年十二月二十日又改メテ寛正元年トス

○市來筑前守久家叛ス世子立久公師ヲヒキヒテコレヲ討シ市來城ヲ拔ク久家逃亡ス市來氏ノ傳貞久公曆應三年ニアリ其先政房寶龜中初テ封ヲ市來ニ受テヨリ凡六百九十餘ニ至テ始メテ降セラル　於是寺ヲ市來ニ立テ法城山龍雲寺ト號ス予龍雲寺僧ニ問ク初田布施常珠寺吉田津友寺龍雲寺曹洞宗ノ三箇寺トス一宗事アレハ三寺コレヲ斷ス大事アレハ本山福昌寺ニ問ス後ニ南林妙谷興國ヲ以テ新寺三寺トス

應仁元年丁亥寛正七年二月廿八日改テ文正元年トス二年三月五日又改テ應仁元年トス

○初將軍義政將軍義教二男ナリ延德二年薨ス慈照院ト号ス　子ナシ弟僧義尋淨土宗ノ主タリヲ還俗セシメ義視ト稱ス約シテ云汝ヲ以子トシ立テ我後トセン異日子ヲ生セハ襁褓ノ中以テ僧トスベシ義視喜フ後ニ將軍ノ夫人裏松内大臣重政女男子ヲ生ム後義尚ト稱ス　夫人我子ヲ立ントスヒソカニ山名右衛門督持豐入道宗全按ニ山名氏其先源家ノ三男義國ノ孫山名小次郎義範ニ出ツ義範七代ノ孫伊豆守時氏元弘建武ノ乱ニ功アリ持豐ハ時氏五代ノ孫ナリ子孫アリ伊豆守豐明ト稱ス今東都ニワカヘテ御作事奉行タリ祿四百石ニ謀ル宗全以爲義

視立ツ片ハ細川勝元細川氏其先源義國ノ曾孫義實ノ次男細川次郎義季ニ出ツ義季ノ曾孫讃岐守頼春三男右京太夫頼元ノ孫右京太夫持之ト稱ス將軍義教ニワカヘテ管領タリ勝元ハ持之カ子也執柄タラン我力ヲ盡シテ義尚ヲ立テハ我ヲ用テ執柄トセン於是夫人ト謀リ義視ヲ廢セントス勝元其謀ヲ覺リ義視ト謀テ宗全ヲ滅サントス因循シテ京師ノ東西ニ軍シ勝元宗全兵ヲ搦フ是ヲ應仁之乱ト云相持ノ十一年勝元カ軍十六万人宗全カ軍十一万人ト云勝元檄ヲ馳テ世子立久公ヲ召フ又修理亮忠兼ヲ召フ年召ス　國中ノ乱ニ因テ往カス　初忠久公鎌倉ニ在テ射騎ヲ習フ遂ニ其奥ヲ得タリ世々相傳テ　忠國公ニ至ル是ヲ鎌倉流或御家流ト名付　公川上義久十郎左衛門尉ト稱ス川上氏五世上野介兼久第五ノ子也ニ是ヲ授ク義久心ヲ虛ニシテ是ヲ習フ又其願ヲ探ル子孫ニ傳テ世々　邦君ノ師タリ傳云文明中將軍義尚犬追物ヲ京師ニ行フノ比義久射手タリ將軍其妙手ヲ賞ノ諱字ヲ賜フ後道安ト号ス　立久公忠昌公ニ師タリ其子武藏經久　義久公義弘公久保公ニ師タリ相傳テ今ノ十郎左衛門親益ニ至ル

文明二年庚寅應仁三年四月二十八日改テ文明元年トス

○春正月二十日　忠國公薩州別府ニ薨ス享年六十八別府田間ニ葬ル加世田麓ノ東北ノ田ノ中也廟ヲ爰ニ立テ六角堂加世田杉本寺僧祭祀ノ業ル今祿四石ヲ寺ス大岳玄譽ト謚ス神主ヲ深固院傳應永元年ニアリ海卯寺白ニアリ東光杉本寺ニ寄セテ六角堂ノ祭祀ニ供ス　山ト云臨濟宗伊集院廣濟寺末寺延文二年ニ創立ニ立ツ愚管邑人ニ問ク曰公宋ニ征ント欲ス泊ノ鄕茅野邑ニ在テ順風ヲ待ツ終ニ此ニ薨ス遺命シテ別府田間ニ葬ル愚謂ク昔時坊泊久志秋目加世田鄕ニ屬スヱヘニ泊ニ薨スルヲ以テ別府ニ薨スルトスルハ可ナリ宋ニ征セントスルハ非ナルベシ　公何ノ故ヲ以テ宋國ニ征ンヤ　公始テ琉球國ニ封セラル若クハ琉球ニ征ントスルヲ誤レル歟

謹而按ニ　忠國公剛毅果斷乱ニ克ヲ威ヲ行フ射藝ヲヨク傳ヘ騎法固ク守ル歷世授シテ家聲頽スヿナシ

◎立久公

忠國公次子也長ハ一日先キ立テ生ル師藤丸ト稱ス側室(伊作大隅守勝久女)ニ生ルユヘニ家督タラス母ハ新納阿多高橋(今ハ田布施ニ屬ス)ヲ領シテ田布施ニ居ス後右馬頭相摸守ト稱ス相州家ト云

近江守忠臣新納氏六世女ナリ永享四年壬子十一月五日生ル安房丸ト稱ス元服シテ又三郎ト稱ス

寛正中　忠國公ニ代テ叛賊市來筑前守久家ヲ討ス事忠國公ノ傳ニアリ

文明二年庚寅

○春正月　忠國公ニ嗣テ立ツ島津薩摩守用久忠國公ノ弟出水郷ヲ領ス谷山郷ニ在テ叛ス　立久公師ヲ卒ヒテコレヲウツ用久力盡テ新納近江守忠治忠臣ノ子新紙氏四世ニ因テ降ル

○平田美濃守兼宗石井丹波守義忠本田三郎五郎宗親大寺彦左衛門入道幸朝ヲ國老トス伊作家ノ諸臣謀テ龜房丸ヲ立テ伊作氏ヲ嗣シム先是伊作犬安丸伊作氏六世四郎左衛門尉教久ノ子也早世シテ長祿二年十二日卒スヨリハ勝久公ノ傳ニアリ嗣ナシ伊作家ノ臣等　立久公ニ告テ曰舍弟龜房丸ヲ以テ犬安丸ノ後ヲ嗣シメ其妹ヲ以コレニ配セン公聽カス諸臣猶請テ止マス遊戯ヲ城外ニ催シ衆ヲ聚メテコレヲ覽セシム龜房丸ノ山ヲ見ルヲ待テ奪テ伊作ニ歸リ立テ君トシ又五郎久俊ト稱ス後式部太輔河内守久逸ト稱ス於是召テ日州福島院ニ封シ以テ藩屏トス

六年甲午

○夏四月朔日立久公薨ス享年四十三龍雲寺ニ市來葬ル節山玄忠ト諡ス

謹而按ニ　立久公躬天經ヲ奉ゾ叛ヲ討シ彝倫ヲ篤クシ社稷ヲ安ンス君德愨ルヿナシ

西藩野史卷之七終

西藩野史卷之八

◎忠昌公

立久公ノ子母ハ梶原三郎太郎弘純其先平三景時カ子景高ニ出ツ忠久公ニ從テ薩州ニ入ル弘純カ族備前守景豐立久公忠昌公ニ仕ヘテ國老タリ梶原氏始ハ日置ニ居ス後谷山宇宿邑ニ移ル妙現ヲ鎌倉ヨリ頁ヒ來テ宇宿ニ祀ル子孫落魄ノ士民タリ居所ヲ号シテ梶原門ト云フ光久公ノ比平左衛門(父ヲ平三郎ト稱ス)ヲ召テ士トス子孫有リ女ナリ寛正四癸未年五月三日生ル又三郎ト稱ス

文明六年甲午

○春正月十一日元服ス年十二修理進ト稱ス

○夏四月　立久公ニ繼テ立チ陸奥守ニ任ス

○本田因幡守兼親伊地知周防守重貞鳥取播磨守政義桑波田讃岐守景元入道觀魚伊地知縫殿介重周肝付越前守兼演入道次安池袋越後守宗政土持伊豆守政綱梶原備前守景豐本田刑部少輔千親忠豪姓字詳ナラス或云末弘伯耆守歟職宗姓字詳ナラス平田氏歟平田右馬介經重村田肥前守經安忠昌公ノ比ニ至ル村田越前守武秀飫肥伊豆守名詳ナラス鳥取孫左衛門尉名詳ナラス義治姓字詳ナラス或云石井氏歟末弘伯耆守實名詳ナラス勝久公ノ比ニ至ル本田次郎左衛門親尚勝久公ノ比ニ至ル後島津貴久ガ臣トナルヲ國老トス

八年丙申

○隅州向島或ハ櫻島ト名ツク火アリ烟煙鬻鬻シテ灰砂飛ンテ隣國ニ降ル私曰島陰漁唱ニ出

傳曰向島ハ元明帝女帝諱ハ日本根子天津御代豐國成姫ト稱ス天智帝第四ノ皇女也天武帝ノ子草壁親王ノ妃天武帝ノ御世文武崩ノ後位ニツク人王四十三世和銅二己酉年地

中ヨリ出ッ（愚未正史實録ヲ見ストイヘ𪜈住ニ稱ス處ヲ取テシバラク參考ニ備フ又理ナキニ非ス既ニ羅山先生富士山ノ生スルヲ理アリトス載テ集中ニアリ又讃セス續日本紀云廢帝寶字八年十二月似雷非雷時當大隅薩摩境烟雲晦冥七日之後天晴於ニ鹿兒島眉爾村之海一沙石自聚化成ニ三島一炎氣如ニ冶鑄形勢一相連似ニ四阿之屋一爲レ島被埋著民屋六十二區口八十余人愚按ニ是即向島ノ正說據トスルニ足ル）拾遺倭歌集ニ云大隅守櫻島ノ忠信カ國ニ侍ケル片郡ノ司カシラ白頭ノ侍メルヲ召カヘントシ侍ルニケル片翁ノ讃侍ル

老ハテヽ雪ノ山ヲハ。イタヾケト。霜ト見ルニソ。身ハヒヘニケル。

此歌ニヨリテユルサレケルトイヘリ又清輔カ奥儀抄ニモノセタリ國ノハテニモカヽル歌讃ケン人モアリ又誠ヨリ出ル歌ハ人ヲ感セシメ過アルモユルサレケルトイヘリ櫻島歌ハ向島トイフ四方ヨリ臨ムニ其方ニ向ヘルガ如シ故ニ稱ス巢松老人カ乱道集ニモ向島一タビ歌集ニ入シヨリ以來櫻島ト云ト見得タリ大名（オヽナ）寄ニ櫻島ヲ題ニシテヨメル

秋ヿノヒカリヲハナト月ヤスム島ハ櫻ノ名ニ立レトモ（按ニ樋口從三位康熙朝臣ノ賦スル處ナリ薩摩八景之其中ニノ櫻島秋月ト題）

又桂庵カ櫻島ヲ賦スル詩云

万頃蒼波白鳥濱。中流向島一由旬。蓬窓穩座回首見。恰是廬山面目眞。

又僧安巢松カ詩云

山名櫻島海之涯。万朶如雲又似霞。日暮春風吹作雪。此花亦稱不香花。

十五年癸卯

○税所新助（世々隅州曾於郡ヲ食ム）隅州帖佐城ヲ襲フ城主島津修理亮忠廉突出シテコレヲウチ破ル新助敗走ス忠廉奇計ヲ運シテ其歸路ヲ斷ッ新助勢窮テ降ル忠廉ス、ンテ曾於郡ヲ取（按ニ税所氏上古ヨリ曾於郡ヲ領ス爰ニ至テ初テ落魄ス子孫アリ税所氏傳貞久公ノ文和元年ニアリ）

十六年甲辰

○伊作河内守久逸（日州島ノ主）新納近江守忠續（日州飫肥ノ主）ト善カラス遂ニ兵ヲ擁フ久逸援ヲ伊東長門守（或作少進）祐國（祐安五世ノ孫ナリ日州曾於郡之主伊東氏之譜ヲ按スルニ祐國妹アリ）ニ求ム祐國安國寺ニ軍シ久逸ト力ヲアワセ、ンテ富ケ峯（飫肥ノ内）ニ戰フ忠續軍敗レ退テ飫肥城ヲ保ッ祐國久逸富ケ峯新山ヲ取ル忠續急ヲ忠昌公ニック　公即日州ニ趣ク久逸犬馬場ニ逆ヘ戰フ十一月四日　公ノ軍利アラス熊田原ニ戰フ十一月廿七日　又利アラス　公即逆谷（サカヤ）鎌ケ倉ニ出テ祐國ト戰フ出羽守久遠（出羽守有久初久遠ト稱スル歟）伯耆守豐久（久豐公節五子初忠豐ト稱ス二子アリ長ハ源左衛門尉忠堯ト稱ス三世右衛門尉忠光初テ志和地ヲ以テ氏トス其子忠重北郷氏ノ臣トナル子孫都城ニ居ス豐久ノ次子ヲ六郎三郎忠衡ト云四世藏人久延ニ至テ義久公諱字ヲ賜初テ義岡ト号ス四世右京久守其子彈正久中共ニ國老ニ任ス）新納忠續舊シテ功アリ祐國大兵ヲ驅テ大ニス、ム　公ノ軍又敗レ豐久戰死シ十二月廿二日　久遠傷ヲ得タリ公軍ヲ班ス

十七年乙巳

○春二月（或作十六年）高城東郷（共ニ澁谷氏）ノ二氏起テ薩州水引城ヲ陷ル入來院又五郎碇山ヲ陷ル於是澁谷氏ノ勢大ニ振フ島津修理亮忠廉（帖佐ノヽコレヲウタント欲シ軍ヲ卒シテ郡山ニ趣キ先川田城（世々川田氏領ス此ヲ澁谷ニ黨スルカ）川田飛彈守立昌（川田氏傳勝久公ノ傳天文二年ニアリ）援ヲ村田越前守ニ求ム村田伊集院ノ軍八百

余人ヲ卒シ上ノ原（郡山）ニ軍ス忠廉援ノ至ルヲ見テ去テ入來山ヲ越間牟田（澁谷氏祖カ）ヲ襲フ久富木又太郎遠見岡（コレヲ下山越ト云）ニ在リ大村太郎東尾ニ軍シ城ノ勢ヲ援ク忠廉ス、ンテ城ヲ攻ム久富木大村下リ戰フ忠廉悉クコレヲウチ破リ城ヲ拔ク守將班目右京進簑尾五郎左衛門命ヲ殞ス（有名ノ士三十余人ヲ斬）久富木大村敗走ス（二月十九日或云二十日）澁谷軍國援兵ヲ卒シ一木之郷（邪答院ノ内）ニ至ル忠廉亦ス、ンテ是ヲ敗ル澁谷退テ山田邑（東郷）ヲ保ツ忠廉追ヒ至テ戰フ時ニ加治木左衛門佐横川ノ軍ヲ率シ來テ忠廉ヲ襲フ澁谷勢ヲ得テ進ミ戰フ忠廉前後ニ當ルヿ能ハス帖佐ニ歸ル（三月二十日）初島津三郎太郎忠興（出水之主薩州也）忠廉カ澁谷氏ヲ攻ルヲ聞キ力ヲ戮セント欲シ師ヲヒキヒテ湯田高城（共ニ澁谷氏ノ領ナリコレヨリ薩州家ノ有トナル）ヲ陷ル又（三月十七日）進テ水引ヲ略ス（是日ヨリ世々薩州家領ス）爰ニ於テ忠廉カ師ヲ班スヲ聞ヒテ軍ヲヌ、メス

○夏六月忠昌公前時敗軍ノ恥ヲ雪カント欲シ軍ヲ率ヒテ日州逆谷ニ至リ亦進テ上時田ニ軍ス伊東祐國伊作久逸楠原大龍寺田間野頸ニ軍ス薩軍進ンテ長石ノ麓川原ニ戰フ　公壯年血氣方ニ剛シ前敗ニ憤激シ親兵ヲ取リ先登シテ敵ヲ敗ル薩軍奮ヒ戰フ一以テ十ニアタル終ニ祐國ヲ斬ル賊軍大ニ敗ル逃ルヲ追ヒ首三百三拾級ヲ得テ歸ル（傳云此ヒ新納駿河守北原長門守賊ニ黨ノ戰死ス其外有名ノ士多シ）死ス　此日伊東カ軍死スル者八百余人久逸モ又傷ヲ得テ福島ニ走ル　公軍ヲス、メテコレヲカコム（傳云六月二十二日逆谷ニ陣シ二十五日福島ヲ圍ム）久逸拒戰フヿ四日ニシテ降ル（六月二十九日）忠昌公ノ軍門ニ謁シ（七月二日）明日去テ薩州伊作ニ歸ル

○秋九月八日忠廉復ヒ師ヲヒキヒ牧峰（山崎）ニ軍ス、ンテ大村城（傳云十日大村ニ至リ十三日ヨリ攻ムヲ攻ム兵ヲ分テ中津川黑木ヲ燒ク澁谷八日餘軍ヲ率シ才尾峯ヲ越來テ忠廉ノ軍ヲ射ル日置肥前守茂來テ澁谷ヲ援フ忠廉氣ヲ屈セス邪答院ノ大河ヲ渡テ二十日戰フ利アラスシテ軍ヲ班ス

十八年丙午

○伊東大和守尹祐（祐國ノ子）父ノ讐ヲ報シヿヲ謀リ日州ニ寇シ山ノ口梶山勝岡ヲ掠取ル（一説明應四年トス或云野々美谷モ亦畧セラル按ニ傳云應永元年久豐公樺山美濃守音久ヲ野々谷ニ封シ大永元年ニ至テ樺山氏コヽニ在ト此ハ伊東氏ニ畧セラレ久シカラスシテ復スル乎）忠昌歟公其臠食（史記蘇秦傳云秦之攻韓魏世世無有名山大川之限脅食傳國而止）センヿヲ恐ルユヘニ智勇ノ人ヲ撰ンテ日州ヲ鎮メントス島津修理亮忠廉其撰ニアタル飫肥福島ヲ賜フ於是忠廉帖佐ヲ去テ飫肥ニ移リ（十月十九日）長子右馬介忠朝（後豐後守ト稱ス）ニ福島ヲ守ラシム（按ニ忠廉四世豐後守忠親ニ至リ八十三年ニシテ伊東義祐カタメニ飫肥福島ヲ奪ハル、ヿハ貴久公ノ傳ニ出ツ〇忠廉ノ父ヲ豐後守季久ト稱スユヘニ其一流ヲ豐州家ト云季久ハ久豐公ノ第三子ナリ文明九年八月卒ス桂道祖橋ト號ス季久隅州帖佐ヲ食ム忠廉ニ至テ飫肥ニ移ル忠國公ノ女ヲ配ス其孫次郎三郎忠廣北郷忠相ト號ス貴久公ヲ立フ其子豐後守忠親ニ至テ伊東氏カタメニ飫肥福島ヲ略ラル其子豐後守朝久義弘公ノ女ヲ配ス一男一女ヲ生ス女ハ薩州懸川城主松平隈岐守定行ニ嫁ス男ハ豐後久賀ト稱ス寛永十一年封ヲ黑木ニ移ク久賀四世内膳久兵國老ニ任ス其子藤次郎久智ハ綱貴公ノ女ヲ配ス其孫今内膳久兵コレナリ久賀ノ次子帶刀久元仕ヘテ國老ニ任ス其子帶刀伸休國老ニ任ス其孫清太夫久芳コレナリ）

長享元年丁未（文明十九年七月十九日改テ長享元年トス）

○修理亮忠廉京師ニ至リ將軍義植ニ謁シ士太夫ニ會シテ交ヲ厚フス忠廉平素倭歌ヲ嗜ム

宗祇法師（按ニ宗祇姓ハ飯尾氏紀州ノ人ナリ少ノ時ニ入リ薙髮ノ自然齋ト稱ス亦種玉庵ト号ス和歌ヲタシナム連歌ニ長ス京師ニ至リ勝區名山ヲ遊歷シ關東ニ至リ東ノ常陸ニ就テ古今集ノ奥旨ヲ得古今集ノ傳靈祇ヨリ始

マル世人祇ヲ稱シテ連歌ノ宗師トシ或ハ花ノ木ト云フ祇常ニ遊隱ヲ好テ定レル地ナシ四ハ九州ニ至リ東ハ奥州ヲ究ム越後國ニ止マル〇二年祇髮ヲ愛シ香ヲ以テ潔ス人ソノ故ヲ問フ對テ曰ク我髮ヲ愛スルニアラス香ヲ愛ス文龜二年箱根湯元ニ卒ス八十歲ニ著述ス盧竹林鈔新苑玖波集アリ世ニ行ハル〇按ニ東常縁平氏濃州人也其先胤頼志ヲ風雅ニ寄ス其子重胤婚家ノ好ニ因リ二條家和歌ノ秘要ヲ得タリ世々相繼テ常縁ニ至ル此ニ至テ歌道ヲ學フ者常縁ニ秘奥ヲ求メサルナシ是レヲ古今集傳トイフニ見ヘテ古今和歌集伊勢物語ノ奥旨ヲ傳ヘテ歸ル按ニ延隱三年八月六日忠隆摂州天王寺ニ卒ス

明應元年壬子　長亨三年七月廿五日改テ延德ト改元年トス四年七月十九日改テ明應元年トス

○冬十月十一日　伊作河内守久逸師ヲヒキヒテ別府即加世田ナリヲ侵シ尾守ケ城ヲ襲フ別府ノ軍出テ牟田ノ原ニ戰フ久逸ノ軍利アラス久逸過テ馬ヲ田中ニ陷ル園田新右衛門別府ノ人走スヽンテ久逸ヲ擊ツ久逸之甲冑園田氏ノ子孫今ニ藏ム久逸ノ墓ハ別府田中ニ在

三年甲寅

○島津豐後守忠朝修理亮忠厳ノ子日州飫肥福島ノ主　新納近江守忠武新納氏七世日州志布志ノ主ト善カラス兵ヲ搆フ其事不詳

○夏四月十八日　伊作氏ノ奴ユヘアリテ其主又四郎善久忠冥公ノ父ヲ殺ス

四年乙卯

○前將軍義村將軍義政ノ弟大納言義視ノ子ナリ義政位ヲ我子義尚ニ讓ル義尚二十五歲ニシテ薨ス子ナシユヘニ善村ヲ立ツ二年ニシテ河州ニ至リ畠山義豫ヲ討ス細川政元俄ニ反シテ義村ヲ捕フ澁村潛ニノガレテ防州ニ至ル大内義興コレヲ接待ス於是政元等前將軍義政ノ弟左兵衛督政知ノ子義澄ヲ以義政ノ子トシ立テ將軍トス義村名ヲ義尹ト改ム西州ノ諸侯ヲ率ヒ京師ヲ襲ヒ再ヒ將軍ニ任ス又義植ト改ム大永元年薨レテ濃州ニ走ル三年ニシテ阿州ニ薨ス於是義澄之子義晴立ツ　周防國ニアリ一色兵部少輔ヲ薩州ニ遣ハシ　忠昌公ノ援兵ヲ求ム　公隅州管於郡ニ在テコレニ見ユ一色命ヲ傳ヘテ歸ル

○平田右馬介兼宗隅州串良城按ニ串良ハ忠久公ノ片北原氏領ス後ニ眞幸ニ移ル正平中田代宗次郎領ス亦平田右馬介重宗領ス兼宗ニ至テ四世コヽニ主タリ　ニ據テ叛ス島津豐後守忠朝　忠昌公ノ命ヲ率シ師ヲ帥ヒテコレヲ討ス兼宗力究テ降ル按ニ平田氏其先平相國清盛子内大臣宗盛ノ第三子宗政ニ出ツ其裔薩州ニ臣トシ仕ヘ平田ヲ以氏トス新左衛門尉親宗氏久公ニツカヘテ國老ニ任ス其子右馬介重宗　元久公ノ國老タリ其子美濃守氏宗　忠國公ニツカヘテ亦國老ニ任ス其子兼宗ナリ亦國老タリ其孫美濃守昌宗其子美濃守光宗左近將監義宗其子太郎左衛門尉宗四世相繼テ國老ニ任ス增宗罪アリテ誅ニ伏ス事ハ　家久公ノ傳ニアリ爰ニ至テ嫡流斷ツ　忠昌公功ヲ賞シ串良ヲ忠朝ニ賜フ

忠朝平山城越後守忠康忠朝ノ叔父　ヲシテコレヲ守ラシム

五年丙辰

○於是去年六月二十八日夜　加治木大和守加治木ノ主　隅州帖佐城ヲ襲ヒ取ル傳云加治木ノ軍夜ニ乘シテ南城ニ乱入シ士人ノ第宅五十余ヲ奪フ川上筑前守忠直高尾城ニ在テ防禦ス三日ニシテ忠昌公大軍ヲ率ヒ帖佐ノ地頭トス　忠昌公軍ヲ率シ加治木城ヲ襲フ大和守力ツキテ降ル薩州阿多ニ封ス阿多ハ初相州友久ノ封内ダリユヘニ永正九年三月二十四日友久阿多城ヲ襲ヒ取ルコレヨリ加治木氏衰フ〇加治木氏其先後漢靈帝ノ孫阿智初テ本朝ニ來ル其家傳云寛弘中小野關白之諸子罪アリテ諸州ニ流サル其中經平大隅國ニ配セラル加治木ニアリ加治木ノ主大蔵太夫長死シテ子ナシ經平其妻ヲ娶テ男子ヲ生ム薩太夫經頼ト稱シ良長カ後ト成テ加治木ヲ領ス七世ニシテ加治木八郎親平　忠久公ノ片ニアタル十六世左衛門尉忠平元久公ニ從テ將軍ニ謁シ能登守ニ任ス二十余世ニ除セラル傳云經平加治木ニ在テ春日大明神ヲ立テ祭ルイマナヲ存ス

六年丁巳

○冬十月七日　忠昌公嚴考　忠國公ノ廟ヲ府下ニ立テ神トシ小城觀現ト号ス按ニ善聚院ヲ以別當寺トス善聚院ハ大岳山垂護寺ト云眞言宗大乘院ノ末寺ナリ

永正三年丙寅明應十年二月二十九日改テ文龜元年トス四年二月晦日改テ永正元年トス

○秋八月六日忠昌公肝付河内守兼久世々隅州肝付ヲ領ス高山本城ニ居ス叛ス　忠昌公是ヲ征ス兼久援ヲ新納近江守忠武ニ求ム忠武大軍ヲ卒シ來テ　公ヲ襲フ兼久又發出シテ夾ミ攻ム　公ノ軍大ニ敗ル

公軍ヲ收テ鹿兒島ニ歸ル

四年丁卯

○琉球國忠國公封ヲウクルヿノ新吉元年ニアリ　怠テ貢稅ヲ納レス　忠昌公怒ル琉球王恐怖シテ使天王寺ノ僧使タリ天王寺ハ琉球國ニアリヲ遣ハシテ罪ヲ謝ス使日州志布志ニ來ルト云　公又使ヲ安國寺僧使タリ安國寺ハ隅州加治木ニ在東永中足利尊氏立遣シテ是ニ答フ

五年戊辰

○時ニ國中賊徒大ニ蜂起シテ郡縣ヲ剽掠ス　忠昌公憤激シテ曰ク德コレヲ懷ルヿ能ハス力征スルヿ能ハス生テ時ニ益ナシ若シ泉下ノ鬼ト成リ賊ヲ滅サント二月十五夜滿水城中月前ニ嘯キ西行カ歌子ガハクハ花ノ下ニテ春シナンソノキサラキノ望月ノソラヲ高吟シ劍ヲ取テ自殺ス享年四十六圓室源鑒ト諡ス爲ニ寺ヲ建テ太平山興國寺ト号ス或云明應五年立ツ或云明應六年立ツ初今ノ大興寺ノ地ニアリ中比上山城邊ニ移ス又城北ニ移ス今寺祿二百石ヲ寄ス　先是山城國加茂ノ士奈良原助八來テ　忠國公ニ事フ　公非命ノ薨ヲ悲ミ自刄シテ殉死ス傳云福昌寺補樹ノ下ニ死ス年二十五

謹而按ニ　忠昌公雄節高氣アリ篤孝純至ニシテ廟ヲ立テ祭祀無究ニ傳フ變乱ノ時ニ値ヒ國家ノタメニ身ヲ顧ミス堅ヲ摧キ剛ヲ撓マス時運一ナラス命途舛ヒ易シ賊寇フカク侵シ雲ノ如ク會シ電ノ如ク發ス三軍振慄シテ功業未ル究感慨シテ泉下ニ入ル嗚呼時乎命乎於レ斯悵然タリ

○忠治公

忠昌公ノ長子母ハ大友豐前守政親（豐後ノ大守）ノ女ナリ（天眞妙幸ト諡ス廟紳主興國寺ニアリ）延德元年己酉正月十七日生ル安房丸ト稱ス文龜三年（年十五）元服シテ又三郎忠治ト稱ス

永正五年戊辰

○忠昌公ニ嗣テ立ツ此時賊徒猶國中ニ滿ツ　公討罰シテ須臾モ安居セス（事不詳）

十二年乙亥

○秋八月　忠治公薨ニ臥テ起ス清水城ニ薨ス（二十五日）享年二十七蘭窓津友ト諡ス津友寺（薩州吉田ニ在佛智山ト号ス應永二十年吉田氏立ツ了心寺ト号開山ハ石屋ノ弟子竹居ナリ傳云公ノ母ハ大友氏ナリユヘニ津友二字ヲ摘テ津友寺ト改ムコ葬ル）

謹而按ニ　忠治公雍容和協業ヲ嗣キ國ヲ保ツ促算亦命ナル哉

○忠隆公

忠昌公第二ノ子ナリ母ハ忠治公ニ同シ幼字百房丸後ニ又六郎ト稱ス

永正十二年乙亥

○忠治公薨ス嗣子ナシ因テ封ヲ襲ヲ立ツ

十三年丙子

○備中國蓮島ノ主三宅和泉守國秀琉球國ヲ取ラント欲シ艨艟十二艘ヲ艤シ薩州防津ニ來リ順風ヲ待ツ　忠隆公大ニ怒テ曰ク夫琉球ハ我屬國トシテ五世服從ス國秀恣ニ人ノ土地ヲ貪ル誅セスンハアルヘカラスト將軍義植公ニ告テ軍ヲ發シ蒙衝鬬艦ニ燥荻枯葉ヲ積ンテ風ニ從ヒ火ヲ發テ國秀カ船ヲ燒ク國秀前後顧ルヿ能ハス燒溺シテ一人モ遁ルヽモノナシ

十四年丁巳

○春二月薩州吉田城主吉田若狹守位清反ス　忠隆公親軍ヲ領シ吉田ヲカコミ攻ム（二月十二日）位清兵究リ力ツク降ヲ請ヒ城ヲ獻シ山門院ニ至リ島津三郎太郎忠興ニ寓セントス（按ニ位清ハ相摸守忠良公ハ姉ノ夫ナリ忠興ハ忠良公夫人ノ兄ナリユヘニ忠興ヲ賴乎）島津善左衛門尉（忠興ノ一族）兵ヲ半途松原（阿久根野田境）ニ伏セ其過ルヲ待テ殺ス（傳云位清ヲ神ニ崇ノ若宮ト号シ今ニ存ス）忠隆公守兵ヲ吉田ニ殘テ軍ヲ班ス（按ニ吉田ハ往古三位大藏ノ行忠數世領ス天仁三年執印行賢コレヲ領ス源爲重ニ讓ル爲重ハ鎮西八郎爲朝ノ次子ナリ爲重吉田ヲ外孫長太夫清道ニ讓ル清道ハ其先日本武尊ノ子息長王子ニ出ツユヘニ息長ヲ以テ姓トス清道カ子吉清親朝公ニ仕フ其子太郎守清其子太郎清弘其子二郎清高其子彦二郎清和其子二郎太夫清持其子

伊豆守氏清其子伊豆守清元其子若狭守清正　元久公ニ從ヒ京ニ到リ能登守ニ任ス　元久公逝去之時　久興公ニ忠アリ
鹿兒島郡下田六町ヲ加賜フソノ子二郎四郎能清其子尾州守泰清其子三河守泰清其子次郎四郎惟清後ニ若狭守ト稱ス位
清ニイタリテ吉田ヲ除セラル

十六年己卯

○忠隆公痘疹ヲ病ヒ四月四日薨ズ亨年二十三廐府竜盛院ニ葬リ盛竜興岳ト諡ス　按ニハ西峰山隆盛院ハ曹洞宗福昌寺ノ末寺ナリ永正十六年創立忠隆公逝去ニ由テ建立アル乎又伊作興源寺ニ伊作家ヨリ忠隆公ノ神主ヲ立テ祭

謹テ按ニ　忠隆公英達夙成ル外侮ヲフセキ國ヲ保チ叛賊ヲ征シテ民ヲ安ンス國ヲ亨ル

ヿ永カラス早ク館ヲ捐ツ哀哉

西藩野史卷之八終

西藩野史卷之九

○勝久公

忠昌公第三子ナリ母ハ　忠治公忠隆公ト同シ文龜三癸亥年八月十八日生ル幼字宮房丸元服シテ又八郎忠兼ト稱シ顯娃氏ノ後嗣ト成後ニ八郎左衛門尉ト改ム

永正十六年己卯

○忠隆公薨シテ嗣子ナシ繼テ立ツ

十七年庚辰

○秋八月　忠兼公隅州曾於郡城ヲ攻ム初永正十六年　伊集院尾張守曾於郡城ニ在テ謀叛ス　按ニ曾於郡ハ上古日リ税所氏領ス文明十五年島津修理亮忠廉コレヲ陷ル後ニ至テ三十八年何人ノ領スルヤ考ヘス　新納近江守忠武新納家七代　志布志ノ軍ヲ卒シ來テコレヲ援フ　忠兼公清水ニ至リ軍ヲ整ヘ進テ曾於郡ヲ攻ム二十二日　尾張守カッキテ降ル十一月二公守兵ヲ愛ニ置テ鹿兒島ニ歸ル　忠兼公桂樹院ノ僧玄章ヲ使トシテ京師ニ至ル於是修理太夫ニ任ス

大永三年癸未永正十八年八月二十三日改テ大永元年トス

○新納近江守忠武命ニ方ヒ逆ヲ謀ル ヿ久シテ公ノ軍ヲウケ同十七年伊集院尾張守カ叛ヲ助ク　按ニ明應六年　忠昌公高山ヲ攻ムルノヰ肝付氏ヲ救　忠兼公深クコレヲ憤リ伊地知吉田ヲ將トシ大軍ヲ發シ志布志ヲ攻ム忠武モ亦大軍ヲ卒シ日野布志ノ志ヲ逆ヘ戰フ二將兵ヲ指揮シテ挑戰フ忠武カ兵勢甚疾シ伊地知吉田カ軍利アラス七百

三十余人戰死ス二人餘兵ヲ收メテ鹿兒島ニカヘル

六年丙戌

○島津八郎左衛門尉實久其祖用久（久豐公ノ次男ナリ薩摩守ト稱ス故ニ薩州家ト云其子薩摩守國久其子薩摩守成久ハ日新公夫人ノ父ナリ其子三郎太郎忠與加世田ニ住ス大永五年卒スコレニ出ヒテ久家ヲ繼ク）封ヲ薩州出水ニ受ケシヨリ五世（按ニ出水ハ建久年間和泉小太夫兼保領ス兼保ハ伴姓肝付氏ノ支族ナリソノ子井口諸太郎兵衛尉保久其子太郎兵衛尉保忠其子諸太郎政保傳領其後貞久公ノ次弟豐後守忠氏出水ヲ領シ相傳テ五世又四郎直久應永二十四年河邊ニ戰死ス久豐公出水ヲ用久ニ賜フ七世傳領ノ又太郎忠辰ニ至リ沒收セラル）數邑幷セ領シ谷山河邊加世田高尾野阿久根高城水引等ナリ支族繁榮シ用久ノ二男下野守延久河邊ヲ領太田氏ノ祖ナリ其子下野守昌久家嫡成久ト善カラス河邊ヲ忠昌公ニ獻ス更ニ南郷ヲ賜フ大永六年結佐ヲ賜ヒ明年反ヲ謀テ忠良公ニ亡サル國久ノ二男駿河守忠綱加世田ニ地頭タリ大野氏ノ祖ナリ同三男伊勢守秀久吉利氏ノ祖ナリ薩州吉利ヲ領ス五世下總忠張ニ至テ日州鹽見ヲ賜フ同五男越後守光久ハ寺山氏ノ祖ナリ）貴賤ノ世臣ナリ忠兼公實久カ姉ヲ立テ夫人トス實久性猖獗寵ニ夸リ權ニ專ル忠兼公政治怠ルアルヲ見テ終ニ謀叛ス國內彼ニ黨シテ大ニ亂ル公征伐ニ術ナキヲ憾ム時ニ相摸守忠良公相州（按ニ忠國公ノ長子相摸守友久ハ側室ニ生ス故ニ封ヲ與カス田布施岡多高橋ヲ賜テ田布施ニ居ス卒ノ田布施常珠寺ニ（福昌寺末寺大平山ト云應永十八年仲翁和尚建立）葬ル其子相摸守運久初三郎左衛門尉忠幸ト稱ス除髮ノ一瓢ト号ス卒ノ阿多大年寺（千手山ト云常珠寺ノ末寺ナリ天文八年建立）ニ葬ル子ナシ運久ニ忠良公ヲ養テ子トス○東武麾下ノ士島津主馬其家傳云其先島津相摸守運久ニ出ル運久ノ子僧トナリ長德軒ト云遷化ノ相州小田原ニ居シ還俗後藤氏ヲ冒ス世々以氏トス　光久公ノ記其系圖ヲ持來テ島津氏ヲ冒サンコトヲ乞フ我邦君之記ニ載セスト雖其乞ヲ許スコレヲ後藤島津ト云○野間氏傳云野間ノ女一瓢ニ仕テ幸セラル室ヲ一瓢ノ側邊ニ築テ居ラシムコレヲ麾室ト稱ス男子ヲ生ス長シテ蠶坊ト成テ爲阿彌ト稱ス後ニ母ノ姓ヲ冒シ名ヲ賜フテ野間善麿ト云フ其裔今ノ野間孫右衛門コレナリ）伊作之両家ヲ兼嗣テ（按ニ伊作家其先久經公ノ次子大隅守久長ニ出ツ久長初三郎左衛門尉下野守忠長ト稱ス久經公ノ譲ヲ受ケ信濃大田庄ヲ領ス亦薩州伊作ヲ領シコトニ居シ伊作ヲ以氏トス久經公ニ從テ筑前國箱崎津ヲ領ス弘安七年ヨリ嘉吉三年ニ至リ二十四年箱崎ニアリ將軍尊氏ヲ仕テ功アリ卒ノ伊作多賀寺ニ葬ル（佛母山多賀寺臨濟宗伊集院廣濟寺末寺ナリ）其子左京亮久清後大隅守宗久ト云其子下野守忠親共ニ尊氏ニ仕ノ忠親弟ヲ三郎左衛門尉久氏ト云尊氏ニ近侍ス貞和三年尊氏諸將ヲ攝州天王寺ニ遣ハシテ楠正行ヲ攻ル久氏其中ニアリ洛陽東寺ヲ出ントスルヲ尊氏屬ニ歌ヲ書テ久氏ニ賜フ蘭ノ絵アリ歌ニ云ツノ國ヨリ御代ハ治リテ日出度ヲ白菊ノ花是ヲ本國ノ兄ニ送テ九月十一日天王寺ニテ戰死ス子アリ竹藤丸ト云將軍家ニ仕フ信州神代郷ニ居ス其後ヲ知ラス忠親ノ子ヲ大隅守久義ト云弟遠江守十忠カタメニ殺サル其子四郎左衛門尉教久其子犬安丸長安二年伊集院讃方明神祭禮頭殿（按ニ頭殿居頭役ハ忠國公ノ牛ニ始マル頭殿トハ公卿藏人頭ニテ勅使ノ意ナリ居頭ハ頭殿寄頭ニシテ祭ノ頭ニ居ルノ意ナリ是ハ上便ヲ表ス七月頭屋ノ儀式ハ勅使會釋ノ体也祭日頭殿ノ祭ハ天下ノ祈禱居頭ノ祭ハ國ノ祈禱ナリ氏親カ永享十年ノ記ニ云鹿兒島諏方大明神祭禮陸奥守貴久御代頭殿居頭始マルト云故ニ世人多クハ大中公ニ始マルト思ヘリ永享十年ハ大中公誕生ヨリ六十七年以前ナリ是ハ忠國公初貴久公ト号ス故ニ是ヲ以大中公ト誤ルナルベシ）ト成テ十二月四日十六歲ニシテ頓死ス妹アリ伊作家ノ諸臣忠國公ノ三男越房丸ニ妻セテ犬安丸ノ嗣トス後ニ式部太夫久逸ト稱ス又河內守ト改ム立久公日州福島ヲ賜テ移居ス文明年間新納近江守忠續トヨカラス闘戰ニ及フ忠昌公忠續ヲスクフ久逸降ヲ乞テ伊作ニ叛ル明應元年加世田ニ卒ス久逸ノ子又四郎善久始日州福島ノ主新納駿河守是久（武蔵忠元之高祖父）ノ養子トナル其女ヲ妻トス（常盤殿ト稱ス卒テ伊作西福寺ニ葬ル）後ニ辞シテ伊作ニ叛ル夫人貞節ヲ守テ伊作ニ從行善久明應三年奴僕ノ爲ニ殺セラル其子卽忠良公ナリ明應元年九月二十三日伊作ノ城ニ生ル三歲ニシテ父ヲ襲シ祖父ニ養レ七歲ニシテ伊作海藏院（如意山願成就寺ト云眞言宗大乘院末寺）ニ登學ニ就キ九歲ニシテ久逸戰死十五歲ニシテ伊作城ニ叛ル時ニ相摸守運久ノ夫人ハ島津筑後守女ナリ運久コレヲ惡ンテ去ラシムヲ欲スト雖夫人能事ヘテ禮ヲ欠ス運久去ルニ由ナシヒソカニ家士ニ謀テ高橋ノ甥師ニ留シム僕從舟ヲ艤シテ海上ノ遊ヲ能ス夫人サトラスシテ舟ニノル棹ノ市來濱ニ來リ薩摩山ノ堂ニ誘ヒ火ヲ放テ六人ノ婢ト共ニヤク運久常盤殿ノ美ナルヲヲ聞キ迎ヘテ夫人トセント云夫人聽カス運久カタク乞テ止マス於是答テ云忠良公ヲ以テ運久ノ嗣子トセハ命ニ從ハン運久大ニ喜テ云我未嗣子ナシモトヨリ希フ處ナリト書ヲ送ル常盤殿猶聽カス相州家諸臣ノ暫書ヲ求ム婁成テ運久ニ嫁ス忠良公田布施ニ長ス天文八年運久逝ス忠良公相州伊作ノ西家ヲ繼テ阿多高橋布施伊作ヲ井セ領シ田布施城ニ居ス學ヲ好ミ道ヲ守リ政治ニ仁厚ニシテ民其德ニ懷ク忠兼公以爲今ヤ此亂ヲ清メンヿ此人ニアラズンバ能ハシト本田次郎左衛門尉親尚ヲ田布施ニ遣シ忠良公ニ說テ曰我往ニ佞奸ノ徒ニ誤ラレ政人臨ニ背クヨヘニ今此禍ヲ招ケリ庶幾ハ我ニ代テ賊ヲ討シ民ヲ安セヨ足下ニ加ヘ封スルニ薩州南ヲ以

セン忠良公諸ス南郷城主桑波田孫六（按ニ孫六カ先桑波田万拔房覺辨南郷ヲ領ノヨリ世々傳領ス覺辨ハ建久八年内裏大番ノ解狀ニ見ヘタリ孫六カ裔今宮城ニ在テ勘左衛門ト云フ）忠兼公ノ命ニ應シ南郷ヲ忠良公ニ獻ス　公卽孫六ニ命シテコレヲ守ラシム孫六コレヨリ忠良公ノ麾下ニ屬ス

○冬十一月忠兼公伊集院ニ至リ島津下野守昌久（昌久ノ妻ハ忠久公姉也）ヲ使トシ日置ヲ忠良公ニ給フ（傳云日置ハ文治頃重純地頭建久ノ頃日置兵衛太郎頼純其後小野太郎家綱頼朝公ヨリ日置ヲ賜テ來征ス世々傳領ス應永ノ頃伊集院長門守忠國ノ三男日置美作守久彩領ス山田家ノ記ヲ按スルニ忠久公ノ庄式部太輔始テ薩州ニ來リ山田ニ住ヲ日置ヲ賜ルト云天文二年有親伏誅ノトキ日置ノ守タルトキハ中絶ノマタ領スルカ）忠良公日置ニ往キ五日明日伊集院ニ至リ忠兼公ニ謁シテ恩ヲ謝シ國政委任ノ約ヲ堅フス於是忠兼公忠良公ト共ニ鹿兒島ニ歸リ七日厚情日々ニ加ハル

忠兼公年二十四未嗣子ナシ忠良公ノ長子虎壽丸年十三容貌魁梧神采俊發ナルヲ聞キ養テ子トセンコトヲ欲ス村田越前守土持伊豆守梶原備前守ヲシテ忠良公ニ說カシム公辭スルニ忠兼公壯年他日子アランコトヲ以テ再三スレドモ聽カス止ムコトヲ得スシテ田布施（或伊作ニトス）ニ歸リ虎壽丸ヲ携テ復鹿兒島ニ至ル忠兼公大ニ歡ブ虎壽丸元服シテ又三郎貴久ト稱シ寵愛所出ニ異ナラス（傳云此時伊作ヨリ松崎飛彈守滿宮吉左衛門池上但馬折田淡路吉田肥前河越三左衛門從ヒ來リ忠ヲフクス）

○冬十二月忠良公帖佐ヲウツ初帖佐城主邊川筑前守（川上七郎左衛門祖ト云）貴久ニ黨シ本城新城（共ニ帖佐ノ地ニ）兵ヲ聚テ鹿兒島ヲ謀ル忠良公忠兼公ニ告テ軍ヲ發シテ吉田ニ次シ四日進テ帖佐城ヲ攻ル日七卯刻軍ヲ發ス　貴久カ族島津善左衛門尉援兵ヲ率シ來テ城中ニアリ總禪寺ヨリ高尾ニ出テ戰フ

忠良公ノ軍岩元壽齋兵ヲ接ヘ善左衛門ヲウツ城兵狼狽シテ退ク公ノ軍スヽンテ城下ニ至リ酉刻火ヲ放テ城ヲヤク邊川防禦ノ術ナク男女五百餘人命ヲ殞シ城ヲ陷イル島津昌久ヲシテ帖佐ヲ守ラシメ忠良公鹿兒島ニ還ル忠兼公功ヲ賞シテ伊集院ヲ忠良公ニ給フ比年ノ亂邑民離散シ田野荒蕪ス於見忠良公伊集院ニ至リ十二日田ヲ制シ農ヲ勸メ伊作谷山ノ民ヲ分テ爰ニ移シ（明年二月十八日）業ヲスヽメテ怠ラシム

七年丁亥

○夏四月十五日忠兼公位ヲ貴久公ニ讓リ伊作城ニ移ル初忠兼公ハヤク貴久公ヲ立テ躬ラ退テ閑暇ヲ樂マンコトヲ欲シ僧大應（福昌寺十三世）ヲツカワシテ忠良公ニ告ク公曰謹テ命ヲ奉ス我新ニ封ヲウクル處ノ地市來伊集院加治木帖佐公自撰ンテ閑居ノ地トセヨ大應反命ス忠兼公欲スル處四地ニアラス忠良公復云阿多高橋伊作田布施我祖先墳墓ノ地ナリトイヘドモ公ノ欲スル處命ニ從ハン忠兼公伊作ヲ乞於見位ヲ貴久公ニ讓リ清水城ヲ出テ船ヲ田ノ浦ニ發シ谷山ニ至リ明日十六日伊作城ニ移ル初忠良公來テ忠兼公ヲ逆ヘ從テ伊作ニ趣キ復鹿兒島ニ至リ貴久公ヲ輔テ國政ヲ行フ

○忠兼公伊作城ニ於テ髮ヲ削リ（四月二十九日）以テ國家ニ望ミナキヲ示ス忠良公モ髮ヲ削リ愚谷軒日新齋ト號ス（或云字ヲ湯盤ノ銘ニ取ル傳云忠兼公伊作ニ移ル之ヲ重代ノ器物許多ヲ貴久公ニ讓ル所謂生杉摺墨（島ノ陰玉曲器二ツニ納ル）佐々木高綱カ宇知川渡ノ鎧（黑皮威）生杉摺墨江附タル耶等ノ太刀ニ野太刀（七尺三寸）綱切ノ太刀方一寸阿彌陀（丹後局袋ヲ縋フ）頼朝公ノ旗等ナリ後ニ伊作城ニ置キ伊作士養夜警固ス　家久公ノ庄鹿兒島ニ移スト云）

○夏五月六日日新公帖佐ヲウチ大平六年十二月下野守昌久按ニ昌久日新公ノ女兄ヲ妻トス大田氏祖也傳ニ義弘慶長五年ニアリヲ封ス昌久性猜疑多シ伊地知周防介加治木ノ主ト謀リ日新公ニ叛ス公神速ニ軍ヲ發シ帖佐ヲ襲フ昌久軍敗レテ誅ニ伏ス公猶軍ヲスヽメテ加治木ヲウツ伊地知當ルヿ能ハス公ノ軍突進テ城ニ入リ周防介及ヒ新左衛門周防介子ヲ誅ス一日ニシテ二地帖佐加治木ヲ定ム時ニ實久ハ出水ニ在テ日新公ノ雄畧ヲ懼レヒソカニ反間ヲ用ヒテ忠兼公ニ說ク云奸計ヲ辨セズ實久ニ命メ　日新公ヲ討セシム實久歎シテ日置伊集院ヲ襲ハントス

○日新公加治木ニアリ曾ク地ノ利ヲ察シテ以爲帖佐加治木ノ二地ハ鹿兒城ノ藩籬トシテ要樞ノ地ナリ一旦賊爰ニ起ル片ハ水陸并ヒス、ンテ麑府タモチ難シ還テ忠兼公ヲスヽメテ居ヲ爰ニ移サハ勢相助ケ長久ノ計ナルヘシト船ヲ發シ戶柱鹿兒島ノ地ニ至ル時ニ小船數艘頻ニ往來メ事ノ急アルガ如シ審ニ問フテ其情ヲ得タリ　公大ニ驚テ曰我二心ナキヿ天地神明ノ識ル處ナリ速ニ伊佐ニ至リ忠兼公ニ見ヘテ赤心ヲ明カサン群臣ソノ害アランヿヲ慮テコレヲ止ム於是速ニ陸ニ上リ湯越ノ峯ヲ越テ田布施ノ城ニ入ル

○實久カ党スデニ鹿兒島ニ充ツ故ニ貴久公縞ニ從臣ト議シ夜ニ乘シテ清水城ヲ出ツ五月十五日山田伊豫守木脇大炊助川越民部左衛門長井善左衛門鏈田筑前守井尻九郎乳母宇多氏伊尻九郎之ニ從フ小野村園田清左衛門カ家ニ入ル賊追ヒ來ル清左衛門貴久公ヲ聖宮ニ隱シ從臣等ヲ山林ニカクス出テ詐言メ云クサキニ六七人粟野ヲ問テ北ニ向ツテ去ル賊等コレヲ信シテ走去ル按ニ清左衛門カ子孫新右衛門ニ至テ貧困ナリコレヲ嘆所ス吉貴公祖先ノ功ヲ以年俸八斛ヲ永ク賜フ於是清左衛門モ公ニ從ヒ山間ノ徑路ヲヘテ伊集院竹ノ山ニ入リ春山狩倉ヲ過テ柳カ谷伊作谷山ノ堺ニ出嶋貫ノホセヒ伊作ノ地ヲ登リ髮石日添ノ尾ヲ越野河路ヨリ金峰山ノ後ニ出テ辛苦シテ田布施ニ入ル日新公云ク貴久既ニ忠兼公ト父子ノ約アリ潛行シテ遲ルヽヿ道ニアラス速ニ伊作ニ至リ明ニ暇ヲ告テ前約ヲ變シテ歸リ來レト　貴久公又後平ヨリ湯元ヘ出テ伊作城ニ入リ忠兼公ニ謁シテ暇ヲ乞フ　公其義ヲ重シテ意ヲ決シテ來ルヲ悅ヒ告テ云ク我ニ秋毫ノ僞心ナシ只讒者ノ欺妄ニ因テ父子ノ情ニ違フノミ落涙シテ實ヲ設ケ陷ルヿ三日從者ヲシテ田布施ニ送リ還ラシム十八日於是實久忠兼公ヲシテ鹿兒島ニ還シ復ヒ位ニ卽シム二十一日

○夏六月十一日實久公師ヲキヒ伊集院ヲ襲フ城兵戰フテ利アラス遂ニ陷ラル

○秋七月二十三日日新公伊作城ヲ復ス先是忠兼公伊作ヲ去ルノ片軍ヲシテ城ヲ守ラシム實久密ニコレヲ奪ハンヿヲ謀ル日新公コレヲ察シテ云ク伊作ハ我世々領スルノ地タリトイヘ𪜈先ニ忠兼公ノ求メニ應メ是ヲ獻スヽミヤカニコレヲ取テ實久ニ備フベシト於是夜ニ乘シ兵ヲ卒シ石牟禮伊作之地妙見神社アリニ至リ隊伍ヲ整ヘ東城ヲ襲フ城兵利アラス退テ西城傳云市來ノ軍守ルヲ保ツ　日新公ノ軍追ヒ進ンテ攻擊ツ卯刻城陷ル公又伊作城ニ居ス傳云日新公今夜軍ヲ發ス時未タ二更ナラザルニ月既ニ金峰山小野山嶽上ニ出テ恰モ白日ノ如シ是天ノ助ナリト公ノ軍甚タ勇ム

亨祿元年戊子大永八年八月二十日改テ亨祿元年トス

○忠兼公勝久ト改メ稱ス

天文元年壬辰享祿五年七月二十九日改テ天文元年トス

○冬十一月北原民部少輔兼孝伊東大和守尹祐ト日州ニ戰フ兼孝救ヲ豐後守忠朝ニ求ム忠朝北鄕讃岐守忠相樺山美濃守廣久ニ議シテ軍ヲ發シ下河内ニ戰フ二十七日伊東カ軍潰ヘ亂ル忠朝等カ軍大ニス、ンテ八代長門守伊東一族ヲ殺ス伊東軍死スルモノ三百八十餘人尹祐野々美谷ヲ新納近江守忠勝ニアタヘテ退ク

二年癸巳

○春三月豐後守忠朝伊東尹祐ト日州三俣ニ戰フ尹祐敗走ス落合刑部丞伊東カ臣時ニ高城アリ叛シテ密ニ北鄕忠相ニ通ス忠相高城ヲ襲フ落合内應シテ城急ニ陷ル忠相入テコレヲ守ル於是梶山勝岡山之口共ニ伊東カ領悉ク城ヲステ、遁ル

○春三月二十九日日新公南鄕ヲ復ス初公南鄕ヲ忠兼公ニ給テ後桑波田孫六初南鄕ノ主ヲシテ是ヲ守ラシム於是孫六叛シ實久ニ黨ス日新公コレヲ討センヿヲ謀ル孫六能守テ間ヲ得ス盲僧了公伊作ノ人ニ命シ敵ノ動作ヲ聞カシム孫六衆ヲ率シ出テ城外ニ狩ス了公日新公ニ告ス一說伊作左衛門コレヲ聞テ告スト云公ヒソカニ軍ヲ發シ南鄕ヲ襲フ留守桑波田河内守式部少輔迎ヘ戰テ死ス城陷ル公兵ヲ遣ハシテ孫六ヲ追フ於是南鄕ヲ改メテ永吉ト号シ傳云此時日新公ノ軍悉ク獵夫ノ眞似ノ突進シテ城陷ルト云按ニ南鄕天文十六年ヨリ十九年ニ至ヲ右馬頭忠將領ス盛長九年中務太輔豐久ノ嗣子中務太輔忠榮ニ賜ヒテ今ニ傳領ス了公カ功ヲ賞シ宅地ヲ加世田按ニ此片未忠

其公ノ領ニ非ラス阿多ヲ誤ルカ田布施伊作高橋ニ賜テ盲僧ノ長トス傳云盲僧ハ比叡山ノ末流ニシテ天台ヲ宗トス山中志野尾之妙音寺ニ登テ官ニ任ス後廢懶ノ盲僧官ニ任セス

忠久公國ニ入ルノヿ盲僧寶山檢校頼朝公ノ命ニ因テ從來テ伊作中島ニ居ス世々相繼テ十三代淵脇壽長院ニ至ル南鄕ニ功アルト云按ニ了公後ニ薩長院ト云乎家村家ノ記ヲ按ニ了公伊作ニ居ス初家村重實ト云六代ノ孫今ノ家村彦左衛門コレナリ或記ニ云伊作田尻村了公寺ニ了公ヲ葬リ石塔アリ今興國寺ト云十五世長倉常德院元和五年八月家久公伊作ヨリ鹿兒島ニ召テ宅地及ヒ金明王ノ本尊ヲ賜ヒ且地神堂ヲ造立ノ賜フ夫ヨリ相傳テ今ノ淨樂ニ至ル亦上古ニ盲僧淨破薩州ニ來リ頭娃ニ居シ末流今ニ存ス又盲僧信清妙音天ヲ守護シ賢山ト同ク來リ高尾野ニ居ス末流存加久藤三德カ傳義弘公ノ傳ニアリ

○勝久公比志島河田按ニ飛彈守義秀ナルベシ皆房村ヲ領ス駿河守義耶カ父ナリ比志島河田其先源ノ爲義ノ三男志田三郎先生義憲ニ出ツ義憲ノ二男村上三郎左衛門尉頼重ト云信州ニ住ス故有テ薩州ニ配流セラル滿家部司長平カ女ヲ妻テ男子ヲ生ス上總法橋榮尊ト云頼重敎ヲ得テ信州ニ歸リ榮尊外祖父長平ノ讓ヲ得テ滿家院ヲ領ス數子アリ長ヲ比志島太郎佐証ト云比島氏ノ祖ナリ二ヲ西俣彌三郎盛忠（傳云西俣彌三郎郡山ノ内西俣ヲ領ス後ニ伊集院氏ニ奪ハル是レヨリ伊集院ニ屬ス又蒲生家ニ謂フ弘治年間蒲生沒落ノ時入來ニ移住ス其後鹿兒島ニ移ル）ト云西俣氏ノ祖ナリ三ヲ河田右衛門佐盛佐ト云川田氏ノ祖ナリ四ヲ城前田榮秀五ヲ邊牟木榮嶷ト云子孫アリ盛佐（河田ヲ領ス弘安中蒙古寇スルノ片壹岐島ニ功アリ其孫伊豫守義尹元久公ニ從テ將軍ニ見ユ歸テ安養寺ヲ小山田ニ立ツ其子掃部介義立大川寺ヲ河田ニ立ツ其孫ヲ義祐ト云二子アリ長ハ三郎太郎義清ト稱ス忠國公ノ片肥後國津奈木ニ卒ス子孫甚四郎國輔是ナリ次ハ卽立昌也兄ニ嗣テ河田ヲ領ス五世ニシテ駿河守義朝ニ至ル義久公ニ仕テ功アリ其裔伊織國福是レナリ

久公ヲ發フテ子トスルノ時寶器許多綱切ノ太刀頼朝公ノ旗等ナリ前ニ出ツヲ讓リ今既ニ父子ノ交ヲ絕ツ何ソ重器ヲ留テ已カ有トスルヤ日新公云ク器物ニ至テハ父子ノ誓約ニ預ルヘカラス一度人ニ與ヘテ返サンヿヲ求ルハ禮ニアラス二使復命ス勝久公猶求テ止マス日新公怒曰既ニ侯奸ニ誤ラレ前約ヲ變シ信ヲ失フノミニアラス又寶ヲ貪テ義ヲ忘ル君猶强テ求メハ我止ムヿヲ得ス兵庫ヲ以テ平原廣野ニ會シテ後コレヲ返サン

○秋八月十四日園田後藤兵衛潛ニ告テ曰實久永吉ヲ襲ントス日新公卽チ貴久公ヲシテ永吉城

ニ入テコレニ備ヘシム實久コレヲ知ラス鹿兒島ノ軍ヲ卒シ永吉城野頸ヲ壘フ　日新公五十餘兵ヲ卒ヒ急ニスヽンテ其後ヲウツ貴久公ノ軍城中ヨリ突出シテ其前ヲウツ　實久前後顧ルヿ能ハス數十余人ヲ擊タレ漸ク遁レテ鹿兒島ニ歸ル

○先是日置城主山田刑部少輔有親モ又實久ニ黨スヽ日新公ノ武威日々ニ盛ナルヲ見テ大ニ恐怖シ日置ヲ獻シテ降ル　公コレヲ免シ山田ニ移ラシム然レヒ彼カ降レルハ其情ニアラス故ニ後ノ患ヲ慮リ人ヲシテ有親ヲ佛坂（伊作ノ地ナリ）ニ誅セシム（八月二十四日○按ニ日置ハ山田氏世々領スルノ地ナリサキニ日新公日置ヲ忠兼公ニ封セラレ山田氏龜城主タル片ハ桑波田氏カ初南郷ニ主トシ日新公ノ爲ニ猫南郷ヲ守ルカ如キカ大永六年十一月之分註ト考スヘシ）

三年甲午

○春閏正月七日　島津豐後守忠朝（日州飫肥福島ノ主ナリ豐州家三代ノ三俣八郎ト稱ス享德二年四月廿九日北郷讃岐守持久薩ニ移リ寛正六年ニ至リ十三年居ス明應四年（或云文明十八年）伊東尹祐日州山之口梶山勝岡野々美谷ヲ掠取ル豐後守朝守朝昌公ニ皆テ且ク高城ヲ伊東ニ與フ三十九年ヲヘテ天文二年北郷忠相忠朝ト共ニ高城ヲ攻ム落合内應シテ城陷リ忠相入テコレヲ守ルト云トキハ尹祐亦高城ヲ復スル乎　忠朝コレヨリ勢ヲエテ續テ志布志（初櫛井縄仲領ス島山國明ニ賜フ七世傳領ノ近江守忠勝ニ至ル天文八年七月二十六日忠勝沒落ノ忠朝コレヲ領ス二十一年ヲヘテ永祿五年肝付者釣掠取ル）末吉（後ニ三百五十町ヲ貴久公ニ獻ス）梅北（後梅北八十町ヲ北郷持久ニ與フ）安樂松山（傳云是ヨリ後天文八年三月二十九日大崎貴久公ニ屬ス同四月廿一日安樂設樂降ル七月廿五日忠朝ノ士平田新左衛門松山城ヲ取ル忠朝ノ孫忠親ニ至テ平山越後守忠智コレヲ守ル永祿二年四月十四日忠智志布志ニ趣ク肝付者釣半途ニコレヲ殺シテ松山城ヲ陷ル忠智カ子右馬介久武次郎四郎久次力戰シテ死スヲ幷セ領シ勢ヒ遠近ニ振フ文九年三月三日七十五歳ニシテ卒スソノ子忠廣封ヲ襲フ）

○冬十月二十五日　川上大和守昌久（川上家十代初彦三郎ト稱ス）末弘伯耆守（子孫川邊ニ住シテ末弘五郎左衛門ト云フ）ヲ谷山皇德寺（貞治五年創立開山無外圓照和尚ト云寺傳云和尚ハ皇子タルカユヘニ皇字ヲ以寺号トス曹洞宗福昌寺ノ末寺ナリ山ヲ永谷山ト号ス按ニ皇統紀皇子禪僧タルナシ）ニ殺ス初勝久公末弘及ヒ小倉武藏（子孫小倉四郎左衛門也）碇山竹内等ノ佞臣ヲ親ミ忠良ヲ遠ケ政事人臨ニ背ク故ニ昌久等ノ舊臣十六人上書シテ諫レヒ聽カス末弘等昌久ヲ讒ス昌久等社稷ノ傾覆センヿヲ悲ミ歎テ伯耆守ヲ谷山皇德寺ニ殺ス勝久公恐怖シテ根占ニ走ル群臣等諫レヒ猶豫シテ還ラス

四年乙巳

○勝久公密ニ鹿兒島ニ歸リ川上昌久ヲ殺ス（昌久ノ墓吉野一本杉ニアリ）於是先ニ諫ル處ノ十餘人罪ノ及ハンヿヲ恐レ身ヲ退ケテ言ヲ避ク勝久公ノ勢益孤ナリ實久時ノ至レルヲ悅ヒ軍ヲ卒シ鹿兒島ニ入リ村市ヲ焚クヿ七日火光焰々トシテ晝夜ヲワキマヘス勝久公隅州帖佐ニ走ル實久鹿兒島ニアリテ横逆度ナシ　公又遁レテ般若寺（吉松ニアリ）ニ至リ北原邪答院二氏ノ托庇ヲ求ム又去ツ都城ニ適ク北郷家ニ寓シ八九年ヲ經テ豐後國ニ適キ（按ニ母公大友氏ナルカユヘニコレニ至ル乎）沖濱ニ居ス

天正元年癸酉（天文二十四年十月廿三日改テ弘治元年トス四年二月廿八日改テ永祿元年トス十三年四月廿三日改テ元亀元年トス四年七月廿八日改テ天正元年トス）

○冬十月十五日　沖濱ニ薨ス享年七十一　大翁妙運ト謚ス（後綱貴公神主ヲ隆盛院ニ立ツ按ニ勝久公四男二女アリ第一ハ女子十三歳ニシテ卒メ母ハ實久ノ姉ナリ二ハ益房丸後ニ修理太夫忠良ト稱ス天文四年七月五日鹿兒島北城ニ生レテ九十四日ニシテ公帖佐ニ走ル母ハ稱猴式部太輔重就女ナリコヘニ益房丸ヲ懷テ稱猴ニ入ルガ七歳ニシテ伊東修理太夫義祐ニ據ル後國ニ歸リ元和四年十一月二十二日八十四日ニシテ卒ス高山昌林寺ニ葬ル三ハ又六郎久孝ト云フ男子アリ豐後乱ニ他邦ヘ走ル四ハ女子大友家ノ一之塞トナル江戸ニ卒ス五ハ又四郎ト云フ豐後乱ニ他邦ヘ走ル六ハ宗後ト云フ兄又四郎ノタメニ殺サル忠良ノ子長ヲ又

三郎貞久ト云永祿五年生ル十七歳ニシテ龍久公ノ命ニ由テ僧トナル甘於耶念佛寺十世ノ住持タリ忠貞ノ二男モ亦僧トナル正圓ト云天正十九年大守公ノ命ニ由テ還俗シ藤野久右衛門秀久ト稱ス後ニ除髮シテ恕世ト云我邦君ノ重器八幡十ノ太刀般若ノ劍宗近ノ太刀血吸ノ劍ヲタヘテ恕世ニアリ悉タ太守公ニ献ス世々ノ重器トナル恕世六世ノ孫藤野久左衛門コレナリ忠貞ノ三男ヲ虎房丸ト云後鄰山又衛忠貞ト稱ス季子タリト雖兄ニ人僧トナルガ故父ニ忠貞ノ後トナル六世ノ孫鶴山長太夫是ナリ今ヤ年條百二十五裏ヲ賜フ

謹而按ニ　勝久公國家衰亂ノ時ニアタリ賢ヲ撰ンテ委任シ退テ閑ヲ樂シム嘉遯ノ貞吉ナルニ庶幾シ如何セン欺キヲ奸諛ニウケ讒ヲ狹猾ニ信スルヿヲ忠貞ヲ屏斥シテ憑姦自怙ム國祚ノ危懼小魚釜中ニ遊ヒ薄氷ノ白日ヲ待カ如シ遂ニ生土ヲ安ンセス他邦ノ塵ト化シテ遯尾トナリ厲シテ用レ有レ攸レ往長大息スベシ

西藩野史卷之九終

西藩野史卷之十

○貴久公

相摸守忠貞公第三之子也長女肝付河内守兼續室次女樺山安藝守善久ノ室　母ハ島津薩摩守成久薩州家ノ女永祿十六年癸亥十二世一月九日逝ス寛庭芳宥大姉ト謚ス伊集院梅岳寺ニ神主墓アリ　永正十一年甲戌五月五日薩州田布施城ニ生ル一既伊作城ニ生ト云幼字虎壽丸ト稱ス天文四年伊作城ニ元服シ又三郎貴久ト號シ後ニ三郎左衛門尉ト改ム

天文五年丙申

○春三月日新公一宇知城伊集院ヲ陷ル先是大永六年十二月勝久公伊集院ヲ忠貞公ニ給フ八郎左衛門尉貞久コレヲ掠メ取ル大永七年五月十一日町田中務少輔久用ニ命シテ一宇知城ヲ守ラシメ長崎砦ヲ土橋勘解由左衛門神殿ヲ否笠有屋田關某石谷伊賀守按ニ町田氏其先忠時公之七男常陸介忠經ニ出忠經ノ三男町田五郎太郎忠元ト号ス是レ町田氏ノ祖ナリ世々伊集院ノウチ石谷ヲ領ス忠經十一世ノ孫ヲ出羽守高久ト稱ス氏ヲ改メテ石谷ト稱ス十五世長門守忠榮ニ至テ町田氏ニ復ス二十五世ノ孫町田主計久張コレナリ　竹ノ山ヲ肥後助西ニ命シ其外福山大迫等ニ砦ヲ築キ軍ヲ聚テ勢ヲ助ク依之　日新公貴久公及ヒ右馬頭忠將初又四郎政久ト稱ス日新公ノ次男年十七一千餘兵ヲ率シ一宇知城ヲ陷ル三月七日

○秋九月二十三夜伊集院大和守忠朝日新公ノ老中ナリ幸侃カ祖父也大田原ヲ襲ヒ取ル土橋勘解由左衛門保チガタキヲ計リ自ラ火ヲ放テ長崎壘ヲ燒出テ軍門ニ十一月廿八日降ル明日　公師ヲヒキイテ神殿ニ至ルニ日暮レ雨降テ前後ヲ辨ヘス時ニ物アリ路傍ニ起ル初ハ熒々トシテ螢ノ如シ須臾ニシテ炎々トシテ炬火ニ等シ　公ソ前路ヲ照ス諸軍便ヲ得テ神殿ニ至ル傳云是稻荷明神ノ助ナリト諸軍勇ムト云否笠

等其神速ナルニ恐怖シテ戰ハスシテ降ル

○冬十二月七日石谷伊賀守日新公ニ降ル

六年丁酉

○春正月十七日日新公竹之山ヲカコミ攻ム入來院彈正忠重聰貴久公夫人ノ父也師ヲヒキヒテ是ニ會ス日新公ノ軍益勢ヲ得テ竹ノ山ヲ攻擊ツ守將肥後助西以下十余人力戰シテ死ス福山ノ賊遁レ去リ大迫ノ賊戰ハスシテ降ル公全ク伊集院ヲ復ス於是鹿兒島谷山ノ實久カ徒悉ク川邊ニ退ク二月七日

○春二月十一日本田親兼隅州濟水ノ主紀伊守忠親子虛ニ乘シテ東條出羽守ヲ將トシテ鹿兒島ニ入リ神社佛寺ヲ破リ寶ヲ奪テ歸ル

○日新公　貴久公公伊集院ヨリ鹿兒島ニ入土民簞食壺醬シテコレヲ迎フ或說云今年日新公鹿兒島犬迫ニ陣ス實久來戰フ園田某約ヲ定テ其後チウフ實久破テ走ル公ノ軍追テ小野柴野ノ西坂ニ至テ數十人ヲ斬ル實久益々亂レテ退ク公ノ軍大ニ利ヲエ手鞍ヲ打テ歌舞スユヘニ役ヲ鞍ノ筒ト云今茶園ト云實久ハ鹿兒島ヲ出テ谷山ニヲモムクト云　吉田谷山モ亦公ニ屬ス

○夏四月上旬實久加世田ニアリ阿多田布施ヲ襲ハンコヲ謀ル　日新公鹿兒島ニ在リテ以爲今ヤ封內爭亂萬民業ヲ安ンゼス生見ルニ忍ス不若實久ト和シテ百姓倒懸ノ難ヲ救ハント親ラ加世田ニ至リ五月上旬實久ニ會シ和ヲ議シ且ツ曰加世田川邊ノ地ハ阿多田布施ニ隣リテ爭亂起リヤスシ鹿兒島伊集院吉田谷山ノ四地ヲ以テコレニ替ヘ共大平ヲ樂マンコト亦善ラズヤ實久聽ス丁寧反復ストイヘ𪜈實久カタク執テ從ハス　公空シク田布施ニ歸リ其變ニ備フ實久其備アルヲ見ケ出水ニ歸ル

七年戊戌

○春正月三日北鄕讃岐守忠相庄內財部伊東大和守領スヲ陷ル

○夏五月朔日島津豐後守忠朝夏非新納忠勝領スヲ陷ル

○冬十二月十九日日新公加世田ヲ襲フ萬瀨川阿多加世田ノ堺鎭守ノ渡ヲワタル加世田軍鵜塚加世田益山村ノ內ニ逆ヘ戰フ公ノ軍利アラス親ラ乱軍ノ中ニアリテ衆ヲ指揮シ是ヲ激スルニ死ヲ以テス肥後掃部左衞門井尻四郎左衞門宮原隼人諫テ曰匹夫ト爭テ死ヲ輕クスルハ良將ニアラス早ク退テ後ノ勝ヲ全フセヨ言終テ敵軍ニ突入テ戰死ス此間ニ公ハ危難ヲ免レ軍ヲ田布施ニカヘシテ復加世田ヲ襲ンコヲ謀ル松崎大藏滿留鄕八左衞門共ニ伊作ノ士夜每ニ加世田ニ入テ虛實ヲ察ス十二月廿九日城兵出テ家ニ歸ル二士歸テ　公ニ告ス於是日新公軍ヲ分ツ二ツ其一ハ　公貴久公ト將タリコレヲ大手トス一ハ右馬頭忠將々タリコレヲ搦手トス夜ニ乘シテヒソカニ加世田ヲ襲フ時ニ蜘蛛ノ瑞アリ見軍ニ勝兆也ト將軍大ニ勇ム傳云此片阿多ノ立本ニ阿多田布施伊作高橋ノ軍ヲ集メ日新公床机ニカヽリテコレヲ見ル捷軍ノ後コヽニ諏方明神ヲアガメタツ夜半花瀨ヲ越川畑林加世田ノ地ノ邊路ヲ過キ別府城本城ナリ日新ノ寺ノ前ニ在リヲ襲フ城兵粉骨碎身シテ防戰フ忠將ノ軍スヽンテ城ニ登ル傳云公ノ軍中窓松左京亮城兵大山宮內少輔ト力戰ノ死ス阿多飛彈守町田家ノ庶流ナリ日置士阿多新之丞ノ祖守將內藏介ヲ斬ル諸軍樵ニ乘シテ攻入ル曙ニ至テ城陷ル殘兵

新城ニ遁ル　公ノ軍進ンテ新城ヲカコム谷山藤左衛門吉留善左衛門勇ヲ振ヒ突出シテ戰死ス（傳云城兵豐德某妻子ヲ城外ニ出シ己ハ城ニ入テ死ス）大寺越前守加賀守鎌田山田川邊ノ軍ヲ卒シ來テ新城ヲ援フ　貴久公數十人ヲ分テ是ニアタル敵其後ヲ斷テ圍ミウツ危キヿ云ヘカラス忠將援ヒ來リ激戰シテコレヲ敗ル（傳云貴久公軍市來備前守猿渡興市左衛門稅所助十郎本田九郎蒲生地神刀左衛門同左衛門四郎等戰死ス）鎌田大寺敗潰シテカヘル於是加世田五城幾クナラスメ　日新公ニ屬ス三十九年ニシテ祖父ノ仇ヲ報スルヿヲ悅フ（按ニ河内守久邊加世田ニ戰死ス傳ニ云此ハ運久入道一瓢齋軍ヲ領シ阿多ヲ出加世田ニ趣ク既ニ夜明正月元日ナリ則府城陷ルヿヲ聞テ半途ヨリ帰ル諸軍阿多城ニ登テ捷軍ト元旦トヲ賀ス一瓢公青黃糸ノ鎧ヲ着山鳥鹿毛ノ馬ニノルユヘニソノ像ヲ畫テ正月元旦阿多ノ士コレヲ拜ノ今ニ恒例ス）

八年己亥

○春三月　日新公貴久公谷山ヲ定ム先是賓久谷山ヲ掠取リ神前城ヲ（一說和田城トモ云和田ニアリ）谷山駿河守伊集院山城守松崎丹後守河野太郎左衛門通能（苦辛城ヲ皇徳寺ノ西ニアリ）平田式部少輔ニ守ラシム　日新公谷山ヲ復センコトヲ謀リ河野ガ弟和泉守通吉（日新公ノ近臣）ニ命シテ通能ニ通セシム通能密ニ命ヲ挙シ神前城ヲ陷テ　公ノ軍ヲ納ソフヲ謀ル務覺ス賓久通能ヲ城中ニ自殺セシム（傳云邑人通能ヲ十一面觀音トス石像今ニ存ス坂ノ下ニアリ邑人ノ云古ハ城ノ西ノ原ニアリ野火其所ヲ燒クユヘニ後ニ堂ヲ移ス石像破損ス木像ヲ以テコレニ代フト石像モ亦堂内ニ納ム家ノ傳記ヲ考フルニ通勝能久公ノ命ニ由テコノ城ニアリ弟通吉　日新公ニ近侍スユヘニ疑ハレテ勝久自刃ヲ賜フ子アリ伊勢松丸ト云ヒニ九歲家人抱キ去テ通吉ニヨル　日新公ニヨリカヘ名ヲ又九郎ト賜フ後ニ筑後通榮ト云フ天正十四年筑前國岩屋城ニ戰死ス）今年賓久谷山ニアリ貴久公鹿兒島ニ入紫原ニ軍ス三月十三日賓久襲ヒ至ル　公親ラ先登シ軍ヲ督シテ是ト戰フ賓久敗走スル平田式部少輔賓久ニ背キ密ニ　公ニ通ス　公苦辛城ニ入ル（三月十四日）兵ヲ本城（慧現寺ノ北ニ在リ）ニ屯シテ神前越ヲ攻メントス谷山駿河守等ノ三將風ヲ臨テ降ル（三月廿四日）賓久黨河邊ニ退ク　日新公追テ河邊ニ至リ故殿ニ陣ス（三月二十八日）鎌田加賀守（河邊高城ノ主）城ヲ出テ降ル一族治部左衛門カ妻子ヲ出シテ質トス（傳云賓ヲ田布施城ニ遣ル）納伊勢守友義代テ高城ヲ守ル　公猶軍ヲスヽム本城亦降ル友義又コレヲ守ル　日新公本城ニ入（四月一日）（傳云安房介宗茂トモ云宮村ノ内牧ノ城ニ居シ後ニ卒ス同所西山寺ノ南ニ葬ル墓ヲ貴曳常現居士ト云）此時河邊全ク　日新公ニ屬ス

○夏閏六月十七日　貴久公平城（市來ニアリ）ヲ陷ル入來院石見守重聰種子島加賀守惠時稱寐肝付伊地知蒲生顯娃某等援兵ヲ卒シ　貴久公ニ會ス進ンテ市來城ヲ攻ム（傳云島津越前守新納常陸介市來城ニアリテ賓久ニ歎ス城兵出テ大日寺口湯田口ニ戰フ喜入攝津守忠俊樺山安藝守善久蒲生宮内大輔等先登シテ其前ヲ攻メ右馬頭忠將大軍ヲ卒シ其後ヲ攻ム城兵力窮マリ守將越前守常陸介和ヲ乞フテ城ヲ降リ諸軍遁レ去ル串木野城主川上彦三郎（按ニ大和守昌久子久隅カ後ニ上野介入道廚署ト云）イマタ弱冠ニ滿タス賓久ニ黨ス市來ノ陷ルヲ聞キ孤立シガタキヲ慮リ質（篠原氏幼童）ヲ獻シテ降ル（四月廿八日一說川上上野介忠克守ニ串木城ニ賓久ニ屬ス貴久公ノ鎧風ニ傳キ麾下ニ降レ嫡男虎德丸公ニ屬ス）

十一年壬寅

○種子島加賀守惠時（隅州種子島ノ主種子島家十四代）其子左近太夫時直ト快カラス直時稱寐氏ヲ乞テ父ヲ攻ントス稱寐軍ヲ卒シテ種子島ニ至ル（三月廿三日）然ヒ計策違フヿアリ戰ワスシテ歸ル直時マタ援

ヲ貴久公ニ求ム　公新納伊勢守友義ニ[illegible]ヲツカワシ父子ヲ和睦セシム友義騎士三十歩兵百餘ヲ卒ヒ薩州坊津ニ綬ヲ解キ（閏三月六日）明日屋久島ニ至ル惠時密ニ爰ニ來リ友義ニ會シテ云屋久永良部種子ノ三島ヲ獻シテ罪ヲ謝セン友義曰　貴久公ハ厚ク信義ヲ守リ仁愛ヲ本トス利ヲ好ミ土地ヲ貪ルノ君ニアラス我ヲツカハシテ父子ヲ和シ長ク先祖ノ領土ヲ失ワス（按ニ四郎左衛門尉信式種子島ヲ相朝公賜テヨリ惠時ニイタリテ十一世コレヲ傳ヘ領ス）能ク公ニ仕テ忠孝二ツナカラ全フセシム惠時大ニ悅フ友義又旨ヲ直時ニ諭ス父子耻悔テ云殊恩渥德心ニ貫キ骨ニ鏤メ（チリバ）神明ニ誓テ永ク忘レシ友義薩州ニ歸ル

○夏日新公隅州加治木城ヲ攻ムコレヨリサキ伊地知周防介コレヲ領ス　公勝久公ノ命ヲ奉テ討ス（亦ハ勝久公傳大永七年ニ在）大永ノ乱ニ北原民部少輔兼孝墾ヒ取ル後肝付越前守兼演（按ニ肝付主殿島伯ノ祖也）又コレヲ掠取ル傳云加治木ノ内ニ三ケ村ヲ領シ其子彈正兼盛ニ彈正ト稱ス（イタリテ全クコレヲ領ス故ニ加治木彈正ト稱ス）於是　日新公鹿兒島ニ至リ隅州生別府國分小濱ノ上ニ航シ軍ヲ整テ加治木ニ向フ北原兼孝（眞宰院ノ主）來テ公ノ軍ヲ助クス、ンテ加治城ヲカコム兼演ヨク軍ヲ指揮シ突出テフルヒ戰フ兩軍相挑テ死生ヲ顧ス北原ガ軍敗レ北原周防介澁谷兵庫助及ヒ從兵七十餘人戰死ス兼孝眞幸ニ退ク兼演カ軍大ニ振フ　公ノ軍一人ヲ損セストイヘ氏城ノ陷カタキヲ計リ兵ヲ收テ生別府ニ歸ル機會ニ乘シ本田紀伊守薫親（隅州濟水ノ主）來テ生別府ヲ侵ス兵勢甚疾シ　二公樺山安藝守善久ト議ス云敗軍ノ後軍威未霽ハス假ニ此地ヲ薫親ニ與ヘ時ヲ待ニハ如シト僞テ和ヲ約シ去テ鹿兒島ニ退（傳云大永六年樺山美濃守信久生別府ニ移リ其子善久ニ至リ今年本田ニ與フ天文十七年貴久公本田ヲ征シ生別府ヲ陷レ沖濱大野原ヲクワヘ改テ長濱ト号シ復善久ニ賜フ）

○秋八月南蠻國ノ賈人百餘人大船ニノリテ種子島ニ來ル語音通セス島主種子島兵部丞時堯（加賀守惠時ノ子也）出テコレヲ見ル一人陸ニ上ル時堯杖ヲ以テ砂上ニ書シテ何人ソト問フ彼レモ亦書シテ曰大明ノ儒生五峰便ナリ適南蠻國ノ賈人ノ船ニ乘テ爰ニ來ルトキニ蠻賈ノ長巨良叔舍鉄砲ヲ發ツ本朝未ク鉄砲ヲ知ラス聞者大ニ驚ク時堯其利器ナルヲ悅ヒ幣ヲアツクシテ其術ヲ求ム叔舍鐵砲三挺ヲ時堯ニ與ヘ其術ヲ教ユ於是時堯一挺ヲ　貴久公ニ献ス又其術ヲ紀州根來寺ノ僧杉ノ坊ニ傳フコレヨリ鉄砲ヲ傳ヘ習フテ本朝ニ流布ス（按ニ本朝通記鉄炮傳來天文八年トスルハ非也）

十二年癸卯

○先是（天文十年）伊東修理太夫義祐（日州佐土原ノ城主）カ臣長倉上野同能登兄弟義祐ニ叛テ島津二郎三郎忠廣（日州飫肥福島ノ主豐州家四代也豐後守忠朝ノ子後ニ右馬頭豐後守ト稱ス）ニ通ス忠廣三十餘兵ヲ卒シ河南ニ出テ（八月二十八日）田野石塚長峯ニ屯ス義祐大軍ヲ卒ヒ曾井清武ニ軍ス進テ火柱ニ戰フ（九月三日）忠廣ノ軍利アラス（傳云新納式部少輔忠鄕同孫四郎忠常日置美作守平田筑前守瀬戸口濱兵衛以下數人戰死）長倉能登守戰死シ上野逃亡ス忠廣引テ飫肥ニ歸ル年ヲ越テ（天文十一年）義祐瀬平ニ陣シテ飫肥ヲ攻ントス忠廣鵜戸山ニ築キテコレヲ防ク義祐軍ヲ進テ烏帽子形ニ陣シ鵜戸山ヲ攻ルヿ甚急ナリ忠廣ノ軍防禦シテ今年ニ至ル義祐猶軍ヲ班サス三月十八日終ニ鵜戸山ヲ陷ル忠廣ノ一族家臣死スルモノ數ヲシラス大友左馬頭義鑑（豐後大守按ニ大友氏其先田原藤太秀鄕八世ノ

孫島田二郎景賴ニ出ツ其孫豐前守能直賴朝公ニツカヘテ封ヲ豐州ニウク二十一世ヲ經左兵衛督義統ニ至テ國除セラル僧定惠院ヲ造シテ和ヲ說ク忠興キカス定惠院ナムシク豐後ニ歸ル義祐モ亦軍ヲ班ス

○夏五月十一日　北鄕讃岐守忠相北鄕氏八代　日州志和地城北原狼孝領ス　ヲ陷ル初北原民部少輔兼孝日州眞幸院主　伊東義祐ニ與シ相共ニ高城庄內ナリ享德二年ヨリ寬正六年ニ至テ十三年北鄕讃岐守持久コヽニ居ス　野々美谷按ニ應永元年樺山美濃守音久ニ賜フ大永元年ニ至テ樺山家コレヲ領ス其後伊東掠メ取ル乎　山ノ口勝岡梶山志和地財部山田等ヲ略ス忠相島津忠廣ト是ヲ復セントヲ謀リ軍ヲ發シテ高城梶山勝岡山之口野々美谷ヲ陷ル傳云天文七年正月三日豐後守忠朝北鄕忠相ト高城ヲ陷ル梶山勝岡山之口ノ軍戰ハスメ走ル忠朝進テコレヲ取ル同十一年六月十六日伊東義祐軍ヲ發ノ烏越ニ陣ス北原後孝志和地ニ屯ノ共ニ高城ヲ攻ム忠相城ヲ出テ諏方ノ馬場ニ戰ヒ利ヲ得タリ忠相ノ士北鄕二郎右衛門等戰死ス義祐兼孝引テ皈ル同十一年八月廿日忠相又義祐兼孝ト小山川原ニ戰フ亦利ヲ得タリ北原カ部下志和地城主白坂下總以下數百人ヲウチトル兵勢大ニ振フ義祐其敵シ難キ慮リ同十二月十六日野々美谷ヲ忠相ニアタヘ烏越ノ陣ヲ拂テ佐土原ニ皈ル今年正月忠相山田城兼孝領スヲ襲フテコレヲ拔ク正月二十四日　忠相スヽンテ志和地城兼孝領ス　陷ル爰ニ於テ敵ニ侵サルヽ處ノ地全ク復スルヿヲ得タリ豐州北鄕兩家ノ威漸ク盛ナリ

十三年甲辰

○夏山田加賀守忠廣傳云山田氏其先忠時公ノ長男式部少輔忠繼ニ出ツ忠繼ハ側室ノ生ム處ナリユヘニ立ス薩藩牛屎院同州谷山ノ內山田上別府ヲ領ス山田ニ任ノ氏トス將軍家ニツカヘ勳功ノ賞トノ越中ノ國フスマヘノ保ヲ賜フ忠廣ハ忠繼八世ノ孫ナリ初三郎四郎ト云出羽守忠尙入道聖榮ノ子ナリ　隅州市成ヲ　貴久公ニ獻ス肝付氏ニ給フ按ニ聖榮自記文明十四年聖榮八十五歲トス後ニ至テ六十四年一說ニ山田出羽守忠時肝付カ亂ニ賊ニ與ノ市成ヲ除セラルト云忠時ハ忠廣ノ曾孫ナリ世祿肥ニ加賀守忠廣市成ヲケンス肝付某カ忠節ヲ顯テ是ヲ與フト云私云年序ヲ以テ考レハ恐クハ忠廣ニ非シ一說ヲ正トセンカニ說既ニ肝付氏ノヿヲ云片ハ忠時肝付家ニ侵サレ止ムヿヲヱスシテ　公ニ獻ス即肝付家ニ賜フ乎可考

十四年乙巳

○春正月廿六日　伊東義祐復飫肥ヲ侵サントヲ謀リ水之谷飫肥ノ東ニ軍ス忠廣一族武藏守忠隅三百余人ヲ卒シ鬼ケ城ヲ守ル二月十四日　義祐飫肥ノ衆寡ヲ察シ軍ヲ分ツテ鬼ケ城ヲ圍ミ自ラ二千余兵ヲ卒シ飫肥ニ入テ市來ヲ放火シ城ヲ圍ム新納近江守忠勝入道栖嵐新納家八代　忠廣ノ急ヲ聞テ志布志ヲ發シ晝夜ヲ分タス來リ救フ城兵突出シ夾ミウツ義祐軍敗レテ水之谷ニ退キ鬼ケ城ヲ攻ルヿ甚タ急ナリ忠隅支ユルヿ能ハス遁レテ飫肥ニ歸ル二月二十九日　義祐鬼ケ城ヲ取ル鄕之原城代羽島某忠廣ニ叛ヒテ義祐ニ降ル

○三月島津二郎三郎忠廣北鄕讃岐守忠相等　貴久公ヲ立テ太守公トス初國家爭亂ノ間勝久公鹿兒島ヲ去テ後按ニ公天文四年鹿兒島ヲ出翌年都城ニ至リ八九年ヲ經テ豐後ニ趣クト云フトキハ都城ヲ出ルハ天文十二三年ナルベシ　國ニ主ナフシテ亂逆止ムヿナシ於是忠廣忠相等コレヲ嘆キ太守ヲ立タンヿヲ議シテ曰　貴久公ハ公室ノ胄ニシテ既ニ勝久公養フテ子トストイヘ臣佞臣ノ爲ニ妨ケラレ其約ムナシ今ヤ伊集院コアリ春秋方ニ富ム公今年三十一度量寬弘兼テ文武ノ才アリ此人ヲ立ハ撥亂反正國家ノ太平目ヲ拭テ待ツベシ衆コレニ同ス於是忠廣忠相伊集院ニ至リ三月十三日ナリ按ニ天文五年公伊集院ヲ昭レテ是ニ移ル同十九年十二月鹿兒本御內ニ移ル本田按ニ二氏貴久ノ舊臣等ニ議メコレヲ立ツ於是　貴久公太守ノ任ニ卽キ　日新公コレヲ輔佐シ絕タルヲ繼キ廢レタルヲ起シ大ニ善政ヲ施スコレヲ十五代中興ノ大守ト稱ス三月十八日也太敬大臣近衛植家公近衛家十六世龍山公ノ父也遙ニ是ヲ聞キ日野左太辨ヲ遣シ衣冠ヲ給フテ是ヲ賀ス